

**本庄2号遺跡・薬師堂東遺跡(第1・第2地点)・
御堂坂4号墳**

2013

本庄市教育委員会

序

本庄市はかつて中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また国学者塙保己一誕生の地として広く知られているところです。そうした豊かな歴史的背景と文化的風土をもつ本庄市は、また多くの貴重な埋蔵文化財に恵まれ、市内には旧石器時代から近代に至るまで、多様な遺跡が分布しています。

本書に報告する本庄2号遺跡と薬師堂東遺跡は、本庄台地の北端に沿って立地する集落遺跡で、とくに薬師堂東遺跡の調査では、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居が、きわめて高密度に分布していることが明らかとなりました。また、集落としての規模が非常に大きく、存続期間も500年余りに及ぶことが想定されており、本庄地域の中核的な古代集落遺跡のひとつといえます。

また、御堂坂4号墳は、今回の調査で、埴輪を有し、横穴式石室を備えた6世紀後半の円墳であることが判明いたしました。御堂坂古墳群は、これまでに行われた御堂坂1号墳や御堂坂2号墳の調査結果から、7世紀に形成されたものと認識されていましたが、このたびの調査によって、形成の初源が6世紀まで遡ることが明らかとなり、古墳群造営過程の究明に、新たな知見を加えることができました。さらに、御堂坂古墳群と薬師堂東遺跡は至近の位置にあり、また年代的にも重なりが見られることから、この二つの遺跡の密接な関係が推測されるところです。

本書に報告されたような貴重な文化遺産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちに与えられた責務であり、歴史を解明し、学ぶことは、よりよい未来を築くための手掛かりとなるものです。今後は、本書が学術研究の発展に資するとともに、一般にも広く活用され、郷土史への関心や埋蔵文化財への理解が一層深められることを願ってやみません。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた関係諸機関、直接調査の労にあたられた皆様に心よりの御礼を申し上げます。

平成25年3月

本庄市教育委員会

教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市小島字石神境に所在する本庄2号遺跡、日の出4丁目に所在する薬師堂東遺跡第1・第2地点ならびに日の出3丁目に所在する御堂坂4号墳第1・第2地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、市道の歩道新設、市道改良工事ならびに本庄市立東中学校の施設建設工事に伴い、記録保存を目的として、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査地点ごとの調査期間、調査面積、調査原因および調査担当者は以下のとおりである。

- ・本庄2号遺跡

調査期間 自 平成2年12月17日 至 平成2年12月28日

調査面積 16㎡

調査原因 市道201号線歩道新設工事

調査担当者 太田博之

- ・薬師堂東遺跡第1地点

調査期間 自 平成4年3月17日 至 平成4年4月2日

調査面積 160㎡

調査原因 本庄市立東中学校コンピューター教室建設工事

調査担当者 太田博之

- ・薬師堂東遺跡第2地点

調査期間 自 平成9年6月26日 至 平成9年7月11日

調査面積 211㎡

調査原因 本庄市立東中学校柔道場建設工事

調査担当者 増田一裕

- ・御堂坂4号墳第1地点

調査期間 自 平成3年11月11日 至 平成3年12月20日

調査面積 260㎡

調査原因 市道6186、6190号線改良工事

調査担当者 長谷川勇

- ・御堂坂4号墳第2地点

調査期間 自 平成5年2月12日 至 平成5年2月23日

調査面積 190㎡

調査原因 市道6191号線改良工事

調査担当者 太田博之

4. 整理調査期間は以下のとおりである。

自 平成23年4月1日 至 平成25年1月14日

5. 整理調査および本書の執筆・編集は本庄市教育委員会文化財保護課太田博之が担当した。
6. 本書に掲載した遺構実測図、遺構写真撮影、土層注記は各発掘調査担当者が行った。

7. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関する資料は本庄市教育委員会において保管している。

8. 発掘調査から整理、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。

ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

昆 彭生 坂本和俊 外尾常人 金子彰男 中沢良一 丸山 修 丸山陽一

9. 本報告の発掘調査、整理調査および報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

・発掘調査

教 育 長 坂本敬信 (平成2年度)
塩原 暁 (平成3・4・9年度)

事 務 局 長 金井善一 (平成2～4年度)
中村 勝 (平成9年度)

社会教育課長 坂上英夫 (平成2～4年度)
中島正和 (平成9年度)

課 長 補 佐 吉田敬一 (平成2～4年度)
中村文男 (平成9年度)

文化財保護係長 長谷川 勇 (平成2～4年度)
増田一裕 (平成9年度)

文化財保護係 増田一裕 (平成2～4年度)
太田博之 (平成2～4年度)
赤尾直行 (平成2～4年度)
佐藤好司 (平成3・9年度)
関根君江 (平成9年度)

・整理調査および報告書編集・刊行

教 育 長 茂木孝彦 (平成23・24年度)

事 務 局 長 関和成昭 (同)

文化財保護課長 金井孝夫 (同)

副 参 事 兼 鈴木徳雄 (同)
課 長 補 佐

課 長 補 佐 兼 太田博之 (同)
埋 蔵 文 化 財 係 長

埋 蔵 文 化 財 係 恋河内昭彦 (同)
大熊季広 (同)
松澤浩一 (同)
松本 完 (同)
的野善行 (同)

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は、世界測地系に基づく。各遺構における方位針は、座標北を示す。
2. 本書所収の各種遺構名称は、下記の記号で示し、本書掲載の本文、挿図、写真図版中の遺構名称も、同一の記号で記述した。

SI…住居

SK…土坑

SD…溝

3. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、原則的に以下のとおりである。

[遺構図]

SI… 1/60

SI カマド… 1/30

SI 貯蔵穴… 1/30

SK… 1/80

SD… 1/80

[遺物実測図]

土師器… 1/4

土製品… 1/4

縄文土器… 1/4

4. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
5. 住居断面図のスクリーントーンのうちストライプは地山のローム層を、網は貼床層を示す。
6. 観察表中の単位は、法量はcm、重さはgである。()内の数値は推定値を示す。
7. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行1/50,000「本庄」、位置図は本庄市都市計画図1/2,500に加筆したものをを用いた。
8. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 遺跡の環境	
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	2
II 本庄2号遺跡の調査成果	
1 調査の方法	5
2 調査の概要	5
3 住居	6
III 薬師堂東遺跡第1地点の調査成果	
1 調査の方法	7
2 調査の概要	7
3 住居	7
4 土坑	22
5 溝	25
6 グリッド出土遺物	25
IV 薬師堂東遺跡第2地点の調査成果	
1 調査の方法	27
2 調査の概要	27
3 住居	27
4 溝	48
5 遺構外出土遺物	49
V 御堂坂4号墳の調査成果	
1 調査の方法	50
2 調査の概要	50
3 遺構	50
4 遺物	55
VI 結 語	59
文献	
写真	

挿図目次

図1	埼玉県の地形	1	図31	薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 出土遺物	32
図2	周辺の遺跡	3	図32	薬師堂東遺跡第2地点 SI-3 出土遺物	32
図3	本庄2号遺跡の位置	4	図33	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4・5 平面図および 断面図	33
図4	本庄2号遺跡 SI-1 平面図	5	図34	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(1)	34
図5	本庄2号遺跡 SI-1 断面図	6	図35	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(2)	35
図6	薬師堂東遺跡第1、第2地点の位置	8	図36	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(3)	36
図7	薬師堂東遺跡第1地点全体図	9	図37	薬師堂東遺跡第2地点 SI-5 出土遺物	37
図8	薬師堂東遺跡第1地点 SI-1 平面図および 断面図	10	図38	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6・7・8 平面図 および断面図	38
図9	薬師堂東遺跡第1地点 SI-1 出土遺物	11	図39	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 カマド平面図 および断面図	39
図10	薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 平面図および 断面図	13	図40	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 出土遺物	39
図11	薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 貯蔵穴平面図 および断面図	14	図41	薬師堂東遺跡第2地点 SI-7 出土遺物	40
図12	薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 出土遺物	14	図42	薬師堂東遺跡第2地点 SI-8 出土遺物	40
図13	薬師堂東遺跡第1地点 SI-3・4・5 平面図 および断面図(1)	16	図43	薬師堂東遺跡第2地点 SI-9・10・11 平面図 および断面図	41
図14	薬師堂東遺跡第1地点 SI-3・4・5 断面図(2)	17	図44	薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 出土遺物	42
図15	薬師堂東遺跡第1地点 SI-3 出土遺物	18	図45	薬師堂東遺跡第2地点 SI-11 出土遺物	42
図16	薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 カマド平面図 および断面図	18	図46	薬師堂東遺跡第2地点 SI-12・13 平面図 および断面図	43
図17	薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 出土遺物	19	図47	薬師堂東遺跡第2地点 SI-14・15 平面図 および断面図	44
図18	薬師堂東遺跡第1地点 SI-6 平面図および 断面図	20	図48	薬師堂東遺跡第2地点 SI-14 出土遺物	45
図19	薬師堂東遺跡第1地点 SI-6 出土遺物	21	図49	薬師堂東遺跡第2地点 SI-15 出土遺物	45
図20	薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 平面図および 断面図	21	図50	薬師堂東遺跡第2地点 SI-16・17・18 平面図 および断面図	46
図21	薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 貯蔵穴平面図 および断面図	21	図51	薬師堂東遺跡第2地点 SI-16 出土遺物	47
図22	薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 出土遺物	22	図52	薬師堂東遺跡第2地点 SD-1 平面図および 断面図	49
図23	薬師堂東遺跡第1地点 SK-1～6 平面図 および断面図	22	図53	薬師堂東遺跡第2地点 遺構外出土遺物	49
図24	薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物	23	図54	御堂坂4号墳第1・2・3地点の位置	51
図25	薬師堂東遺跡第1地点 SD-1 出土遺物	25	図55	御堂坂4号墳第1・2・3地点の全体図	52
図26	薬師堂東遺跡第1地点 グリッド出土遺物	25	図56	御堂坂4号墳第2地点 墳丘部平面図および 断面図	53
図27	薬師堂東遺跡第2地点全体図	28	図57	御堂坂4号墳第2地点 周堀部平面図および 断面図	54
図28	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1・2・3 平面図 および断面図	29	図58	御堂坂4号墳第2地点 出土遺物(1)	55
図29	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 カマド平面図 および断面図	30	図59	御堂坂4号墳第2地点 出土遺物(2)	56
図30	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 出土遺物	31	図60	御堂坂4号墳第2地点 出土遺物(3)	57
			図61	御堂坂4号墳第2地点 出土遺物(4)	58

写真目次

写真1	本庄2号遺跡 SI-1 検出状況	[東から]	写真3	薬師堂東遺跡第1地点 SI-1 出土遺物
	本庄2号遺跡 SI-1 検出状況	[北から]	写真4	薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 出土遺物
	本庄2号遺跡 SI-1 検出状況	[北東から]		薬師堂東遺跡第1地点 SI-3 出土遺物
	本庄2号遺跡 SI-1 検出状況	[南西から]		薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 出土遺物(1)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況	[南西から]	写真5	薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 出土遺物(2)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況	[北東から]		薬師堂東遺跡第1地点 SI-6 出土遺物
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況	[北東から]	写真6	薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物(1)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況	[北東から]	写真7	薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物(2)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 検出状況	[東から]		薬師堂東遺跡第1地点 SD-1 出土遺物
写真2	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 検出状況	[南から]	写真8	薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 出土遺物
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4・7・8 検出状況	[西から]	写真9	薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 出土遺物
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 検出状況	[西から]		薬師堂東遺跡第2地点 SI-3 出土遺物
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 検出状況	[西から]		薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(1)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-6・7・8 検出状況	[西から]	写真10	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(2)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 検出状況	[北から]	写真11	薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(3)
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-14 検出状況	[北西から]		薬師堂東遺跡第2地点 SI-5 出土遺物
	薬師堂東遺跡第2地点 SI-15 検出状況	[西から]	写真12	薬師堂東遺跡第2地点 SI-8 出土遺物
				薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 出土遺物
				薬師堂東遺跡第2地点 SI-11 出土遺物
				薬師堂東遺跡第2地点 SI-14 出土遺物
				薬師堂東遺跡第2地点 SI-15 出土遺物
				薬師堂東遺跡第2地点 SI-16 出土遺物(1)
			写真13	薬師堂東遺跡第2地点 SI-16 出土遺物(2)
				薬師堂東遺跡第2地点遺構外出土遺物

I 遺跡の環境

1 地理的環境

本書で報告する三遺跡は、いずれも本庄台地の北縁沿いに立地している。本庄市は埼玉県の北西部に位置し、東側は深谷市および児玉郡美里町と、西側は児玉郡神川町、南側は秩父郡皆野町および長瀨町、北西側は児玉郡上里町、北側は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市と接している。

市内の地形は、南西部の山地および丘陵、中央部に相当する児玉市街地から本庄市街地にかけての台地、北東部の利根川右岸に展開する低地に大別される。山地部分は、上武山地と呼称され、群馬県西南部の赤久縄山を中心とする地域と、埼玉県北西部の標高1,037mの城峯山を主峰とする山地の総称であり、南東から北西方向へと展開している。

丘陵部は上武山地の裾部から北東方向へと半島状に延び、児玉丘陵と呼称されている。この児玉丘陵の延長には、第三紀系の生野山丘陵・大久保山丘陵が断続的に延びている。台地部は、身馴川扇状地と神流川扇状地の複合地形であり、本庄台地と呼称されている。身馴川扇状地は群馬県藤岡市浄法寺付近に扇頂点をとり、北西側を生野山・大久保山丘陵に、南東側を松久丘陵および櫛引台地によって画されている。また、台地端部の上里町金久保付近から本庄市鶴森にかけては、明瞭な崖線を形成している。現在、この崖線は、一部が河川の浸食を受けているが、本来は直線状を呈し、深谷断層の延長部にあたると推測される。本庄台地の北側には沖積地が広がり、利根川の氾濫による自然堤防の発達が顕著で、下流域の妻沼低地、加須低地へと連続している。

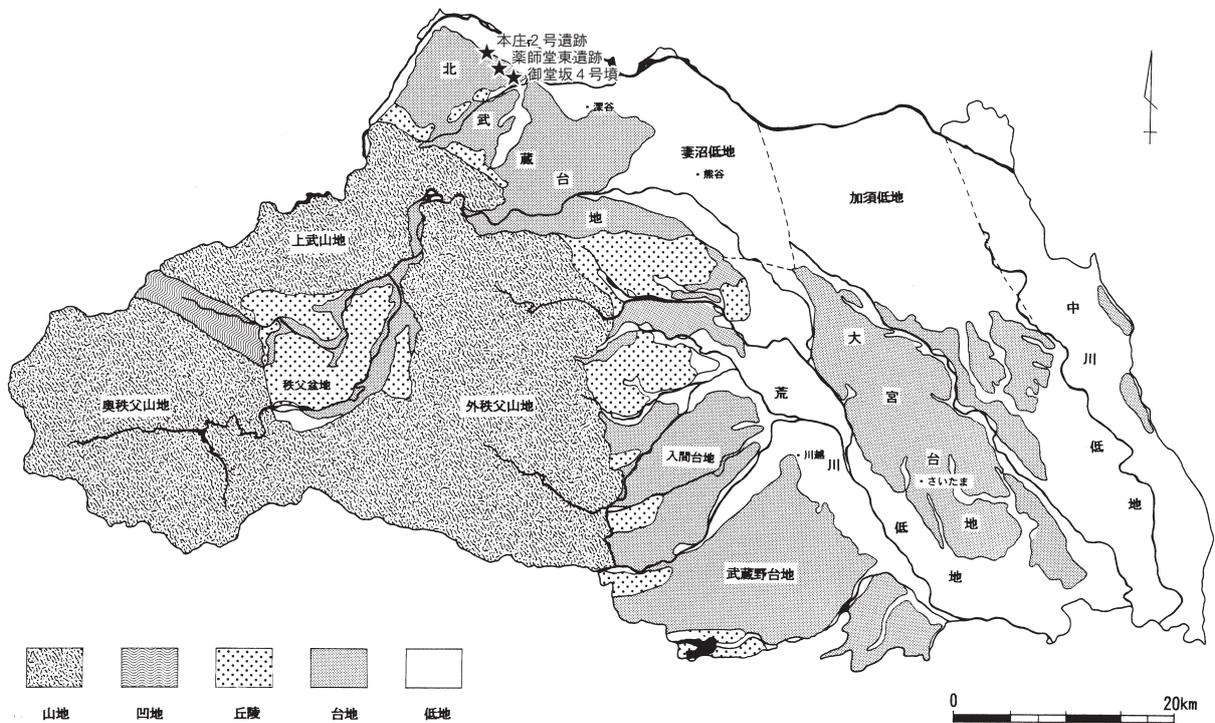


図1 埼玉県の地形

2 歴史的環境

本書で報告する遺跡のうち本庄2号遺跡および薬師堂東遺跡は、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡、御堂坂古墳群は古墳時代後期から終末期にかけて群集墳として知られている。本節では、周辺に展開する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡と古墳を概観し、歴史的環境の理解としたい。

古墳時代の集落遺跡

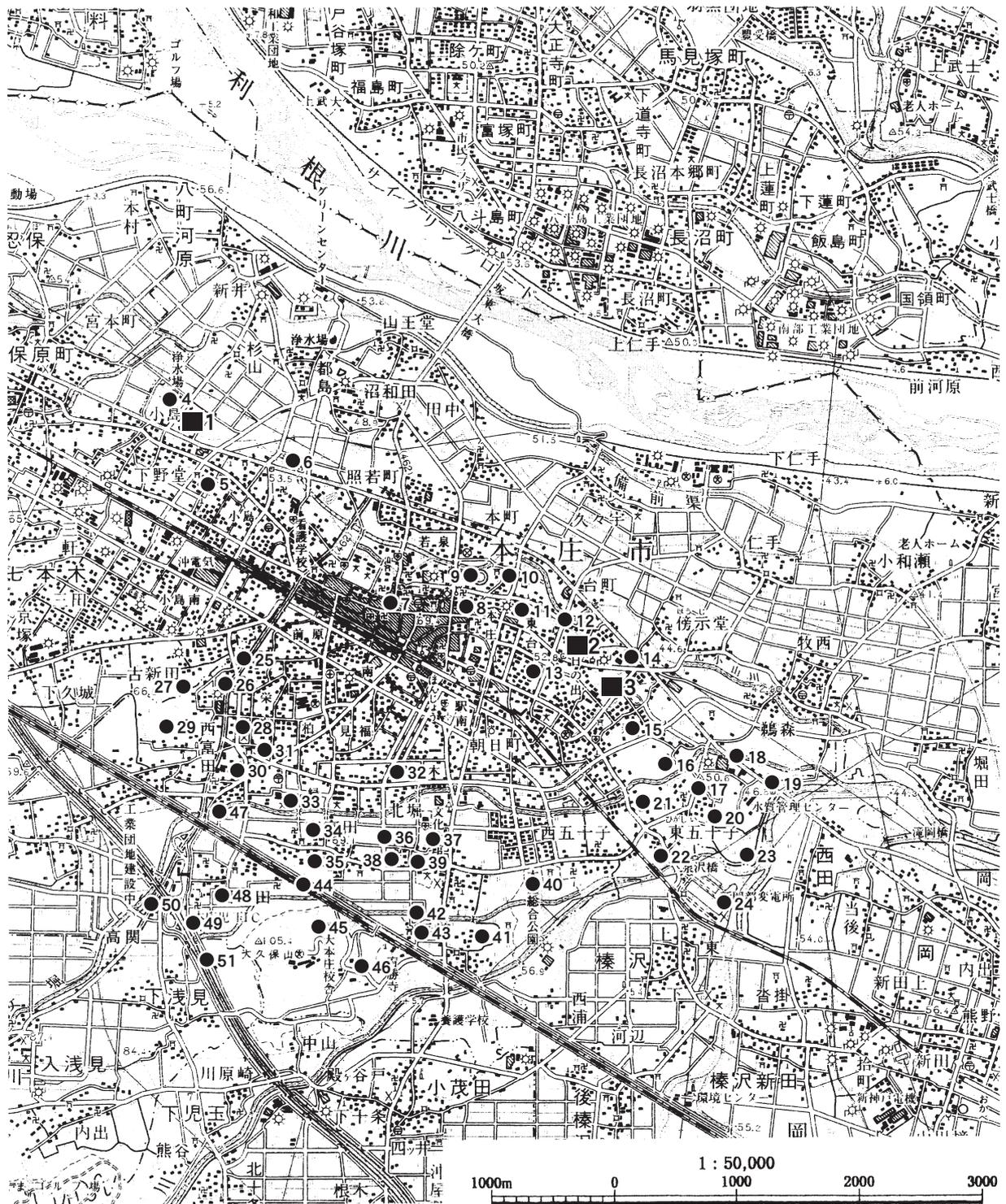
古墳時代前期の集落には、西五十子古墳群（40）、北堀新田遺跡（37）、久下東遺跡（36）、久下前遺跡（38）、七色塚遺跡（35）、下田遺跡（44）、後張遺跡（49）、飯玉東遺跡（51）、川越田遺跡（50）等があげられる。このうち後張遺跡は古墳時代前期から中期にかけて中核的集落として知られている。古墳時代中期から終末期にかけては、前期から継続する集落のほか、女堀川左岸の微高地および台地内奥部に、新たに展開する集落が出現する。これらの集落遺跡には、東五十子田端屋敷遺跡（23）、九反田遺跡（47）、四方田遺跡（48）、笠ヶ谷戸遺跡（32）、雌濠遺跡（33）、二本松遺跡（25）、夏目遺跡（28）、社具路遺跡（30）、薬師元屋舗遺跡（31）、西富田新田遺跡（29）、夏目西遺跡（26）、弥藤次遺跡（27）、諏訪新田遺跡（15）、城山遺跡（8）、小島本伝遺跡（6）等が知られ、一集落内における住居軒数も一段と増加している。また、これらの集落のなかには、夏目遺跡のように、鍛冶関連遺物や畿内系土器・朝鮮半島系土器を模倣した地元産土師器などが検出され、西日本方面との交渉または彼地からの人間の移住を想定しうる例も見られる。

奈良・平安時代の集落

奈良・平安時代になると一部の集落は、台地北端から連続している低地帯内の微高地状にも進出する。古墳時代中・後期から継続する集落に、東五十子田端屋敷遺跡（23）、薬師元屋舗遺跡（31）、小島本伝遺跡（6）などがある。また、御堂坂遺跡（14）、薬師堂遺跡（12）、本庄飯玉遺跡（13）、天神林Ⅱ遺跡（11）、天神林遺跡（10）、石神境遺跡（4）は古墳時代終末期以降、奈良・平安時代にかけて新たに成立してくる集落である。なお、石神境遺跡は、本庄2号遺跡とともに、この時期あらたに台地下へ展開する集落で、その初現は7世紀後半頃と推定されている。

古墳の分布

御堂坂古墳群の所在する本庄台地北縁部では、同時期の集落の間隙を埋めるように、東から東五十子古墳群（20）、鵜森古墳群（16）、北原古墳群（7）、旭・小島古墳群（5）が分布している。このうち、東五十子古墳群は、典型的な古式群集墳で、小規模な円墳からなる密集度の高い群を形成している。また、旭・小島古墳群は、現在わずかに数基を残すにすぎないが、これまでの調査によって前方後円墳・帆立貝形古墳・方墳を含む150基以上の古墳が確認されている。造営期間も、古墳時代前期から終末期までの長期にわたり、県内を代表する古墳群のひとつとして知られている。豊富な石製模造品を副葬する万年寺つつじ山古墳、笑う盾持人物埴輪を出土した前の山古墳、直径70m以上の規模を有する大型円墳であった三壘山古墳など個別にも注目される古墳が多い。さらに、本庄台地南東縁辺部に西五十子古墳群（40）、大久保山丘陵上に大久保山古墳群（46）、女堀川に沿った台地奥部の微高地上に東富田古墳群（34）が分布している。また、大久保山丘陵の北東斜面には、宍勝寺裏埴輪窯跡（42）が所在している。操業年代は古墳時代後期後半で、5基以上の埴輪窯跡が良好な状態で保存されている。



- 1 本庄2号遺跡 2 薬師堂東遺跡 3 御堂坂4号墳 4 石神境遺跡 5 旭・小島古墳群 6 小島本伝遺跡
- 7 北原古墳群 8 城山遺跡 9 本庄城跡 10 天神林遺跡 11 天神林Ⅱ遺跡 12 薬師堂遺跡 13 本庄飯玉遺跡
- 14 御堂坂遺跡 15 諏訪新田遺跡 16 鶴森古墳群 17 東五十子赤坂遺跡 18 東五十子城跡遺跡 19 五十子陣跡
- 20 東五十子古墳群 21 西五十子大塚遺跡 22 西五十子台遺跡 23 東五十子田端屋敷遺跡 24 六反田遺跡
- 25 二本松遺跡 26 夏目西遺跡 27 弥藤次遺跡 28 夏目遺跡 29 西富田新田遺跡 30 社具路遺跡 31 薬師元屋舗遺跡
- 32 笠ヶ谷戸遺跡 33 雌濠遺跡 34 東富田古墳群 35 七色塚遺跡 36 久下東遺跡 37 北堀新田遺跡 38 久下前遺跡
- 39 北堀新田前遺跡 40 西五十子古墳群 41 東本庄遺跡 42 宍勝寺裏埴輪窯跡 43 宍勝寺北裏遺跡 44 下田遺跡
- 45 浅見山Ⅰ遺跡 46 大久保山古墳群 47 九反田遺跡 48 四方田遺跡 49 後張遺跡 50 川越田遺跡 51 飯玉東遺跡

図2 周辺の遺跡

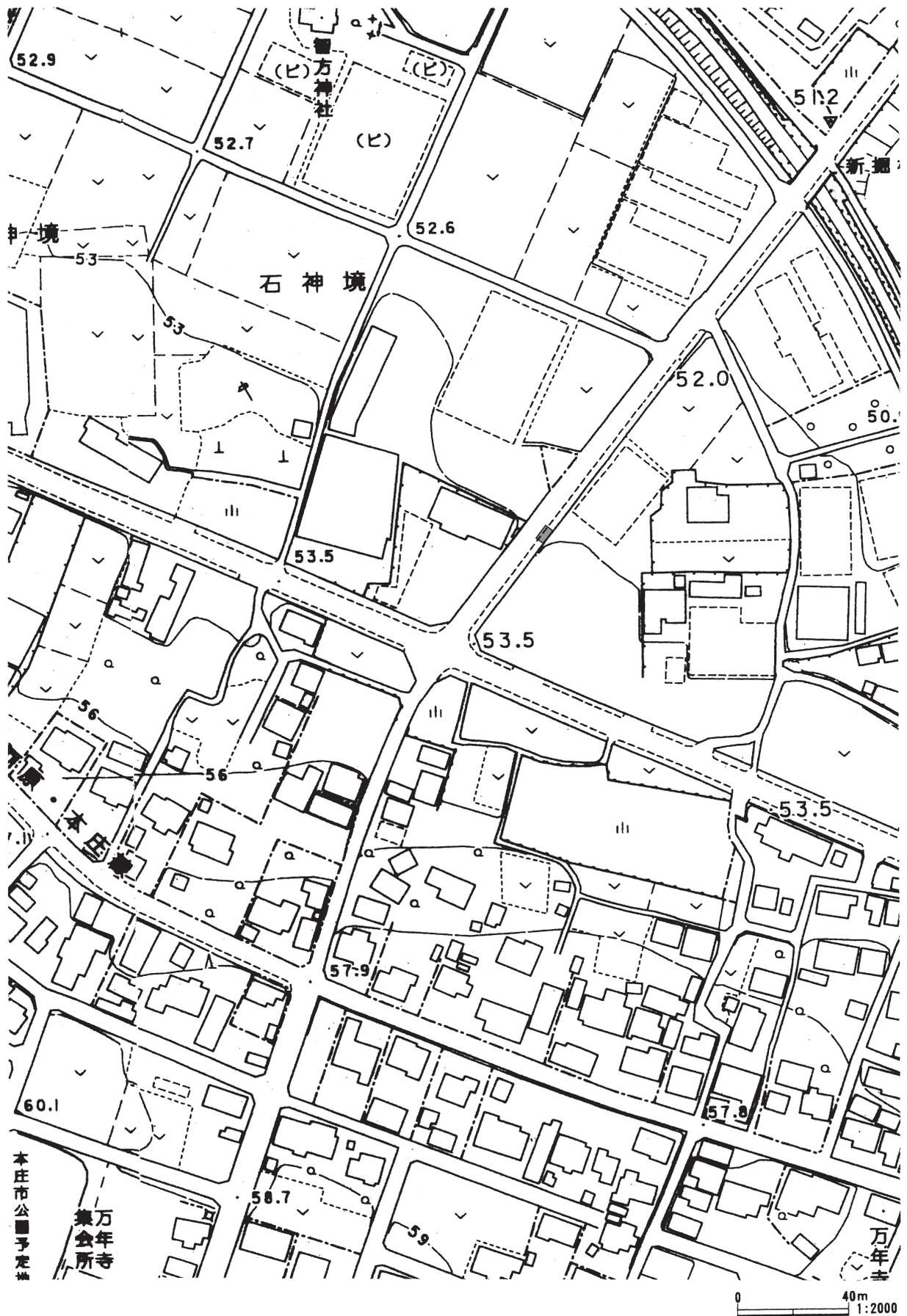


図3 本庄2号遺跡の位置

II 本庄2号遺跡の調査成果

1 調査の方法

本節に報告する本庄2号遺跡の発掘調査は、市道201号線の歩道新設工事に伴い、記録保存を目的として実施したものである。事前の試掘調査結果から、確認面はローム層上面であることが判明していた。表土は遺構確認面の直上まで重機により掘削したのち人力で遺構を確認した。現地での各種実測作業は、調査区の長軸に沿って2本の杭を設定し、座標および水準を取り付け、これを基準として行った。

遺構調査は土層観察用のベルトを残し、覆土の堆積状況を確認しながら人力で進め、住居跡の竈については、適宜断ち割りを行って記録をとった。遺構平面図・土層断面図はすべて1/20を基本として作成した。写真撮影は35mmモノクロームを使用した。

2 調査の概要

遺跡は台地の裾部にあって、周辺の地形は南から北へわずかな傾斜を有しており、明確な境界は存在しないものの、当遺跡の北方に展開する水田地帯に対して明らかな比高差を有する。検出した遺構は住居1基である(図4)。基本土層は、現代の耕作土層下に、暗褐色土層、黒色土、ローム層の順で堆積が見られ、遺構確認面はローム層上面である。出土遺物にはめぐまれないが、覆土に混入したわずかな土師器片から、住居の時期は古代に属すると推測される。

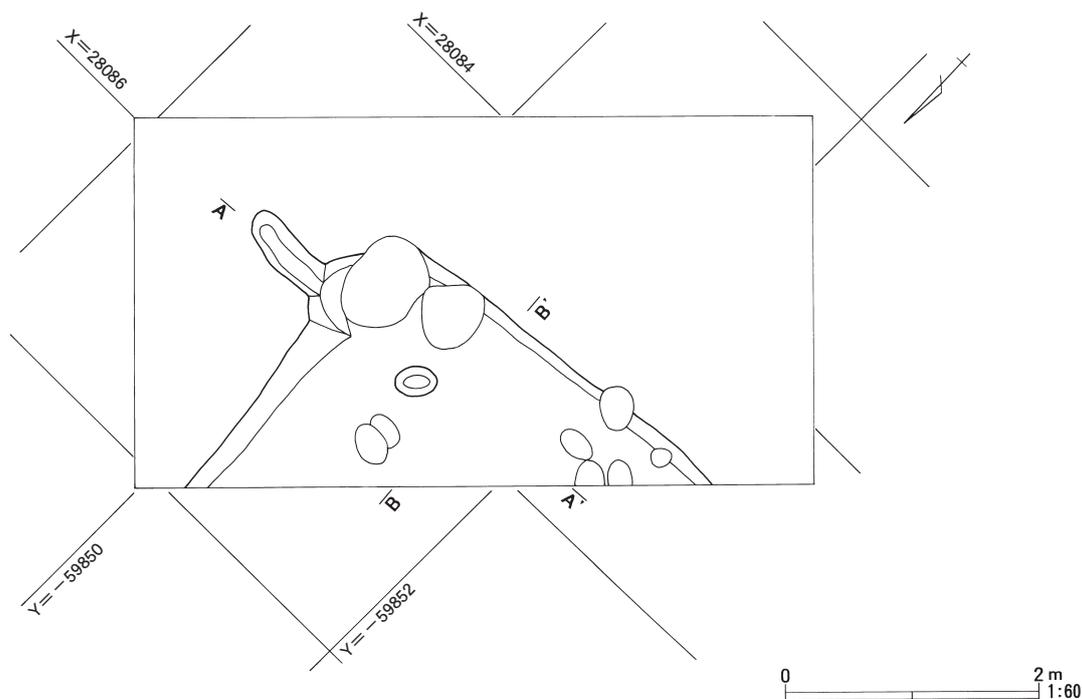
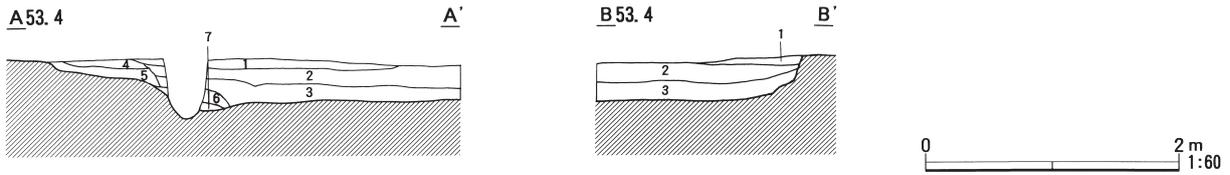


図4 本庄2号遺跡 SI-1 平面図



SI-1 土層説明

- | | |
|--|---|
| <p>1 暗灰褐色土 白色パミス（径1mm以上）を少量含む。し
まり強。</p> <p>2 黒褐色土 しまり強。</p> <p>3 黒褐色土 褐色粘質土ブロック（径1～20mm）を少量
含む。しまり強。</p> <p>4 暗褐色土 焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
しまり強。</p> | <p>5 黒褐色土 炭化物ブロック（径1～3mm）を少量含
む。しまり強。</p> <p>6 黒褐色土 褐色粘質土ブロック（径1～5mm）、焼土
ブロック（径1～10mm）、炭化物ブロック
（径10mm以上）を少量含む。</p> <p>7 暗褐色土 炭化物ブロック（径1～20mm）を多量に含
み、斑状を呈する。粘性強、しまり強。</p> |
|--|---|

図5 本庄2号遺跡 SI-1 断面図

3 住居

発掘調査に先立って実施された試掘調査は、歩道新設工事の予定範囲に沿って、南北100mほどの長さにわたって行われたが、各所に近世以降の土坑・桑の根ないしその抜痕が所在し、確認できた遺構は本住居1基のみである。調査区の西方には、当遺跡と同じく、台地裾部の微高地上に立地する石神境遺跡の存在が知られている。この石神境遺跡は、7世紀半ば以降、9世紀にかけて展開する集落遺跡であり、本住居も同集落の東縁の一角を占める遺構と言えるかもしれない。

なお、本遺跡の確認面であるローム層の直上には、黒色土層の発達が見られたが、同層には著しく摩滅した土師器小破片が多量に含まれている。有機質を比較的多く含むことが考えられ、またAs-Aの混入が認められないことから、この黒色土層は、近世初頭以前の耕作土であった可能性が高い。摩滅した土師器の小破片を多量に含む黒色土は、利根川沿いの低地帯における発掘調査の際に、しばしば認められている。ローム層の上位に所在した古代以前の集落遺構が、後代の耕作により反復的に攪拌を被った結果だろう。

SI-1（図4・5）

形状・規模：やや隅丸の方形をなし、南辺では3m以上の規模を有するが、全体の形状、規模は不明である。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-90°-Eを示す。**覆土**：確認面まで近世の土坑に切られている。1層は近世の土坑の覆土であり、住居本来の覆土は、2層および3層である。上層から床面まで、覆土全体が著しく硬化している。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層をそのまま床面としており、貼床は伴わない。**柱穴**：竈の正面に、浅い小土坑が確認されたが、柱穴とは認定し難い。**施設**：南東隅に竈が付設されている。煙道は地山ローム層を掘り込んでほぼ真東に70cmほど延びる。燃烧部は北側が攪乱を免れているが、明瞭な竈構築土は検出できなかった。竈燃烧部の最下層には、7層とした炭化物ブロックを多量に含む暗褐色土の堆積が見られたが、粘性に富み、かつ硬化している。その上層にわずかに残る6層は、褐色粘質土や焼土のブロックを含む黒褐色土で、竈構築土の残滓と見てよいかもしれない。貯蔵穴・壁溝は認められない。**出土遺物**：遺物は、覆土上層から土師器の小片を若干量検出している。いずれも確認面直上の黒色土層中に含まれる土器片と同様に、著しく摩滅した小破片であり、本住居に伴うものではない。覆土中層から床面にかけては、ほとんど遺物がなく、本住居の帰属年代の判断は難しいが、竈が隅角に近接した位置にあることから、平安時代まで下る可能性が高い。

Ⅲ 薬師堂東遺跡第1地点の調査成果

1 調査の方法

本節に報告する薬師堂東遺跡第1地点の発掘調査は、本庄市立東中学校コンピュータ教室建設に伴い、記録保存を目的として実施したものである。事前の試掘調査結果から、遺構面は1面のみで、確認面はローム層上面であることが判明していた。表土は遺構確認面の直上までを重機により掘削したのち人力で遺構を確認した。遺構調査は、要所に土層観察用のベルトを残し、覆土の堆積状況を確認しながら人力で進めた。住居の竈やその他プラン確認の困難な箇所については、適宜断ち割りをを行いながら記録をとった。

現地での各種実測作業は、調査区全面に方眼杭を設定したのち、1箇所をベンチマークとし、座標ならびに水準の原点を取り付け、これを基準として行った。遺構平面図・土層断面図はすべて1/20を基本として作成した。写真撮影は35mmモノクロームを使用した。

2 調査の概要

遺跡は台地の縁辺部にあって、周辺の原地形は南から北へ緩やかな傾斜を有しており、調査区の遺構確認面もわずかながら北方向へ傾斜している。検出した遺構は住居7基・土坑6基・溝1条である(図7)。基本土層は、現代の耕作土層下に、暗褐色土層、ローム層の順で堆積が見られ、主な遺構確認面はこのローム層上面である。住居の所属時期は、古墳時代から古代にかけてと推測される。遺物を伴わない住居・土坑も見られるが、覆土の状況からこれらの遺構も古代以前に帰属すると考えられる。台地の直下には現在でも小河川が流下しているが、このような地理的条件を反映してか、土錘の出土率が高い点もこの遺跡の特徴である。

3 住居

検出した7基の住居は、いずれも竪穴住居である。薬師堂東遺跡が立地する本庄台地縁辺部は、密集度の高い古代集落遺跡が集中することで知られているが、本調査地点においても、住居の重複が比較的顕著であり、断続的とはいえ長期間居住域として利用されていたことが窺える。

SI-1 (図8)

位置：調査区の北東隅に位置し、遺構全体の半分程が調査区外にある。SI-2・3と重複し、双方の覆土を掘り込んで構築されている。**形状・規模**：平面形は整った方形をなし、一辺5.5mほどの規模を有すると推定される。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-20°-Eを示す。**覆土**：覆土は2層に分割され、下層は壁際にロームブロックを多量に含み斑状に堆積する暗灰褐色土が薄く堆積し、他の大部分は、同じくロームブロックを多量に含む黒灰褐色土で占められる。下層の暗灰褐色土は、ロームブロックを斑状に含むことから、当初、貼床層とも観察されたが、硬化が認められないことから、住居廃絶後の堆積土と判断される。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層および先行するSI-2の覆土をそのまま床面としており、貼床は伴わないと判断される。**柱穴**：柱穴はP1・P2の2基で、ともに支柱穴である。床面からの深さは、P1が70cm、P2が80cmであ

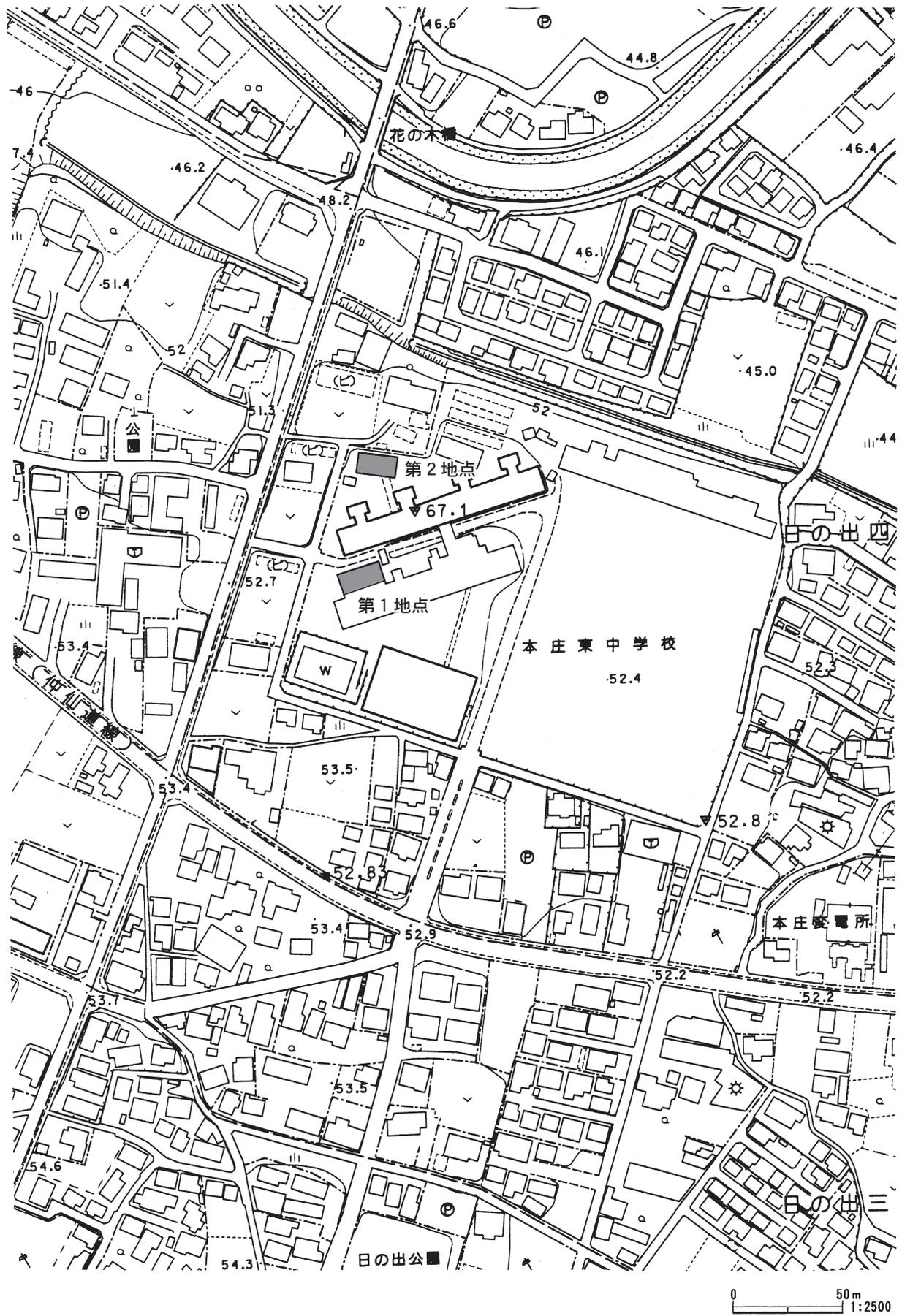


図6 薬師堂東遺跡第1、第2地点の位置



图 7 药师堂东遗址第 1 地点全体图

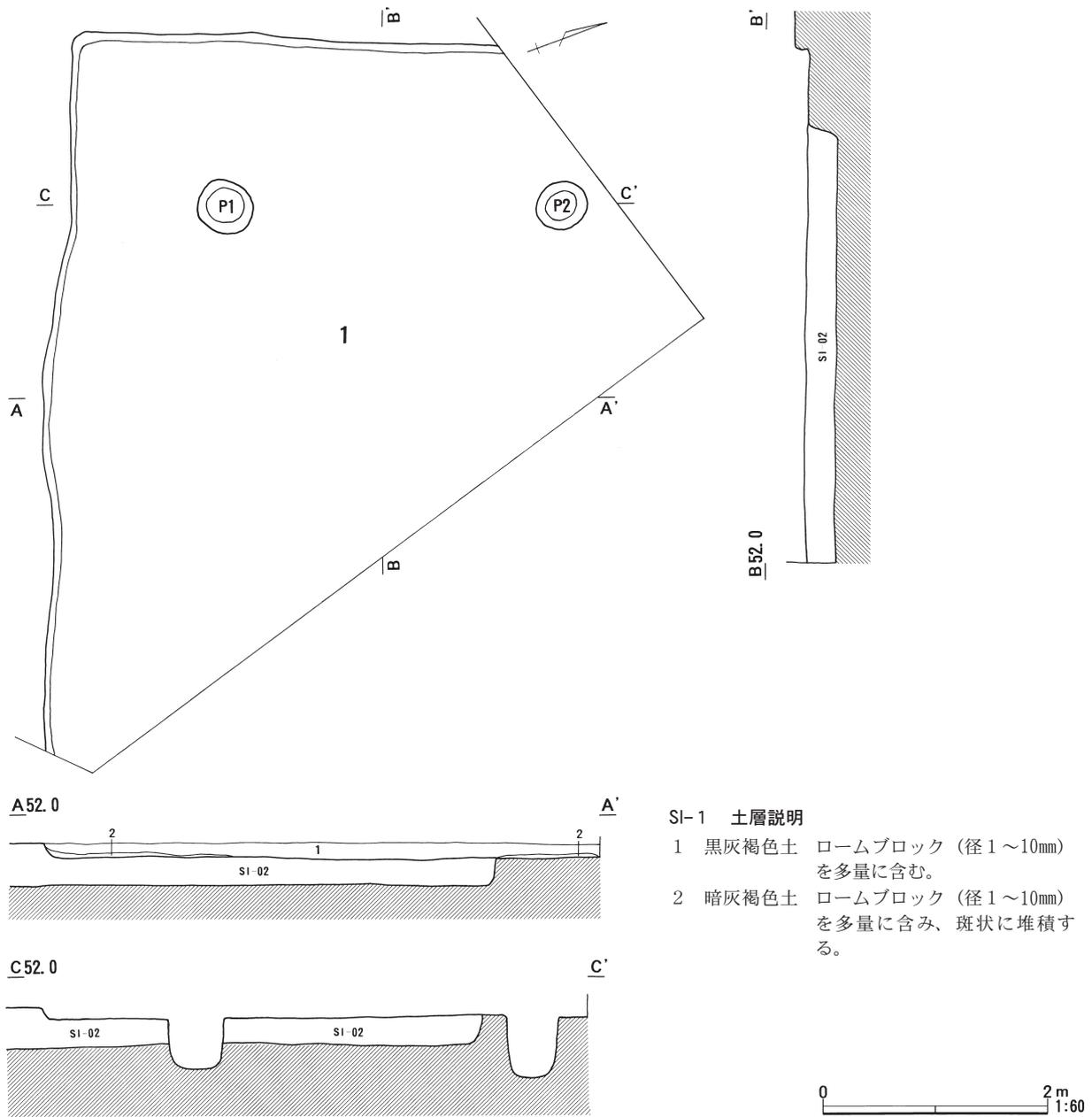


図8 薬師堂東遺跡第1地点SI-1平面図および断面図

る。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴は、調査区外にあるものと思われ、確認できる範囲には存在しない。壁溝も認められない。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏3、小型甕1、甕3、須恵器の坏、高台付坏、皿、甕各1、土錘3、板状土製品1点のほか、覆土中・上層から多量の土師器・須恵器片を検出している。（図9）土師器坏はいずれも丸底で、浅い体部が内湾して立ち上がる器形である。体部外面にヘラケズリ、内面にナデ、口縁部内外面にヨコナデを加える調整技法も共通している。土師器甕は小型品を含め緩く「く」の字状に外反する頸部が共通する。とくに大型の甕類は、肩部に最大径を有し、急速に径を減じて小さな底部に至る器形は、後続する「コ」の字状の頸部を有する甕の先駆的形態をなすものと推測される。土錘は小型、細身で、規格的な形状を示す。板状土製品はほぼ方形をなし、表面には指頭痕が観察される。須恵器はいずれも破片資料で、混入品の可能性が高いと判断される。

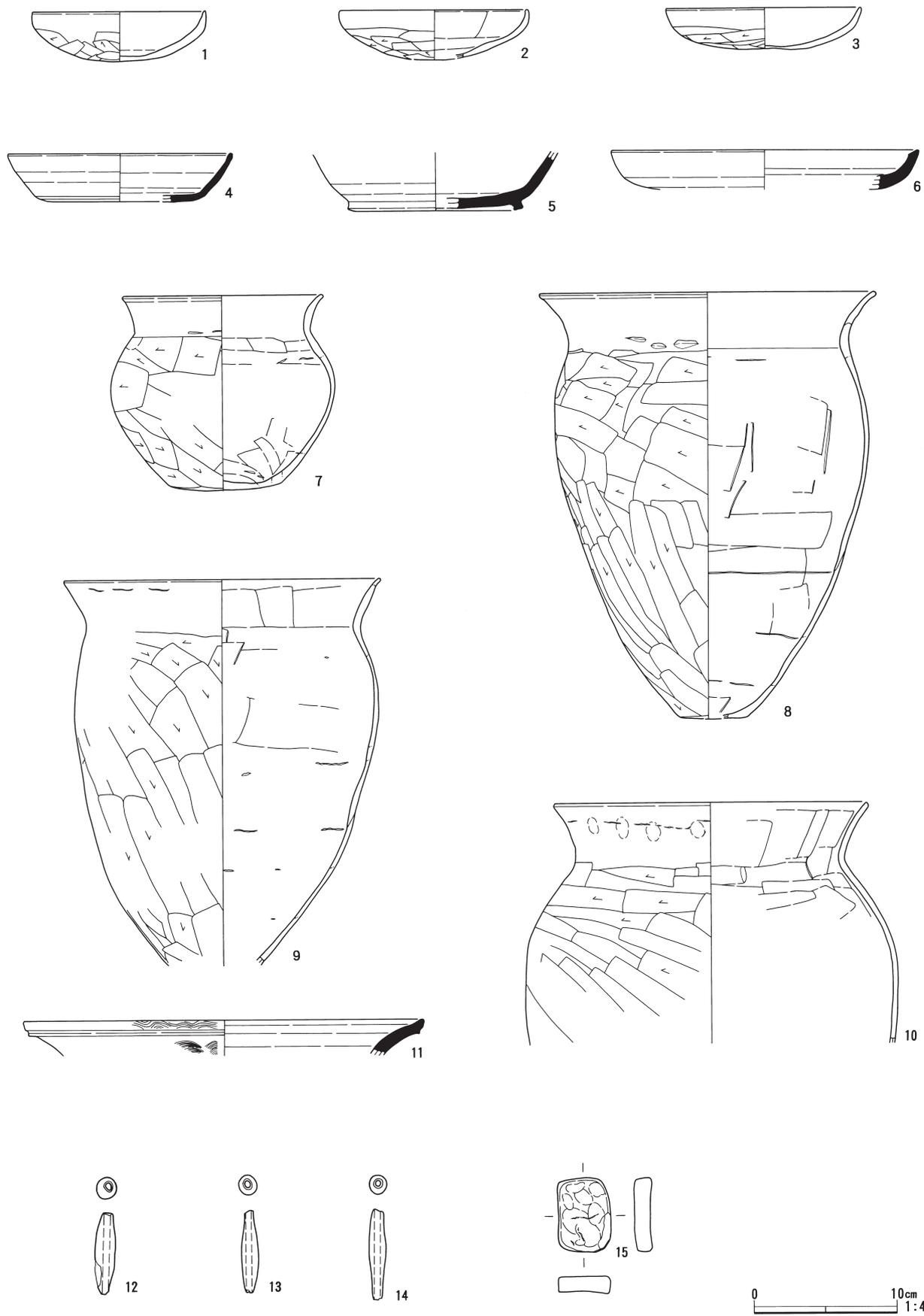


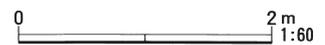
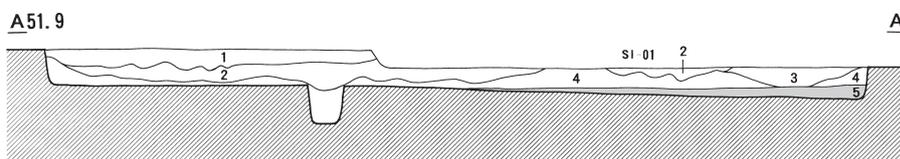
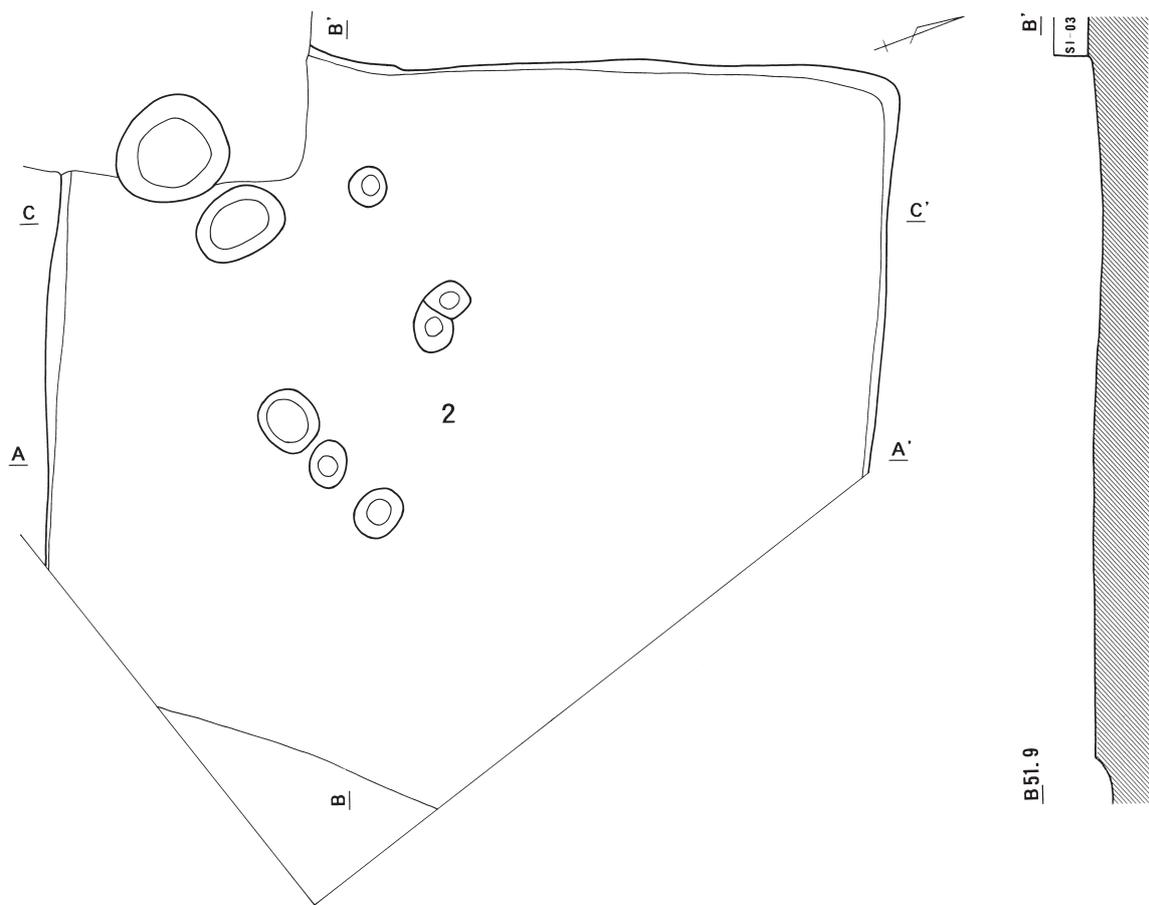
图9 薬師堂東遺跡第1地点SI-1出土遺物

SI-1 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.5	丸底。体部～口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英・砂粒 内－にぶい橙色 外－にぶい赤褐色	3/4以下
2	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 (3.5)	丸底。体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英 内外－にぶい赤褐色	1/2以上
3	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 3.0	浅い丸底。体部は内湾し立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。	角閃石・石英・暗赤褐色粒・軽石砕粒 内－橙色 外－明赤褐色	1/2 内面磨耗
4	須恵器 坏	口径 (15.8) 底径 (10.2) 器高 3.4	平底。体部は外傾し、口縁部で僅かに内湾する。	外面－底部回転ヘラ切り離し。体部下端回転ヘラケズリ。体部ロクロナデ。内面－ロクロナデ。	海綿骨針・長石・石英 内外－灰色	1/8 ロクロ左回転
5	須恵器 高台付坏	口径 — 底径 (11.1) 器高 —	僅かに丸みを持った平底で、低い高台が付く。体部は外傾する。	外面－底部回転ヘラケズリ。体部ロクロナデ。内面－ロクロナデ。	長石 内－灰白色 外－灰色	1/4以下 ロクロ右回転
6	須恵器 皿	口径 (21.5) 底径 — 器高 —	平底。体部～口縁部にかけては丸身を持って短く立ち上がる。口縁端部は内傾する平坦面となる。	外面－底部ヘラケズリ。体部ロクロナデ。内面－ロクロナデ後、ヘラナデ。	黒色粒・長石・角閃石・暗赤褐色粒 内外－灰色	口縁部片
7	土師器 小型甕	口径 13.8 底径 7.8 器高 13.7	平底。胴部は丸味を持ち、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・暗赤褐色粒 内－明赤褐色 外－橙色	1/2以上
8	土師器 甕	口径 (23.4) 底径 — 器高 30.1	平底。胴部上位に最大径を持ち口縁部は、外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・赤褐色粒 内外－上半部明赤褐色・下半部にぶい橙色	1/2以下
9	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「く」の字状に外傾する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・暗赤褐色粒 内外－にぶい橙色	3/4 内面磨耗
10	土師器 甕	口径 21.8 底径 — 器高 —	胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「く」の字状に外反する。外面口縁部に指頭痕。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩暗赤褐色粒・砂粒 内外－明赤褐色	1/4
11	須恵器 甕	口径 (28.0) 底径 — 器高 —	口縁部は外反して開く。口縁部外面と端部に波状文を施す。	内外面ロクロナデ調整。	チャート・黒色粒 内外－明灰色	口縁部片
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
12	土製品	土錘	長さ：5.7 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：9.23		白色粒 明赤褐色	
13	土製品	土錘	長さ：5.8 幅：1.3 孔径：0.4 重さ：8.72		白色粒 明赤褐色	
14	土製品	土錘	長さ：6.3 幅：1.2 孔径：0.4 重さ：8.95		角閃石・赤褐色粒 にぶい赤褐色	
15	土製品	不明	長さ：5.4 幅：3.6 厚さ：1.1 長方形の板状不明土製品。指頭痕。		砂粒 内外－明赤褐色	完形

SI-2 (図10・11)

位置：調査区の東端近くに位置し、SI-1・3・4・5と重複している。新旧関係は、SI-3・5よりも新しく、SI-1・4よりも古い。また、南東側を攪乱によって失っている。**形状・規模：**平面形は整った方形をなし、南北で6.6mほどの規模を有する。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-20°-Eを示す。**覆土：**覆土は4層に大別される。下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層にロームブロック、礫などを含む黒褐色土が堆積する。上層に存在するSI-1の覆土とは、礫を含む本住居の2・3層の存在によって、比較的容易に識別できる。**床面：**床面はほぼ平坦である。掘り方が北東方向へ傾斜し、中央から北東よりの範囲には、貼床が敷設されている。貼床層はロームブロックを多量に含んで斑状をなす黒灰褐色土で、硬化が顕著である。他の部分は、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴：**床面には複数の小坑が認められるが、明瞭な柱穴は確認できない。**施設：**竈などの燃焼施設は、調査区外にあるものと思われ、確認できる範囲には存在しない。壁溝は認められない。SI-4と重複する西隅に貯蔵穴と推定される円形の土坑が存在する。直径90cm、床面からの深さ55cmの大きさがある。SI-4との重複のため、本住居覆土との層位的な関



SI-2 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒褐色土 礫（径5～10mm）、ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 礫（径5～10mm）を少量含む、ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 5 黒灰褐色土 貼床層。ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む、斑状に堆積する。

図10 薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 平面図および断面図

係は明確ではないが、形状や所在位置から本住居に伴う貯蔵穴と思われる。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏2、鉢1、甕2点のほか、覆土各層から若干の土師器片を検出している（図12）。礫を含む2・3層中には、摩滅した時期不詳の土師器の小片が比較的多く含まれていた。土師器坏は2点とも鬼高I式期の典型的な坏蓋模倣坏である。とくに2はほぼ完形で、5の甕とともに本住居の帰属年代を如実に示す資料である。

SI-3（図13・14）

位置：調査区のほぼ中央東寄りに位置し、SI-1・2・4およびSK-2と重複している。新旧関係は、重複するいずれの住居よりも古く、北側の一隅を残すにとどまる。**形状・規模**：平面形は隅丸の方形をなすことが推測される。規模は不明である。確認面から床面までの深さは25cm前後である。主軸方向はN-30°-Eを示す。**覆土**：覆土は床面上にロームブロックを多量に含む黒褐色土があり、その上層には、壁際に焼土ブロックを含む黒褐色土、中央にロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積する。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴**：床面には複数の小坑が認められるが、明瞭な柱穴は確認できない。**施設**：竈などの焼土施設は、調査区外にあるものと思われ、確認できる範囲には存在しない。北隅に小土坑を検出しているが、ロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積しており、貯蔵穴とは認定できない。壁溝も存在しない。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土錘4点を検出した（図15）。この

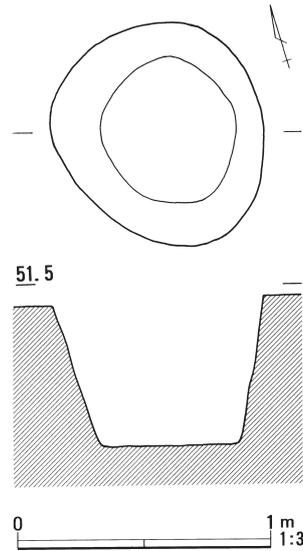


図11 薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 貯蔵穴平面図および断面図

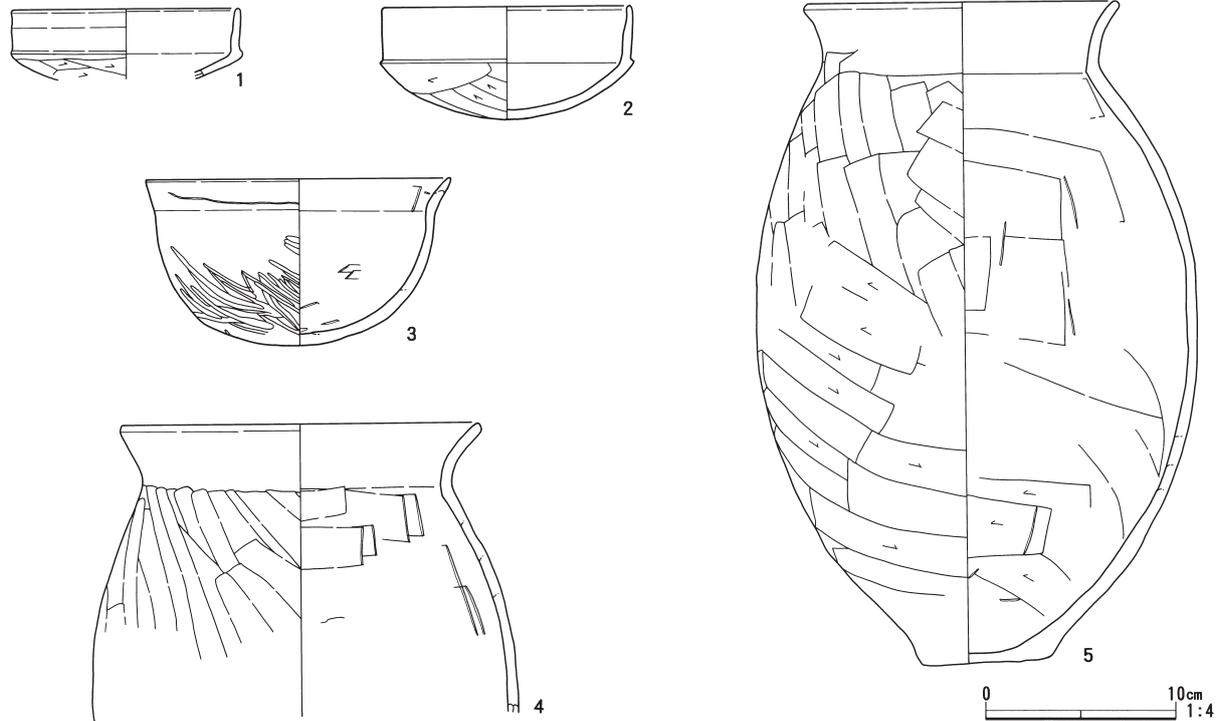


図12 薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 出土遺物

SI-2 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部はほぼ直立して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	チャート・長石・砂粒 内—橙色 外—にぶい橙色	1/4
2	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 器高 5.9	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部はほぼ直立して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英・赤色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形
3	土師器 鉢	口径 16.0 底径 — 器高 8.8	丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は体部との境で屈曲し短く外傾する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	暗赤褐色粒・角閃石・石英 内—赤褐色 外—明赤褐色	3/4
4	土師器 甕	口径 18.7 底径 — 器高 —	胴部は中位に最大径を持ち、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後、ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	長石・角閃石・石英・片岩 内外—明赤褐色	1/3
5	土師器 甕	口径 16.2 底径 6.8 器高 35.1	平底。胴部は長胴形で、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。	角閃石・石英・チャート・暗赤褐色粒・片岩・砂粒 内—橙色 外—にぶい橙色	3/4

ほか、覆土から若干の土師器片を出土している。土鉢はいずれも小型で細身の製品で、規格的な形状を示す。

SI-4 (図13・14・16)

位置：調査区のほぼ中央に位置し、南隅が調査区外にある。SI-2・3・5と重複している。新旧関係は、重複するいずれの住居よりも新しい。平面形はやや歪んだ方形をなし、6.7×6.2mの規模を有する。確認面から床面までの深さは35cm前後である。主軸方向はN-70°-Wを示す。**覆土：**覆土は4層に分割される。北西側の床面にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が薄く堆積するが、硬化が認められないことから、住居廃絶後の堆積土と判断される。これより上位の土層は、いずれもロームブロックを含む黒灰褐色土で占められており、最上の1層には礫、壁寄りの3層には焼土ブロック、炭化物ブロックの混入が認められる。**床面：**床面は東から西に向かって緩やかに傾斜して、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴：**柱穴はP1～P4の4基で、いずれも支柱穴である。床面からの深さは、P1が35cm、P2が55cm、P3、P4が60cmである。**施設：**北西壁のほぼ中央に竈が付設されている。地山のローム層を掘り残した袖の一部と思われる遺構が検出されたが、燃烧部、煙道部を含め、周辺には粘質土や焼土ブロックなど竈本体の構築土や、焼土・炭化物といった使用痕跡が全く認められなかった。北隅の床面には、楕円形の小土坑が見られるが、掘り込みが浅く、貯蔵穴とは認められない。壁溝も存在しない。**出土遺物：**遺物は床面付近で、土師器の坏、甕の破片と土鉢7点が出土した(図17)。このほか覆土中・上層からも土師器・須恵器片を検出している。床面付近の出土遺物のうち、土師器坏は口縁部の外反する模倣坏である。土師器甕は器形が微妙に異なるものの、いずれも口縁部径が胴径を上回る。6の土師器甕は口縁部に稜を形成する。土鉢は、長短の差はあるものの、他の住居と同様に小型で細身の製品である。模倣坏は初現期の資料に比べ、小型化が進み、口縁部の外反度が高い。体部から底部にかけても荒いヘラケズリが施され、明らかに時期の下る資料である。長胴化の進行した甕の型式とも時間的に符合することから、本住居の帰属年代は、古墳時代終末期に該当すると考えて差し支えないだろう。

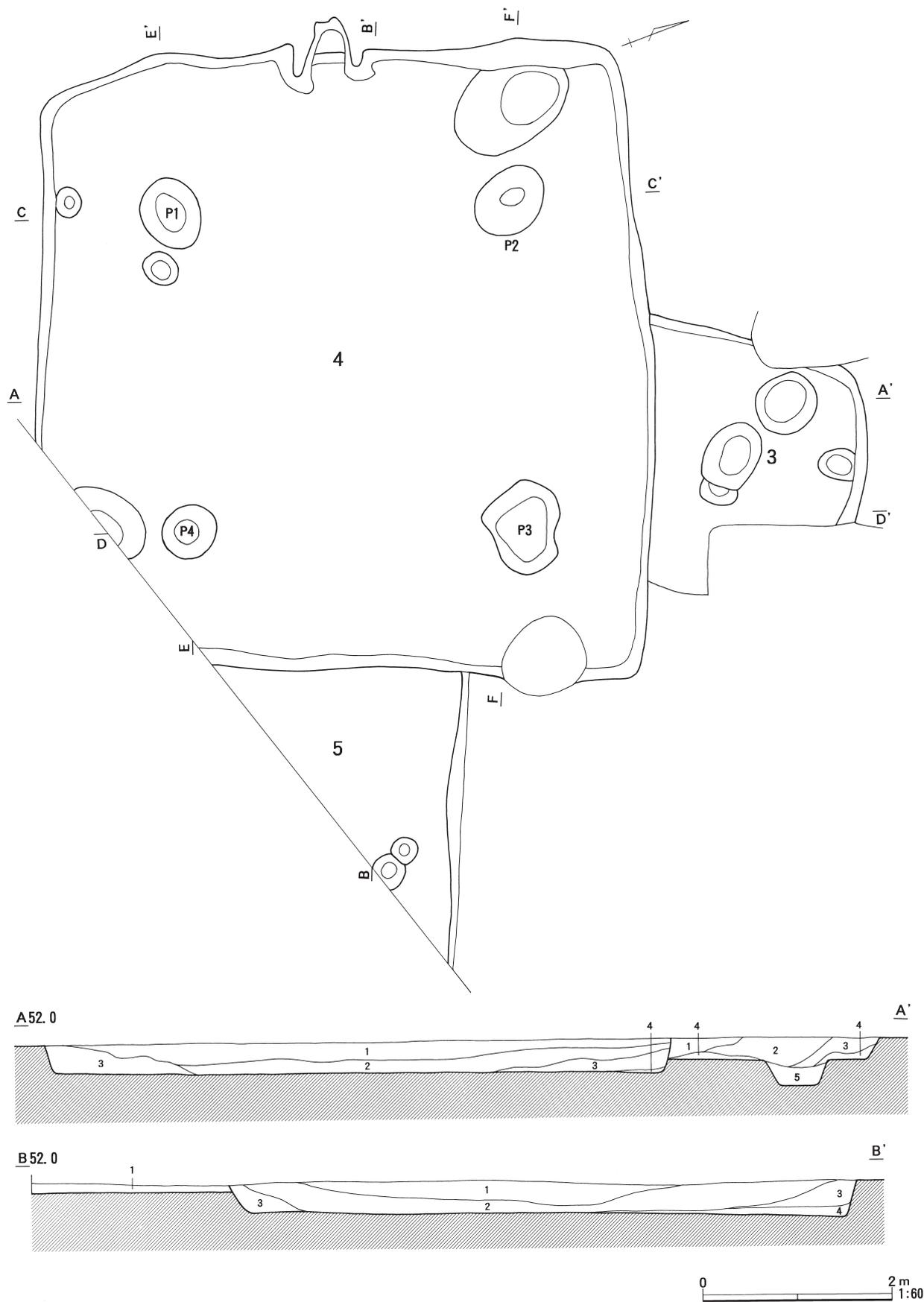
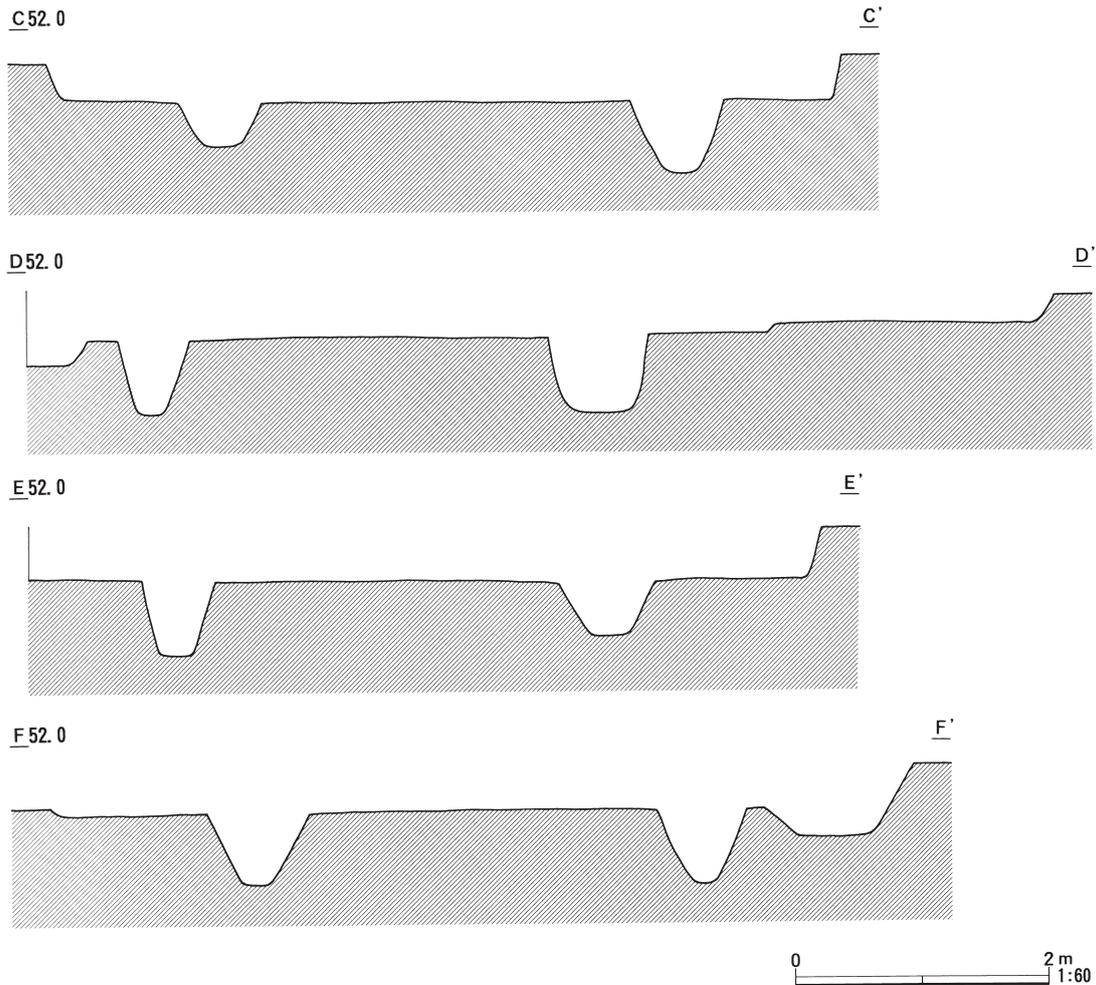


図13 薬師堂東遺跡第1地点SI-3・4・5平面図および断面図(1)



SI-3 土層説明

- 1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック（径1～2mm）、ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。

SI-4 土層説明

- 1 黒灰褐色土 礫（径5～10mm）、ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 3 黒灰褐色土 焼土ブロック（径1～2mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）、ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

SI-5 土層説明

- 1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

図14 薬師堂東遺跡第1地点 SI-3・4・5断面図(2)

SI-5（図13・14）

位置：調査区の南端に位置し、SI-2・4と重複している。新旧関係は、重複する双方の住居よりも古い。**形状・規模：**床面の一部を検出したのみで、形状、規模とも不明である。確認面からの深さも10cmほどにすぎない。**覆土：**覆土はロームブロックを多量に含む黒灰褐色土である。**床面：**床面はほぼ平坦で、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴：**床面には2基の小坑が認められるが、明瞭な柱穴は確認できない。**施設：**竈などの燃焼施設や貯蔵穴は、確認できる範囲には存在しない。壁溝も認められない。**出土遺物：**遺物は覆土から若干の土師器片を出土しているが、本住居に伴う遺物は見当たらない。

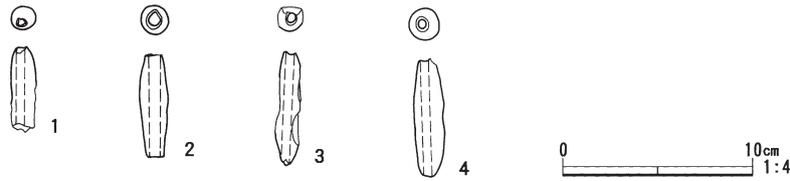


図15 薬師堂東遺跡第1地点 SI-3 出土遺物

SI-3 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：6.48	白色粒 にぶい赤褐色	
2	土製品	土錘	長さ：5.4 幅：1.5 孔径：0.6 重さ：9.52	角閃石・白色粒 にぶい褐色	
3	土製品	土錘	長さ：6.0 幅：— 孔径：0.5 重さ：7.92	赤褐色粒・白色粒 にぶい赤褐色	
4	土製品	土錘	長さ：6.2 幅：1.6 孔径：0.5 重さ：13.57	赤褐色粒・白色粒 にぶい褐色	

SI-6 (図18)

位置：調査区の北西端に位置する。攪乱により明確ではないが、SI-7とは重複関係にあり、本住居の方が古い可能性が高い。**形状・規模：**東側に明瞭な隅角をもち、整った方形を呈することが推測される。規模は支柱穴の位置から、一辺3m程度の規模を有する小型の住居であったと思われる。確認面から床面までの深さは20～25cmである。**覆土：**覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。**床面：**床面はほぼ平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴：**柱穴はP1・P2の2基で、ともに支柱穴である。床面からの深さは、P1が50cm、P2が60cmである。**施設：**竈などの燃焼施設や貯蔵穴は確認できない。調査の範囲内では、焼土や炭化物のブロックが認められないことから、もともと燃焼施設を伴わなかった可能性も考えられるだろう。壁際には明瞭な壁

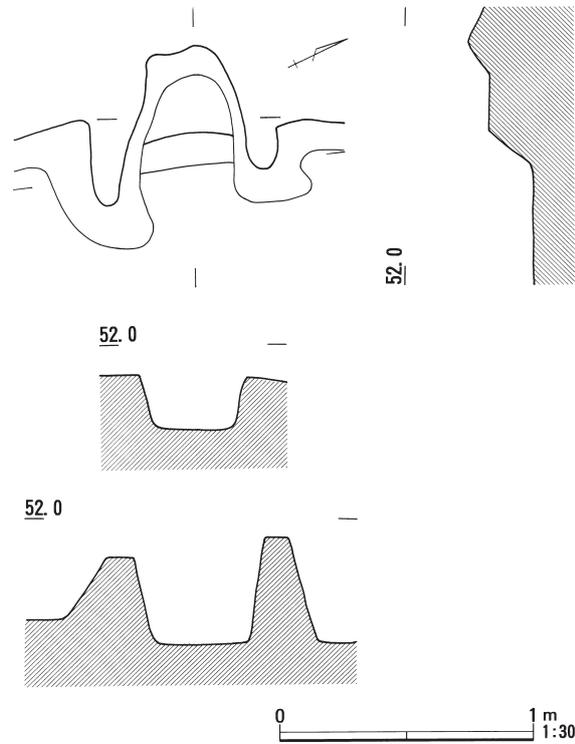


図16 薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 カマド平面図および断面図

SI-4 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土師器 杯	口径 12.0 底径 — 器高 —	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	暗赤褐色粒・石英・片岩 内—橙色 外—にぶい橙色	1/2
2	土師器 杯	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	丸底。体部と口縁部の境に弱い稜を持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	暗赤褐色粒 内外—橙色	1/2以下
3	土師器 杯	口径 12.4 底径 — 器高 4.0	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は外傾して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。	角閃石・砂粒・片岩・赤色粒 内外—橙色	3/4 内外面磨耗
4	土師器 杯	口径 (12.6) 底径 — 器高 (3.8)	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	長石・角閃石・暗赤褐色粒 内外—橙色	1/4以上 内外面磨耗

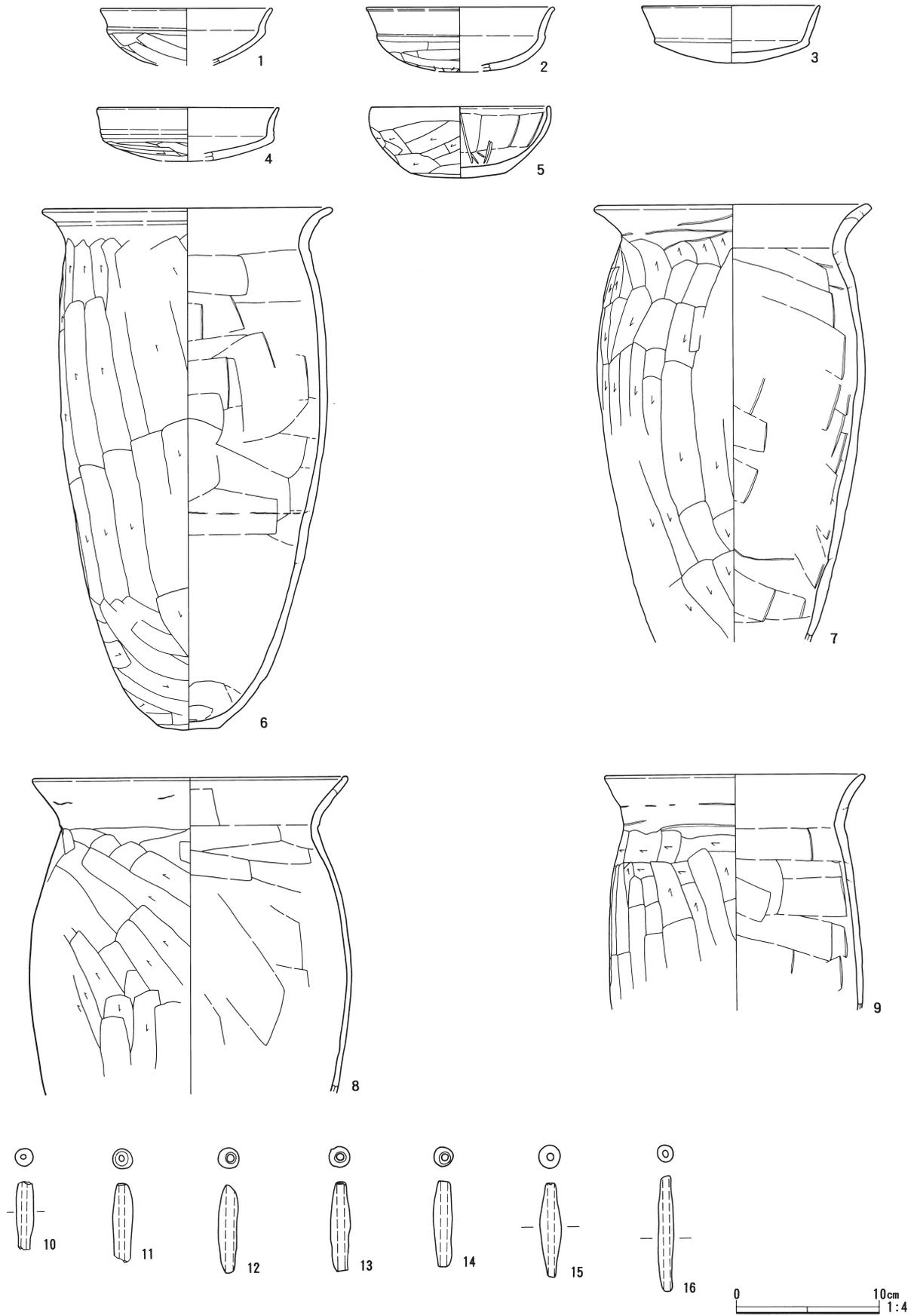


图17 薬師堂東遺跡第1地点SI-4出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
5	土師器 坏	口径 12.4 底径 6.6 器高 5.0	丸底気味の平底。体部～口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	角閃石・片岩・砂粒 内－明黄褐色 外－褐色	3/4以上
6	土師器 甕	口径 20.0 底径 4.5 器高 36.6	平底。胴部は長胴形で、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・暗赤褐色粒・石英・長石・砂礫多量 内外－にぶい橙色	3/4以上
7	土師器 甕	口径 18.7 底径 — 器高 —	胴部は長胴で、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・チャート・暗赤褐色粒・砂礫 内－橙色 外－にぶい橙色	1/2
8	土師器 甕	口径 (21.8) 底径 — 器高 —	胴部は長胴形で、口縁部は外傾して開く。口縁端部を短く内側に折り返す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・長石・黒色粒 内外－にぶい橙色	口縁部 1/4
9	土師器 甕	口径 17.9 底径 — 器高 —	胴部は長胴で、口縁部は弱く屈曲して外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・長石・片岩・暗赤褐色粒 内－橙色 外－浅黄褐色	1/2
No.	種類	器種	法量 (cm・g)		胎土・色調	備考
10	土製品	土錘	長さ：—	幅：1.3 孔径：0.4 重さ：8.00	角閃石・白色粒 灰黄褐色	
11	土製品	土錘	長さ：—	幅：1.4 孔径：0.4 重さ：11.43	角閃石・白色粒 にぶい褐色	
12	土製品	土錘	長さ：6.2	幅：1.5 孔径：0.5 重さ：11.02	角閃石・赤褐色粒 にぶい赤褐色	
13	土製品	土錘	長さ：6.3	幅：1.4 孔径：0.5 重さ：10.93	角閃石・白色粒 黒褐色	
14	土製品	土錘	長さ：6.0	幅：1.4 孔径：0.5 重さ：10.19	角閃石・赤褐色粒 黒褐色	
15	土製品	土錘	長さ：6.5	幅：1.5 孔径：0.5 重さ：11.16	角閃石・赤褐色粒 にぶい橙色	
16	土製品	土錘	長さ：8.1	幅：1.1 孔径：0.5 重さ：9.99	角閃石・チャート 褐灰色	

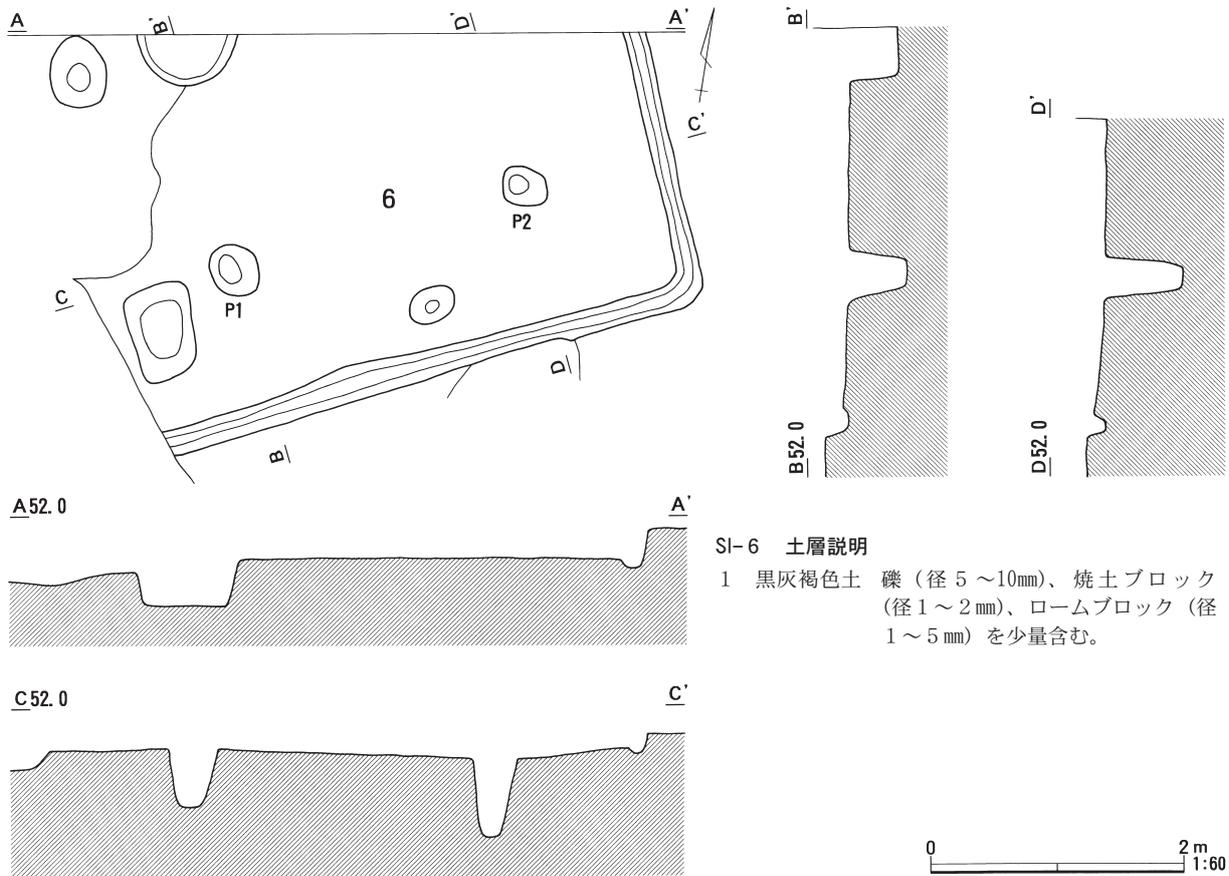


図18 薬師堂東遺跡第1地点SI-6平面図および断面図

溝がめぐっている。出土遺物：遺物は床面付近で、土師器の坏2点が出土した（図19）。2点の土師器坏は、口縁部が外反する模倣坏で、ともに口径12cm台とやや小ぶりである。

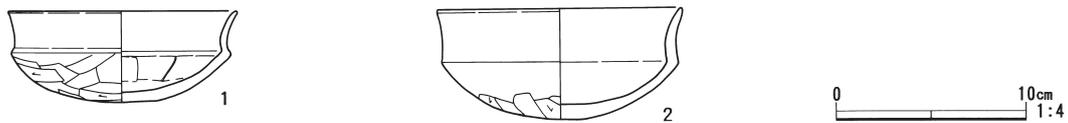


図19 薬師堂東遺跡第1地点 SI-6 出土遺物

SI-6 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.7	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石・チャート・片岩・石英 内-にぶい赤褐色 外-明赤褐色	3/4以上
2	土師器坏	口径 12.8 底径 — 器高 5.8	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	暗赤褐色粒・チャート 内外-橙色	3/4以下 内外面摩耗

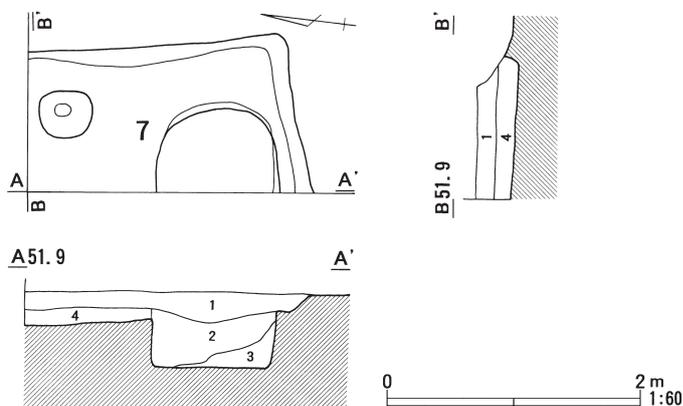


図20 薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 平面図および断面図

SI-7 (図20・21)

位置：調査区の北西端に位置する。攪乱により明確ではないが、SI-6とは重複関係にあると考えられる。新旧関係は、本住居の方が新しい可能性が高い。**形状・規模**：南東側に明瞭な隅角をもち、規模は不明ながら、整った方形を呈することが推測される。確認面から床面までの深さは10cm強である。**覆土**：覆土は単層で、礫、ロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦である。掘り方は中央部が深く、この部分に貼床が敷設されている。貼床層はロームブロックを多量に含んで斑状をなす黒灰褐色土で、硬化が顕著である。壁際の周辺は、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴**：床面には小坑が認められるものの、明瞭な柱穴は確

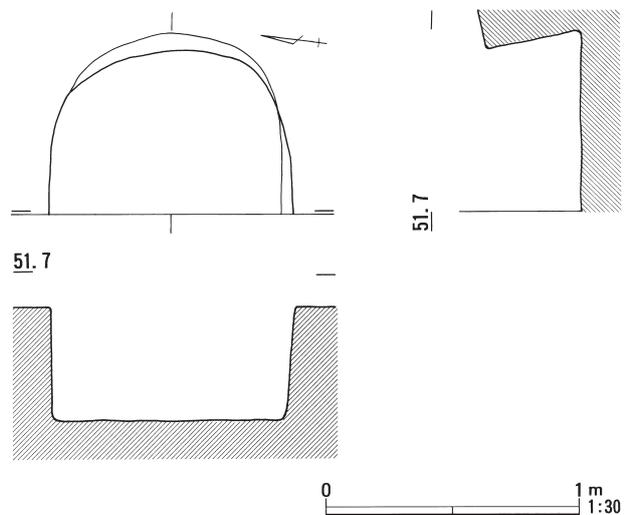


図21 薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 貯蔵穴平面図および断面図

認できない。施設：竈などの燃焼施設は、調査区外にあるものと思われ、確認できる範囲には存在しない。南壁寄りに貯蔵穴と推定される円形の土坑が存在する。直径95cm、床面からの深さ45cmの大きさがある。出土遺物：遺物は覆土から、土錘1点と土師器の小片若干を検出している（図22）。

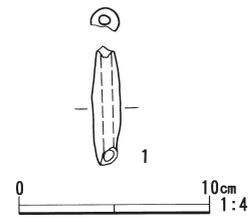


図22 薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 出土遺物

SI-7 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.5 孔径：0.5 重さ：11.89	角閃石・赤褐色粒にぶい褐色	J-1G

4 土 坑

土坑は6基（SK-1～6）を検出した（図23）。調査区の北寄りに集中して存在している。平面形は隅丸の長方形または正方形をなすものが多いが、SK-2・3は不定形である。軸線の方位には、特段の規則性が認められない。覆土はいずれも単層で、礫、ロームブロックを含む黒灰褐色土ないし黒褐色土が堆積している。遺物は土師器・須恵器の小片を若干量出土するものがほとんどである。

ただし、SK-6のみは、覆土中から土師器片がまとまって出土している（図24）。平面形はほぼ正方形を呈し、一辺2.5mほどの規模で、先述のSI-3に近い規模であることから住居跡の可能性も考えられたが、柱穴や炉・竈などの燃焼施設・貯蔵穴・壁溝などの内部施設がまったく存在しないこと、覆土が黒灰褐色系で礫を比較的多く含むこと、出土遺物に年代差が認められることなどから土坑と認識した。確認面からの深さは25cm前後である。

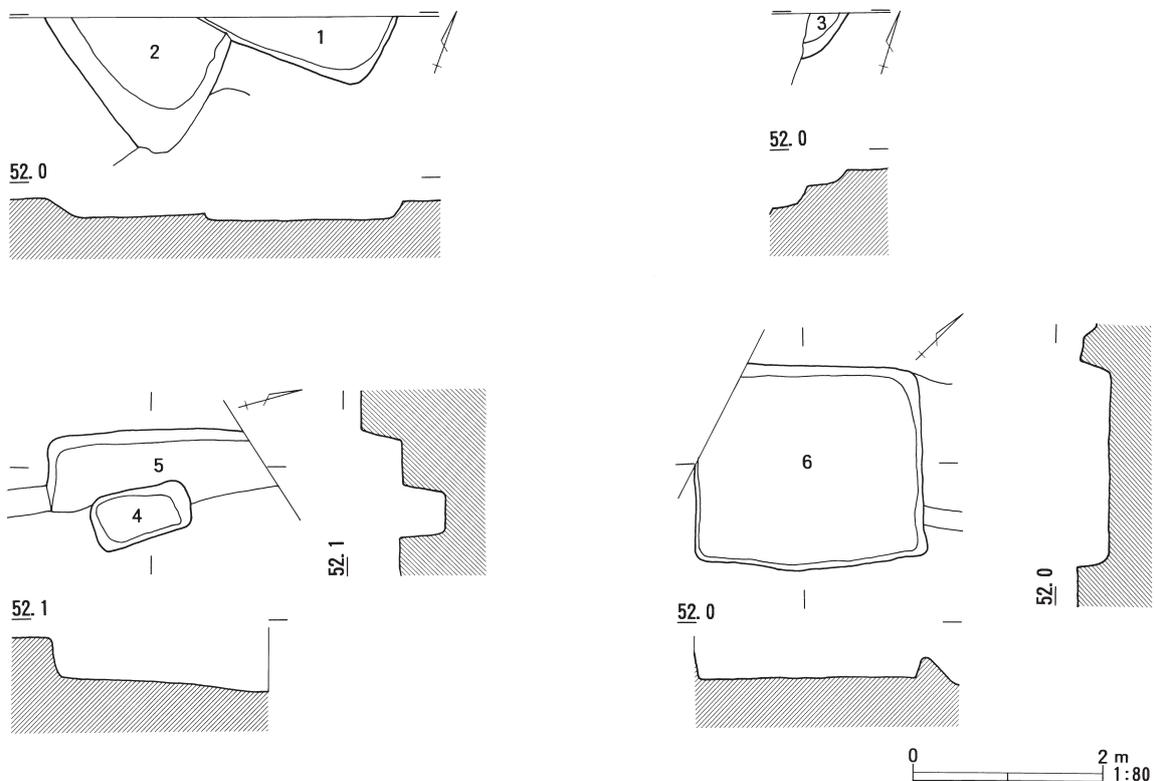


図23 薬師堂東遺跡第1地点 SK-1～6 平面図および断面図

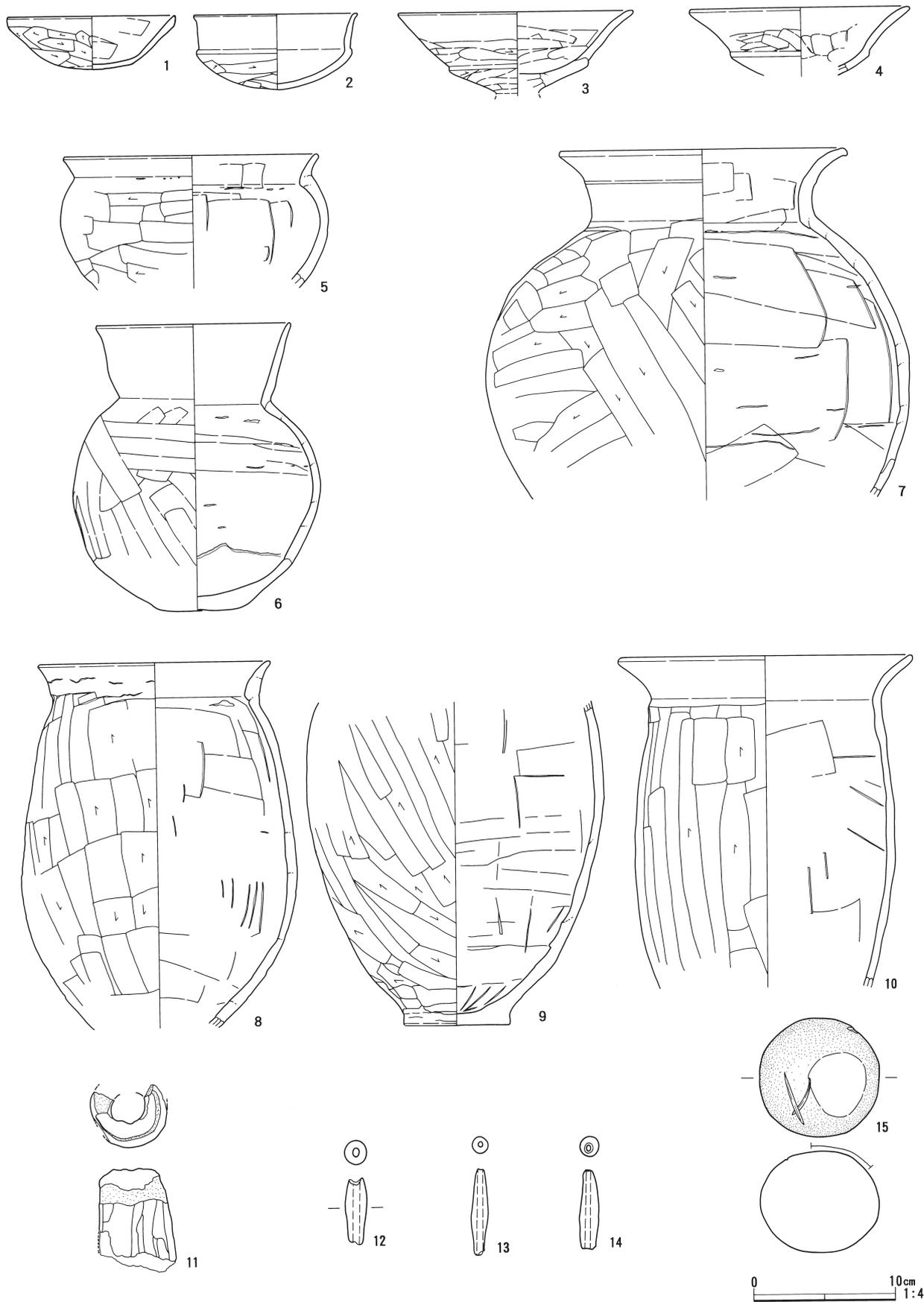


图24 薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物

SK-6 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 底径 器高 11.7 — 3.8	平底気味の丸底。体部は外傾して開き、口縁部は短く上方に立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。底部砂目。内面—ヨコナデ。	角閃石・長石・石英・暗赤褐色粒 内—にぶい赤褐色 外—にぶい褐色	3/4以上
2	土師器 坏	口径 底径 器高 11.5 — 5.4	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部は外反気味に立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—ヨコナデ。	暗赤褐色粒・石英・角閃石 内—明赤褐色 外—橙色	3/4
3	土師器 高坏	口径 底径 器高 16.6 — —	坏部は外面の境に弱い稜を持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	暗赤褐色粒・石英・角閃石 内—明赤褐色 外—橙色	1/2
4	土師器 高坏	口径 底径 器高 15.4 — —	坏部は外面に稜を持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、坏体部ヘラナデ、ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、坏体部ナデ。	暗赤褐色粒・片岩 内—赤褐色 外—橙色	口縁部片
5	土師器 鉢	口径 底径 器高 (17.8) — —	体部は膨らみを持ち、口縁部は強く屈曲し短く外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・暗赤褐色粒 内—にぶい橙色 外—赤色	1/4
6	土師器 壺	口径 底径 器高 (13.6) 6.4 20.4	平底。胴部は球胴形で、口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—胴部ヘラケズリ後ミガキ。内面—胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・暗赤褐色粒・砂礫 内—褐色 外—にぶい橙色	3/4以上
7	土師器 甕	口径 底径 器高 20.0 — —	胴部は球胴形で、口縁部は強く外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・長石・石英・赤褐色粒 内外—明黄褐色	2/3
8	土師器 甕	口径 底径 器高 16.2 — —	胴部は長胴形で、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・チャート・赤褐色粒 内—橙色 外—にぶい赤褐色	1/2
9	土師器 甕	口径 底径 器高 — 7.5 ~7.7 23.0	平底。胴部はやや膨らみを持った長胴形。	外面—胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・長石・赤褐色粒・砂粒 内—にぶい橙色 外—橙色	1/4
10	土師器 甕	口径 底径 器高 20.4 — —	胴部は長胴形で、口縁部はやや外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・黒色粒・暗赤褐色粒・砂礫 内—明赤褐色 外—赤色	2/3以上
11	土製品 鞆羽口	径 孔径 器高 5.4 2.5 (6.7)	先端部は融解し、還元色、体部は酸化色。	外面—ヘラケズリ。内面—ナデ。	赤褐色粒・砂粒 内—橙色 外—にぶい橙色 先端—暗灰色	1/5
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
12	土製品	土錘	長さ：4.7 幅：1.6 孔径：0.5 重さ：10.57		角閃石・白色粒 橙色	
13	土製品	土錘	長さ：6.1 幅：1.2 孔径：0.4 重さ：7.19		角閃石・チャート にぶい黄褐色	
14	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.4 孔径：0.3 重さ：10.04		片岩・赤褐色粒 褐色	
15	石器	磨石 (砥石)	径：8.4 高さ：7.2 重さ：431.7 磨石を砥石として転用か。			完形 安山岩

検出した遺物は土師器の坏2、高坏2、鉢1、壺1、甕4点のほか鞆羽口1、土錘3、磨石もしくは砥石1点などである(図24)。出土量が多いが、いずれも破片資料で完形品を伴わない。このほか土師器の小片を少量出土検出している。古墳時代後期から終末期にかけての資料が主体を占める。土錘は他と同様に小型で細身の製品である。

11の鞆羽口は、高坏脚の転用品ではなく、厚手の造りの専用品である。先端部分は溶解が進行し、大きく変形している。還元化も顕著に認められ、暗灰色を呈する。15の磨石もしくは砥石とした資料は、安山岩製で球体をなし、平滑化した使用痕跡が明瞭に観察される。共伴する鞆羽口とともに、鉄器生産に関連する遺物である可能性が高い。ただし、鍛冶炉・鉄滓などは検出されていないことから、SK-6が鉄器生産工房としての性格を有していたとは考えられない。

5 溝

溝は1条 (SD-1) を検出した (図7)。調査区の中央西寄りを、周辺地形の等高線にほぼ直交し、直線的に、南北方向に走行する。確認面では溝幅が一定せず、堀底の水準も特定方向への傾斜は認められない。SK-3・4・5と重複するが、新旧関係はいずれの土坑よりも新しい。覆土は暗灰褐色土で、白色の軽石や礫をわずかに含む。砂礫層の発達は認められず、顕著な流水はなかったと推測される。覆土中の白色軽石は、As-Aと考えられ、溝の開削年代は18世紀末以降に下る。遺物は土錘2点のほか、土師器・須恵器の小片を若干量出土している (図25)。土錘の形状は他例と同様である。

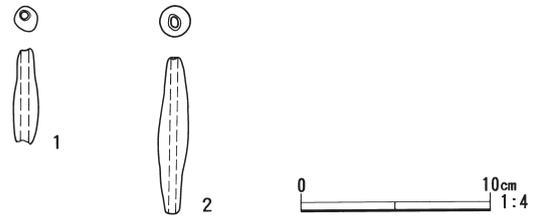


図25 薬師堂東遺跡第1地点SD-1出土遺物

SD 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ: 4.9 幅: 1.3 孔径: 0.4 重さ: 6.93	赤褐色粒・白色粒にぶい褐色	
2	土製品	土錘	長さ: 8.2 幅: 1.6 孔径: 0.4 重さ: 17.97	赤褐色粒・白色粒にぶい褐色	

6 グリッド出土遺物

遺構に伴わず、表土中から出土した土師器・須恵器ならびに住居および土坑・溝の覆土に混入していた縄文土器片などの遺物をグリッド出土遺物として一括した。土師器は、もともと調査区内に所在する住居に伴うものであったと考えられるが、遺構確認面よりも、かなり上層から出土した資料が多

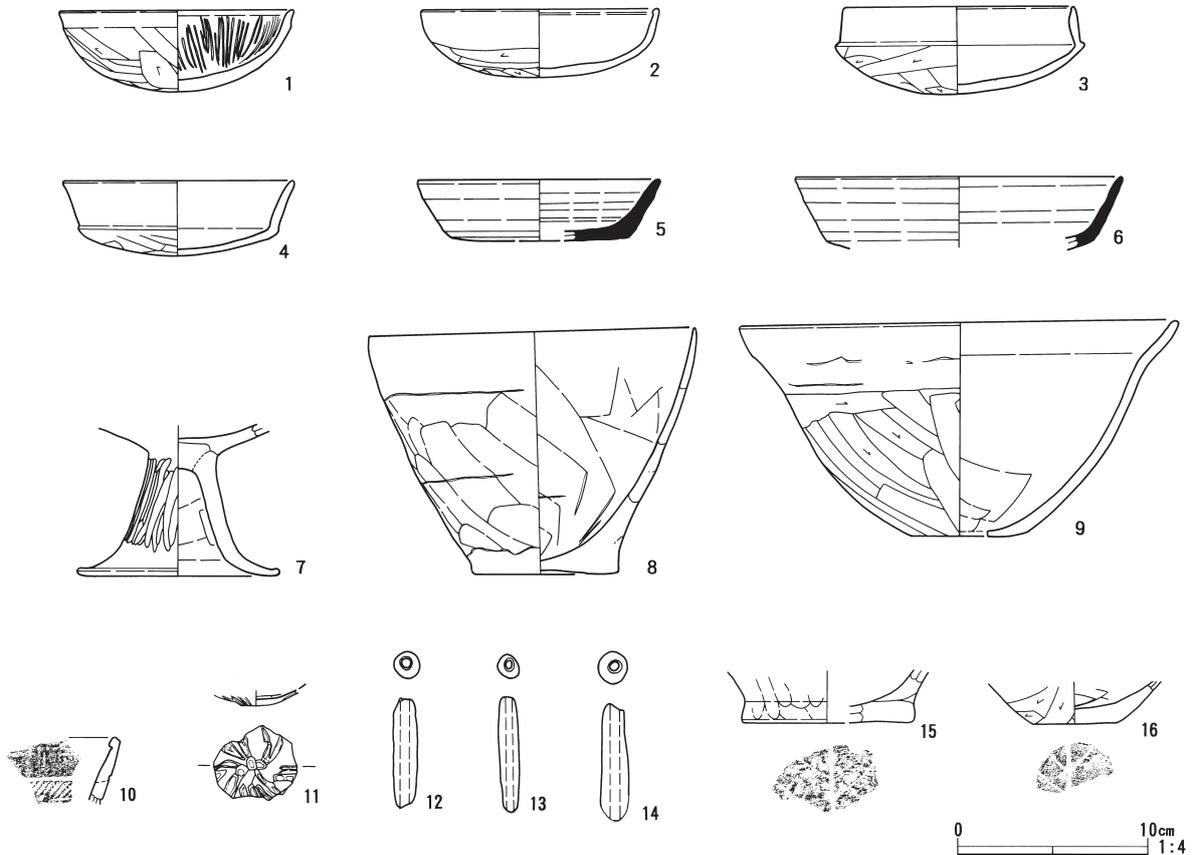


図26 薬師堂東遺跡第1地点グリッド出土遺物

グリッド 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.2 底径 — 器高 4.3	丸底。体部～口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－ミガキ。	角閃石・暗赤褐色粒・チャート 内外－橙色	ほぼ完形
2	土師器 坏	口径 12.4 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	石英・角閃石・暗赤褐色粒 内－にぶい黄橙色 外－にぶい橙色	1/2以上
3	土師器 坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.6	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は直線的に上方に立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－ヨコナデ。	角閃石・暗赤褐色粒 内－黒色 外－にぶい赤褐色	1/2以下 内面黒色処理
4	土師器 坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.0	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部はやや外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	チャート・暗赤褐色粒・黒色粒 内外－橙色	1/2以上 内外面摩耗
5	須恵器 坏	口径 (12.6) 底径 (9.4) 器高 (3.2)	平底。体部は外傾する。	外面－底部回転ヘラケズリ。体部ロクロナデ。内面－ロクロナデ。	長石粒少量 内外－灰色	1/4以下 ロクロ右回転
6	須恵器 坏	口径 (17.2) 底径 — 器高 —	体部は外傾して立ち上がる。	内外面ロクロナデ調整。	長石・黒色粒 内外－灰色	1/8以下 ロクロ左回転
7	土師器 高坏	口径 — 底径 9.6 器高 —	脚部は「ハ」の字状に開き、裾部で屈曲して外反気味に開く。	外面－脚部ミガキ、裾部ヨコナデ。内面－坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ。	角閃石・片岩・暗赤褐色粒 内外－にぶい橙色	坏部欠損
8	土師器 鉢	口径 17.0 底径 7.2 器高 12.9	平底。体部は内湾気味に外傾する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ユビナデ。内面－ヘラナデ。	角閃石・石英 内－にぶい橙色 外－橙色・にぶい橙色	3/4以上
9	土師器 甑	口径 22.1 ～23.2 底径 5.2 器高 11.5 ～11.1	単孔式。体部は内湾して立ち上がり、口縁部で外側に屈曲し、僅かに内湾気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	砂粒・長石・赤褐色粒 内－橙色 外－にぶい橙色	ほぼ完形
10	縄文土器 鉢	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部は外傾し、端部を内側に折り返す。	外面－口縁部に2本の平行する沈線を廻らし、沈線間には斜縄文を施す。	砂粒 内外－にぶい黄橙色	口縁部破片
11	土師器 高坏	口径 — 底径 — 器高 —	高坏坏部内底面の剥離破片。脚部との接合部か。	接合剥離面に棒状工具による放射状の沈線が見られる。	長石・角閃石・砂粒 内－にぶい赤褐色 外－赤褐色	小破片
15	土師器 甕	口径 — 底径 (9.0) 器高 —	平底。底部木葉痕。	外面－胴部下端ユビナデ。内面－ナデ。	暗赤褐色粒・角閃石 内－褐灰色 外－にぶい黄橙色	底部片
16	土師器 甕	口径 — 底径 (4.4) 器高 —	平底。底部木葉痕。	外面－胴部ヘラケズリ。内面－胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・暗赤褐色粒・砂粒 内－にぶい橙色 外－褐灰色	底部片
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
12	土製品	土錘	長さ：5.8 幅：1.3 孔径：0.5 重さ：10.35		チャート・赤褐色粒 にぶい褐色	
13	土製品	土錘	長さ：6.1 幅：1.1 孔径：0.3 重さ：6.74		赤褐色粒・白色粒 褐灰色	
14	土製品	土錘	長さ：6.1 幅：1.5 孔径：0.5 重さ：13.88		片岩・赤褐色粒 にぶい赤褐色	

く、出土地点の下層に所在する各住居に帰属する保証がない。よって、ここでは調査区一括扱いで報告する。

図化した遺物は、土師器の坏4、高坏2、鉢1、甑1、甕2、須恵器坏2、土錘3、縄文土器片1点である(図26)。1の土師器坏は、ほぼ完形で体部内面に放射状に丁寧なヘラミガキが加えられている。9の甑も細かく破断していたが、ほぼ完形に復原される。須恵器坏のうち5は、底部外面を回転ヘラケズリしている。12～14の土錘は、住居出土資料と同様に、小型で細身の製品である。15・16は甕の底部と思われる破片で、外面に木葉痕が観察される。縄文土器は口縁部の破片で、2条の沈線の間を斜縄文で埋めている。なお、図化していないが、中世の「かわらけ」の小片も若干ながら検出している。

IV 薬師堂東遺跡第2地点の調査成果

1 調査の方法

本節に報告する薬師堂東遺跡第2地点の発掘調査は、本庄市立東中学校柔道場建設に伴い、記録保存を目的として実施したものである。調査は施設の基礎部分のみを対象として行ったため、調査区は縦横に交錯するトレンチ状を呈している。事前の試掘調査結果から、遺構面は1面のみで、確認面はローム層上面であることが判明していた。表土は遺構確認面の直上までを人力および重機により掘削し、そののちに人力で遺構を確認した。遺構調査は、要所に土層観察用のベルトを残し、覆土の堆積状況を確認しながら人力で進めた。住居の竈やその他プラン確認の困難な箇所については、適宜断ち割りを行いながら記録をとった。

現地での各種実測作業は、調査区の外側を方形に囲んで杭を設置し、各杭に座標ならびに水準を取り付け、これを基準として行った。遺構平面図・土層断面図はすべて1/20を基本として作成した。写真撮影は35mmモノクロームおよび35mmカラーを使用した。

2 調査の概要

遺跡の立地条件は、第1地点とほぼ同様であるが、本調査区の方が台地縁辺部に近い。調査区の遺構確認面のレベルも第1地点より低く、その分だけ表土層が分厚い。検出した遺構は住居18基、溝1条である(図27)。基本土層は、現代の耕作土層下に、複数の暗褐色土層、ローム層の順で堆積が見られ、主な遺構確認面はこのローム層上面である。住居の所属時期は、古墳時代から古代にかけてと推測される。遺物を伴わない住居・土坑も見られるが、他の住居との切り合いや覆土の状況などからこれらの遺構も古代以前に帰属すると考えられる。出土遺物に土錘が比較的多く含まれる点も、第1地点と同様の特色である。

3 住居

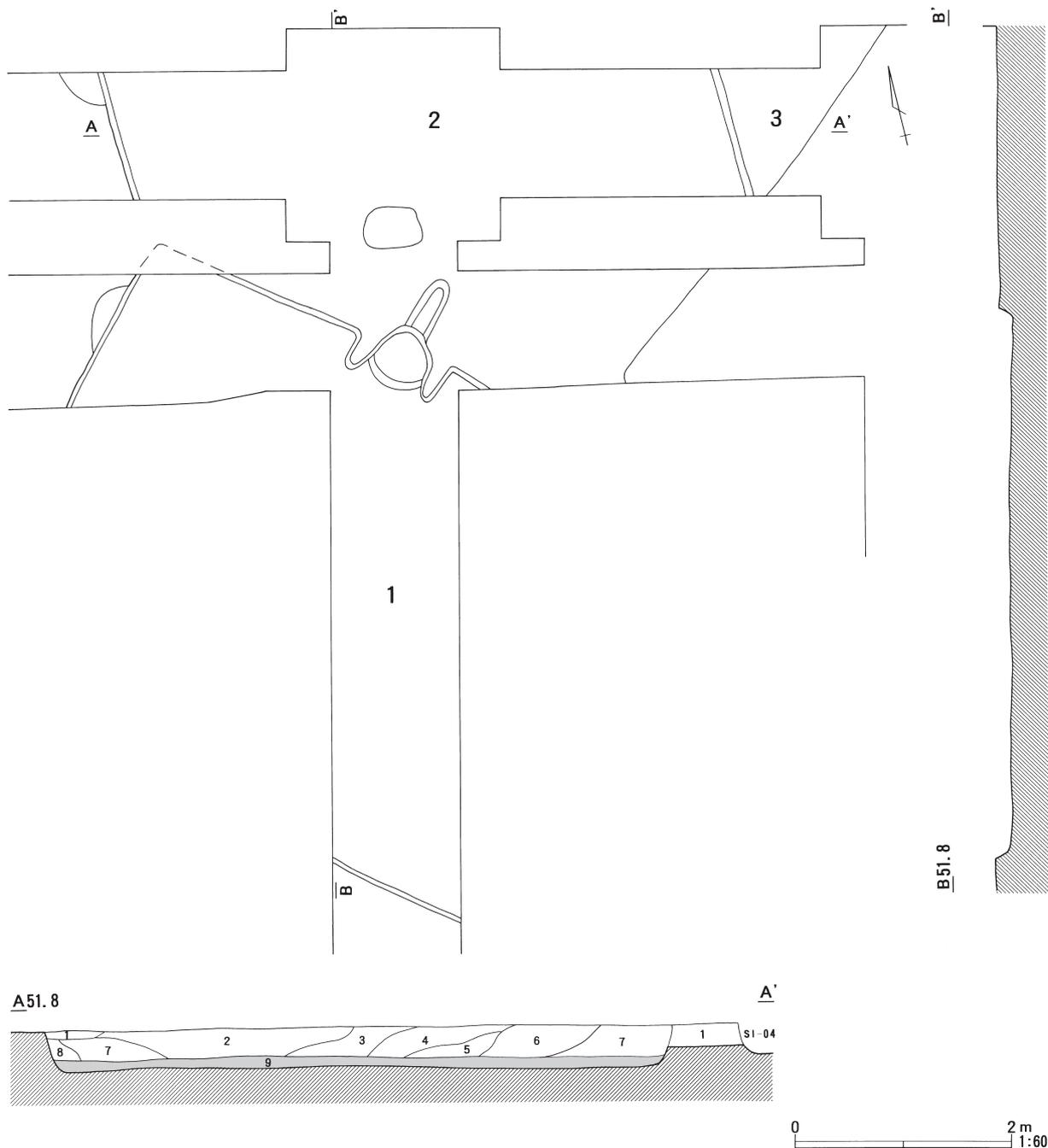
検出した18基の住居は、いずれも竪穴住居である。前節でも触れたとおり、薬師堂東遺跡が立地する本庄台地縁辺部は、密集度の高い古代集落遺跡が集中することで知られている。本調査地点においても、住居の重複が顕著であり、本庄台地縁辺部が長期間にわたって居住域として利用されていたことが窺える。

SI-1 (図28・29)

位置：調査区の中央北寄りに位置し、遺構全体の半分程が調査区外にある。SI-2・13と重複し、新旧関係は、両住居よりも新しい。**形状・規模**：整った方形を呈し、南東-北西方向にやや長く、一辺5.5mほどの規模を有すると推定される。確認面から床面までの深さは約20cmである。主軸方向はN-40°-Eを示す。**覆土**：覆土は単層でロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：北東壁のほぼ中央に竈が付設されている。煙道部は直線的に50cmほど延びる。竈本体は壁面をわずかに外側へ掘り込んだのち、粘質土ブロックや焼土ブロックなどを混合



图27 薬師堂東遺跡第2地点全体図



SI-2 土層説明

- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 5 黒褐色土 | 粘性強。 |
| 2 暗灰褐色土 | 焼土ブロック・ロームブロックを多量に含む。粘性強。 | 6 灰褐色土 | 粘性強。 |
| 3 灰褐色土 | 焼土ブロック・ロームブロックを多量に含む。 | 7 灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 4 暗褐色土 | 焼土ブロックを少量含む。粘性強。 | 8 黒灰褐色土 | 粘性強。 |
| | | 9 灰黒色土 | 貼床層。ロームブロックを多量に含み、斑状に堆積する。 |

SI-3 土層説明

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図28 薬師堂東遺跡第2地点 SI-1・2・3 平面図および断面図

した黒褐色土で構築している。燃焼部底面は床面よりわずかに窪み、燃焼部内側の左右両壁がわずかに焼土化している。土師器や炭化物など、竈に伴う遺物は検出されていない。貯蔵穴・壁溝は、調査の範囲では確認できていない。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏1、鉢2、甕3、土錘3点のほか、覆土から若干量の土師器片を検出している（図30）。2の鉢は碗ともいえる器形で、内面が摩耗している。3は鉢としては稀に見る大型品で、2と同じく内面の摩耗が観察される遺存状態から、本住居に伴うものではない可能性も考えられるが、特記すべき資料である。1の坏と4の甕は遺存状態が良好であり、とくに4の甕は本住居の帰属時期を示す資料である。

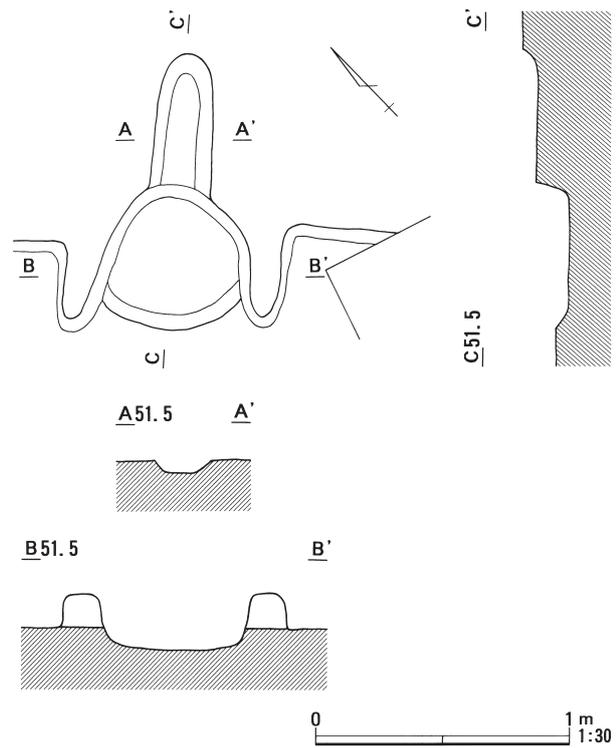


図29 薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 カマド平面図
および断面図

SI-2 (図28)

位置：調査区の中央北寄りに位置し、遺構の北半部分が調査区外にある。SI-1・3と重複し、新旧関係は、SI-1よりも新しく、SI-3よりも古い。**形状・規模**：全形は不明ながら、壁の掘り込みが直線的であり、整った方形を呈するものと推測される。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-80°-Eを示す。**覆土**：覆土はやや複雑な堆積状況を見せるが、全体に粘性の強い傾向が認められる。**床面**：床面はほぼ平坦で、貼床層を伴う。掘り方上面に、ロームブロックを多量に含んで斑状をなす灰黒色土を敷き込み、硬化が顕著である。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴は、調査区外にあるものと思われ、確認できる範囲には存在しない。壁溝も認められない。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏1、高坏1点のほか、覆土から若干量の土師器片を検出している（図31）。古墳時代後期に遡る資料である。

SI-3 (図28)

位置：調査区の中央北寄りに位置し、SI-2・4に挟まれて、僅かな範囲を残すのみである。新旧関係は、SI-2・4よりも古い。**形状・規模**：床面の一部を残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは15cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを多量に含む黒灰褐色土である。ロームブロックの混入率が高く、床面直上にあることから、外見上は貼床層のごとくであるが、顕著な硬化が認められないことから、住居廃絶後の堆積土と判断される。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：炉・竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲には存在しない。**出土遺物**：遺物は覆土から土師器の高坏脚の破片1点を検出している（図32）。古墳時代前期に遡る遺物であり、本住居への帰属は微妙であるものの、当遺跡における古墳時代集落の初現を示す資料である。

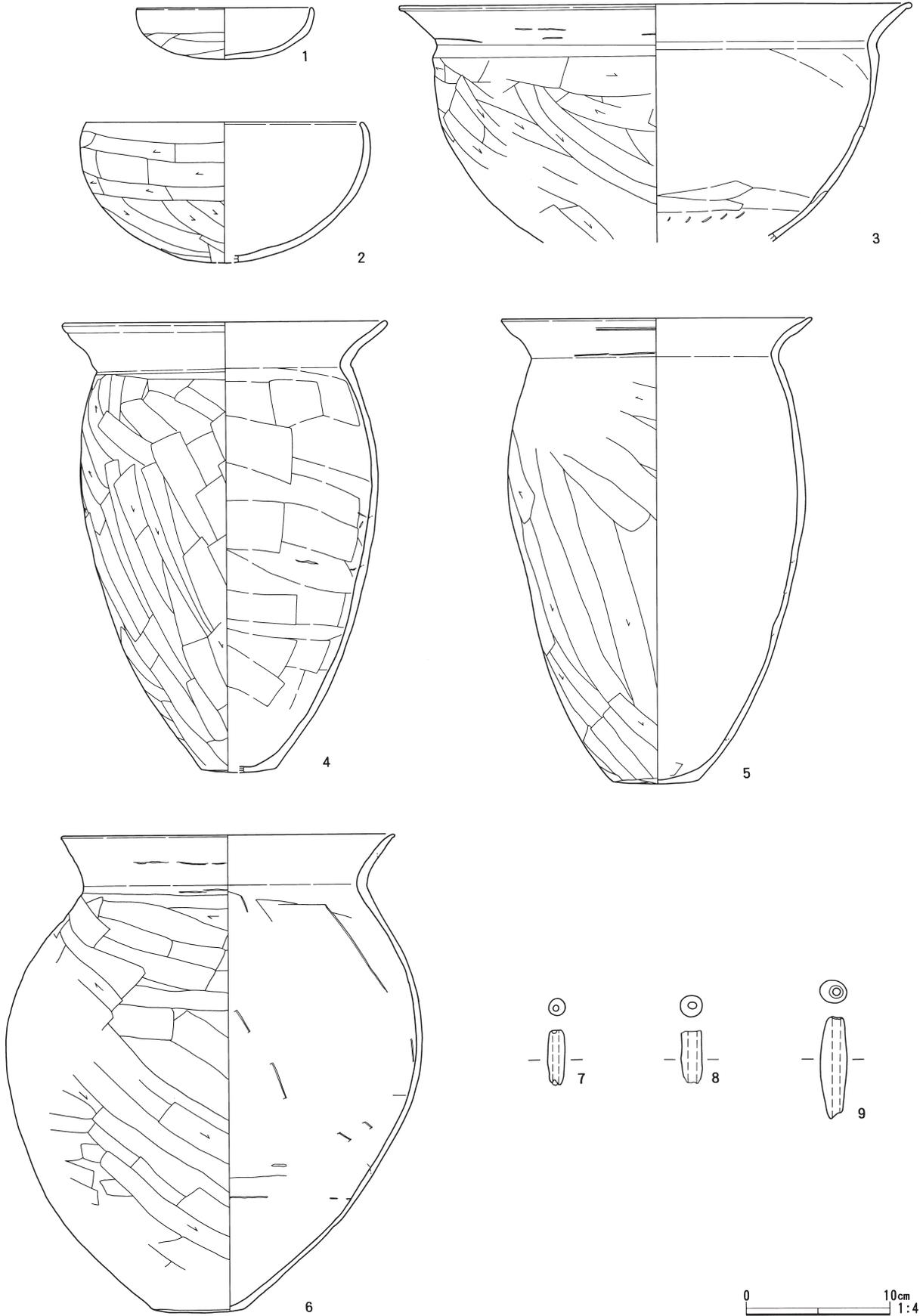


图30 薬師堂東遺跡第2地点SI-1出土遺物

SI-1 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.2 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	角閃石・石英・チャート 内外-橙色	3/4
2	土師器 鉢	口径 19.2 底径 — 器高 (9.9)	丸底。体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	角閃石・石英 内外-橙色	1/2 内面磨耗
3	土師器 大鉢	口径 35.5 底径 — 器高 —	体部は内湾して立ち上がり、口縁部で屈曲して外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・微砂粒 内-明赤褐色 外-橙色	1/2 内面磨耗
4	土師器 甕	口径 22.3 底径 (5.2) 器高 (31.7)	胴部は長胴形で、口縁部は外傾して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英 内外-明赤褐色	7/8
5	土師器 甕	口径 (21.4) 底径 5.9 器高 32.7	胴部は長胴形で、口縁部は外傾して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・片岩・砂粒・チャート 内外-にぶい橙色	3/4以上 内面磨耗
6	土師器 甕	口径 (23.1) 底径 (6.6) 器高 33.5	胴部は中位からやや上に最大径を持ち、口縁部は「く」の字状に外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・砂粒・チャート 内外-にぶい橙色	1/2 内外面磨耗
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
7	土製品	土錘	長さ：3.9 幅：1.1 孔径：0.4 重さ：5.18		角閃石・赤褐色粒 にぶい黄橙色	
8	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.5 孔径：0.6 重さ：7.65		角閃石・赤褐色粒 にぶい赤褐色	
9	土製品	土錘	長さ：7.2 幅：1.8 孔径：0.5 重さ：19.47		角閃石・赤褐色粒 明赤褐色	

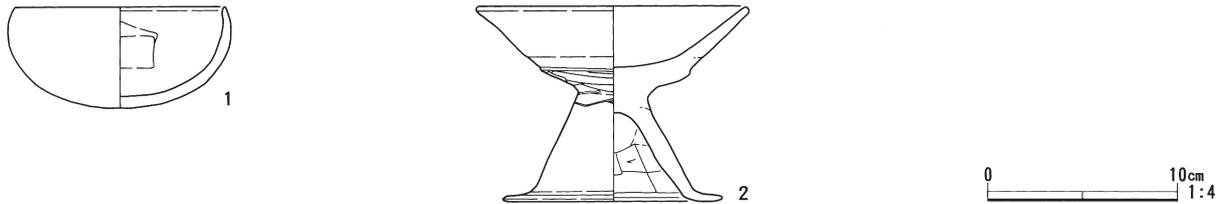


図31 薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 出土遺物

SI-2 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 5.3	丸底。体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・石英・砂礫・チャート 内-にぶい黄橙色 外-にぶい橙色	1/4 内外面磨耗
2	土師器 高坏	口径 14.1 底径 10.8 器高 10.3	坏部は体部との境に弱い稜を持ち、口縁部は外傾して開く。脚部は「ハ」の字状に開き、裾部で屈曲して開く。	外面-坏部ヨコナデ、坏部下半ヘラケズリ、脚部縦位ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、脚部ユビナデ、ヘラケズリ。	角閃石 内-明赤褐色 外-橙色	4/5

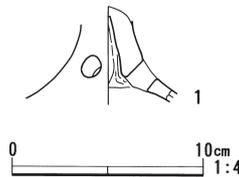
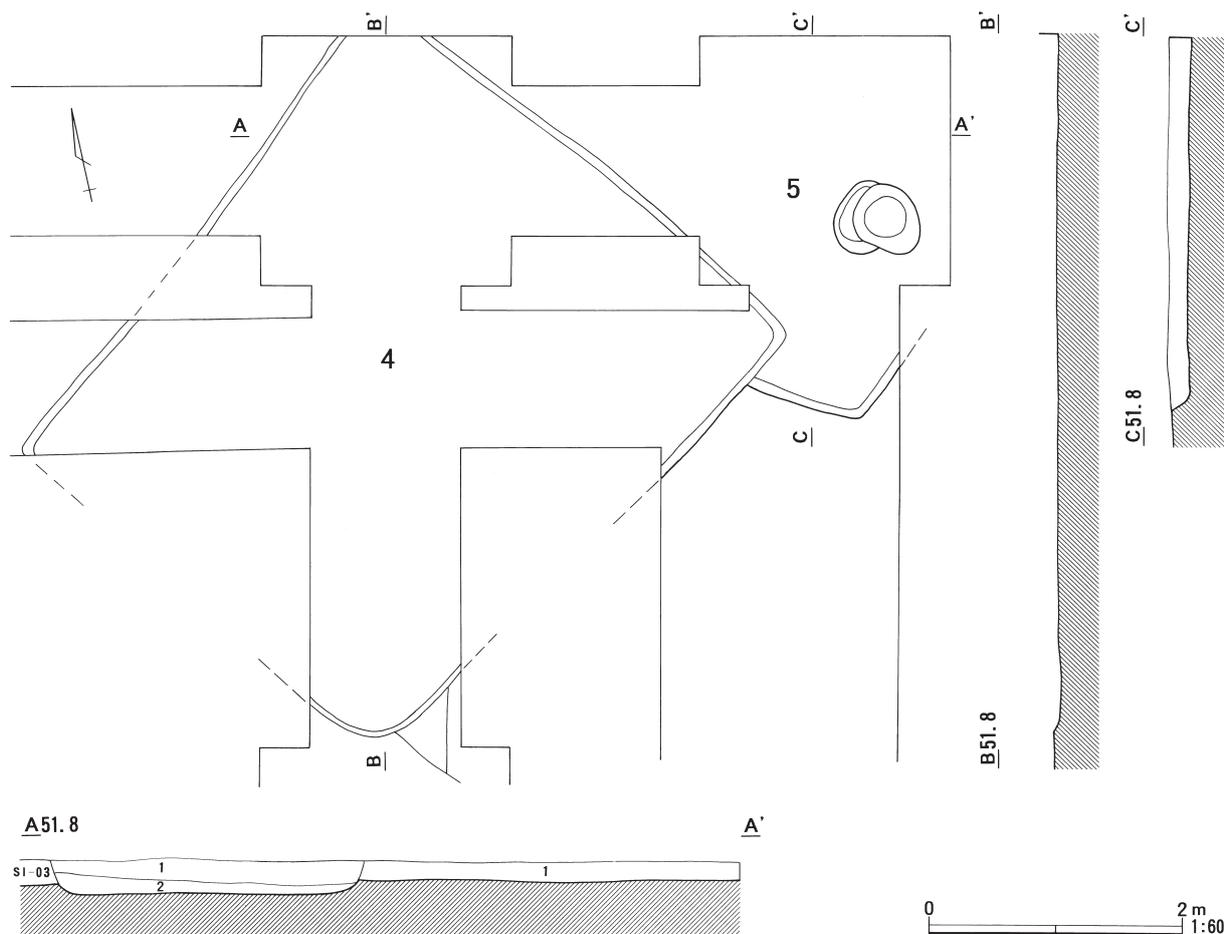


図32 薬師堂東遺跡第2地点 SI-3 出土遺物

SI-3 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高坏	口径 — 底径 — 器高 —	脚部片。脚部は細い基部からなだらかに開き、3方向に円孔が開く。	外面-ヘラミガキ。内面-上部ユビナデ、端部ヨコナデ。	角閃石・石英・砂粒・チャート 外-明赤褐色	不明 内外面磨耗



SI-4 土層説明

- 1 黒灰褐色土 礫を少量含み、ロームブロックを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

SI-5 土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図33 薬師堂東遺跡第2地点 SI-4・5 平面図および断面図

SI-4 (図33)

位置：調査区の北東寄りに位置し、SI-2・3・5・7・8と重複する。新旧関係は、これらのいずれよりも新しい。**形状・規模**：4.7×3.8mの歪んだ長方形を呈すると推測される。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-50°-Eを示す。**覆土**：覆土は2層に分割され、礫、ロームブロックが混入する。**床面**：床面は平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈その他の施設は確認できない。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の小型台付甕1、甕11、須恵器の坏2、土錘11点を検出している(図34~36)。

SI-5 (図33)

位置：調査区の北東隅に位置し、SI-4と重複する。新旧関係は、SI-4よりも古い。**形状・規模**：壁は南隅の一部を残すのみで、全体の形状や主軸方向は不明である。確認面から床面までの深さは15cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを含む暗灰褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できない。**施設**：竈その他の施設は確認できない。**出土遺物**：遺物は床面で土師器の甕1点を検出している(図37)。

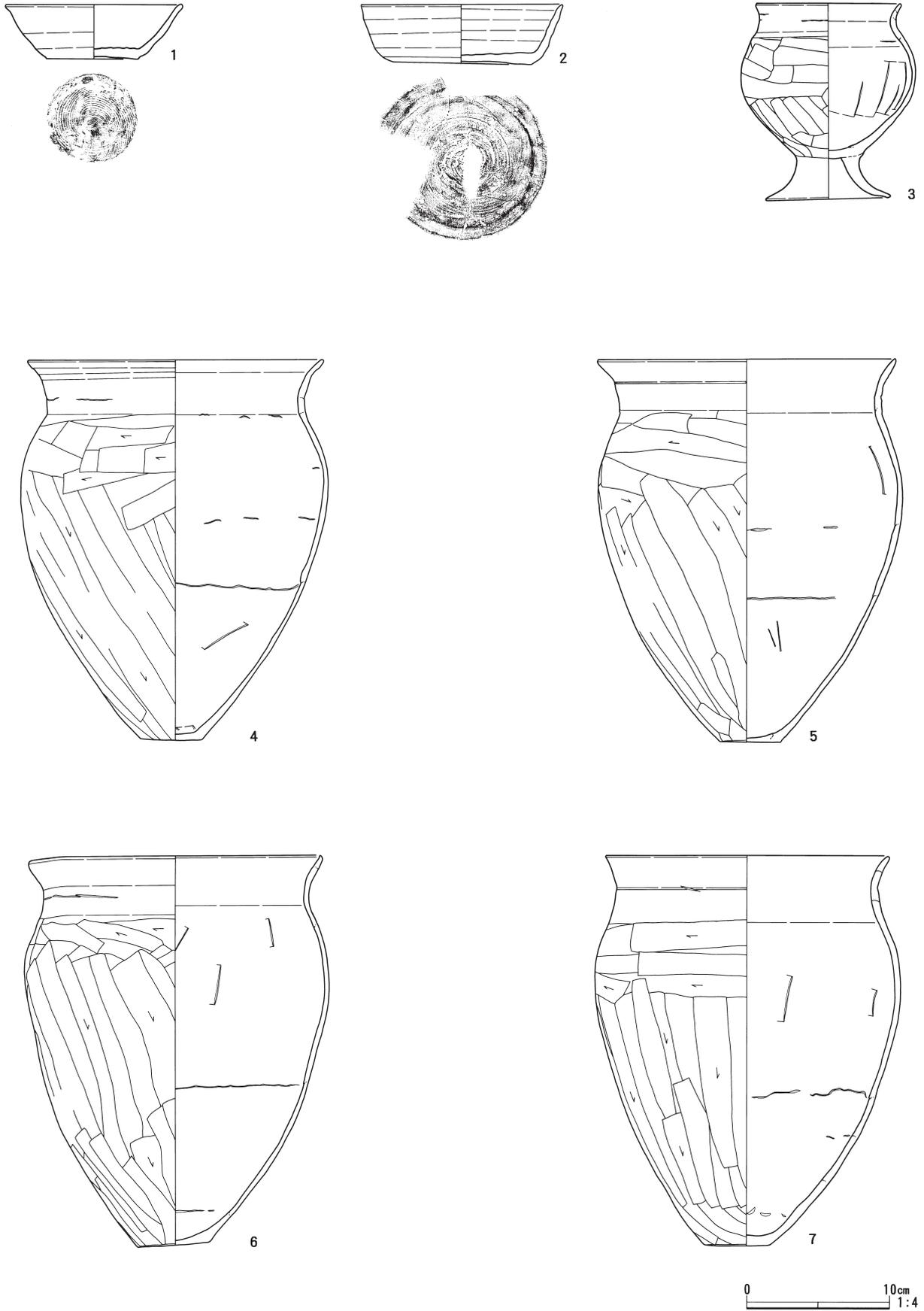
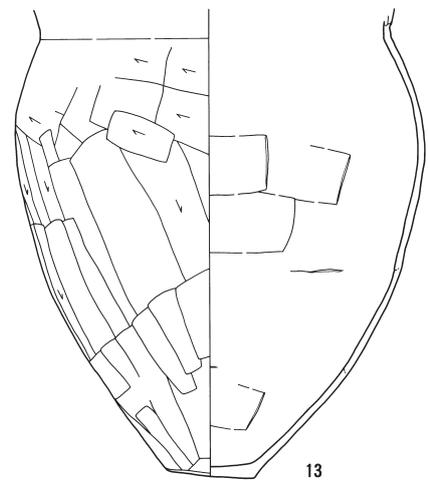
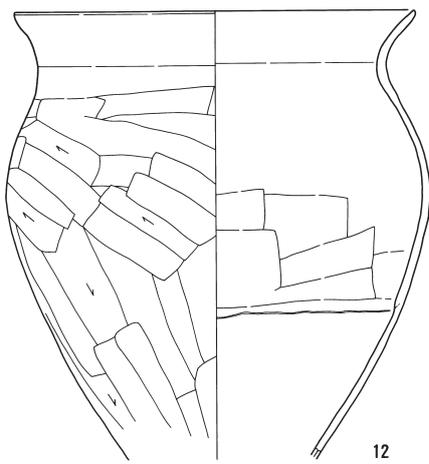
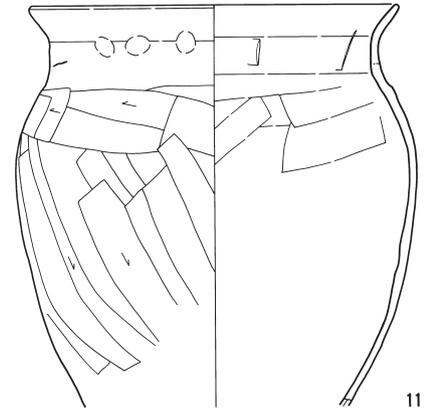
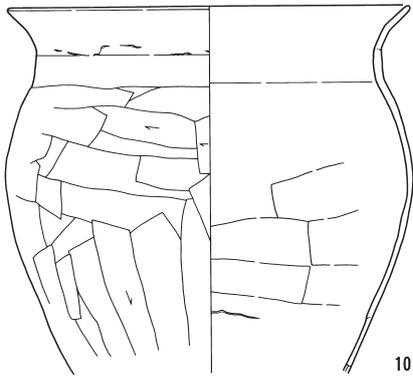
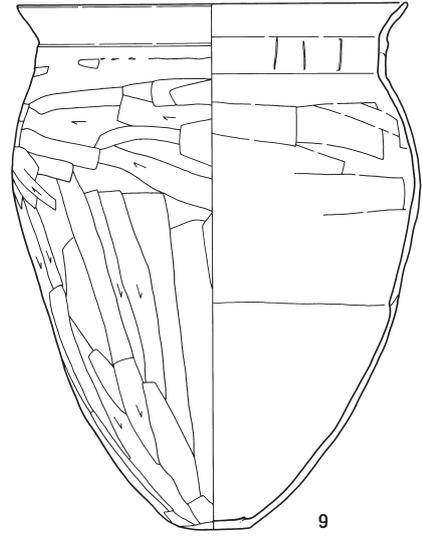
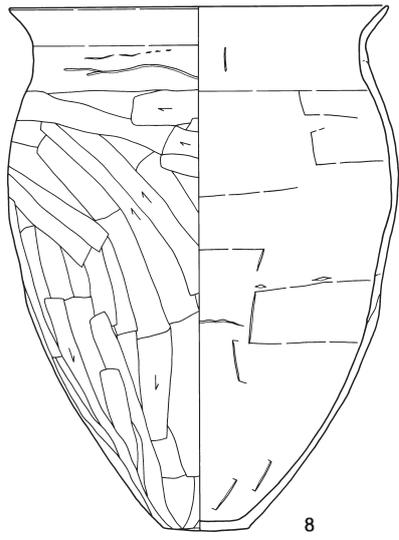


图34 薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(1)



0 10cm
1:4

图35 薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(2)

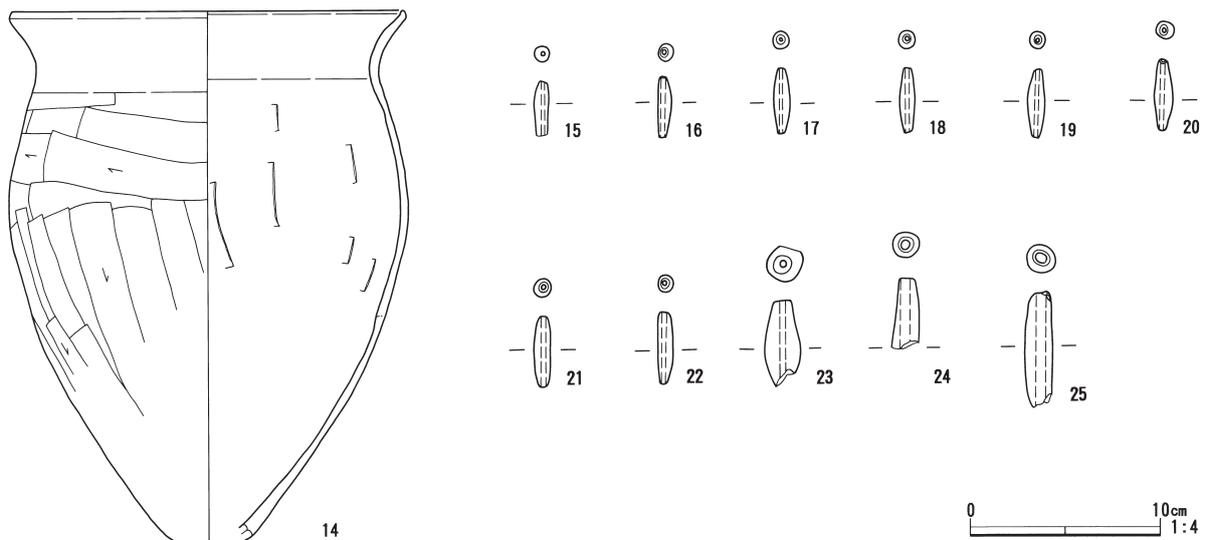


図36 薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(3)

SI-4 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 坏	口径 12.4 底径 6.3 器高 3.8	平底。体部は外傾して開き、端部で僅かに外反する。ロクロ成形。	底部回転糸切り離し。外面一回転ナデ、底部回転糸切り。内面一回転ナデ。	角閃石・砂粒・砂礫 内外-橙色	3/4 ロクロ右回転
2	須恵器 坏	口径 14.1 底径 9.5 器高 4.0	平底。体部は外傾して開く。ロクロ成形。	底部回転ヘラ切り離し。体部下端回転ヘラケズリ。外面一回転ナデ。内面一回転ナデ。	白色鈹物粒 内外-灰白色	4/5 ロクロ右回転
3	土師器 小型台付甕	口径 10.0 底径 8.4 器高 13.8	低い脚台が付く。胴部は膨らみを持ち、口縁部は「く」の字状に外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、裾部ヨコナデ。	角閃石・砂粒 内外-橙色	口縁・脚部一部欠損
4	土師器 甕	口径 (20.5) 底径 4.3 器高 26.8	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・砂粒・暗赤褐色粒 内外-明赤褐色	1/2
5	土師器 甕	口径 20.8 底径 4.3 器高 27.0	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・砂粒・暗赤褐色粒 内外-橙色	3/4
6	土師器 甕	口径 20.4 底径 5.0 器高 27.6	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・片岩・チャート・暗赤褐色粒 内外-橙色	4/5以上
7	土師器 甕	口径 19.6 底径 4.5 器高 27.5	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は胴部から緩やかに括れ、外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・微砂粒・暗赤褐色粒 内外-橙色	4/5以上
8	土師器 甕	口径 19.8 底径 4.5 器高 27.8	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・片岩・暗赤褐色粒 内外-橙色	4/5
9	土師器 甕	口径 20.4 底径 3.8 器高 27.8	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・チャート・暗赤褐色粒 内-橙色 外-上部浅黄褐色	ほぼ完形
10	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 - 器高 -	胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラケズリ、胴部下半縦位ヘラケズリ。内面-ヘラナデ。	角閃石・チャート・砂粒・暗赤褐色粒 内外-にぶい橙色	1/4以下 内面摩擦
11	土師器 甕	口径 19.1 底径 - 器高 -	胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、指頭痕、胴部ヘラケズリ。内面-ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・暗赤褐色粒・微砂粒 内外-橙色	1/3
12	土師器 甕	口径 21.0 底径 - 器高 -	胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁気味で端部は上方に向く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・砂粒・チャート 内外-橙色	底部・口縁部 1/4欠損
13	土師器 甕	口径 - 底径 4.8 器高 -	小さな平底。胴部は上位に最大径を持つ。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-ヘラナデ。	角閃石・石英・片岩・暗赤褐色粒 内-にぶい橙色 外-にぶい赤褐色	2/5

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
14	土師器 甕	口径 (20.6) 底径 (4.6) 器高 —	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は胴部から緩やかに括れ、外反する。口縁端部を小さく上方に摘み上げる。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・チャート・暗赤褐色粒 内-明赤褐色 外-橙色	1/3
No.	種類	器種	法量 (cm・g)		胎土・色調	備考
15	土製品	土錘	長さ：— 幅：0.8 孔径：0.2 重さ：2.04		角閃石・チャートにぶい黄橙色	
16	土製品	土錘	長さ：3.3 幅：0.8 孔径：0.3 重さ：1.98		角閃石・赤褐色粒 橙色	
17	土製品	土錘	長さ：3.5 幅：0.8 孔径：0.2 重さ：2.61		角閃石・赤褐色粒 橙色	
18	土製品	土錘	長さ：3.5 幅：0.9 孔径：0.2 重さ：2.63		角閃石・赤褐色粒 橙色	
19	土製品	土錘	長さ：3.7 幅：0.9 孔径：0.2 重さ：2.87		角閃石・赤褐色粒 橙色	
20	土製品	土錘	長さ：3.8 幅：1.0 孔径：0.2 重さ：3.17		角閃石・赤褐色粒にぶい橙色	
21	土製品	土錘	長さ：3.8 幅：0.9 孔径：0.2 重さ：3.19		赤褐色粒・砂粒 橙色	
22	土製品	土錘	長さ：3.9 幅：0.8 孔径：0.2 重さ：3.05		角閃石・赤褐色粒にぶい橙色	
23	土製品	土錘	長さ：4.6 幅：1.9 孔径：0.3 重さ：12.77		角閃石・白色粒にぶい褐色	
24	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：6.45		赤褐色粒・白色粒にぶい黄橙色	
25	土製品	土錘	長さ：6.1 幅：1.5 孔径：0.6 重さ：13.63		赤褐色粒・白色粒にぶい橙色	

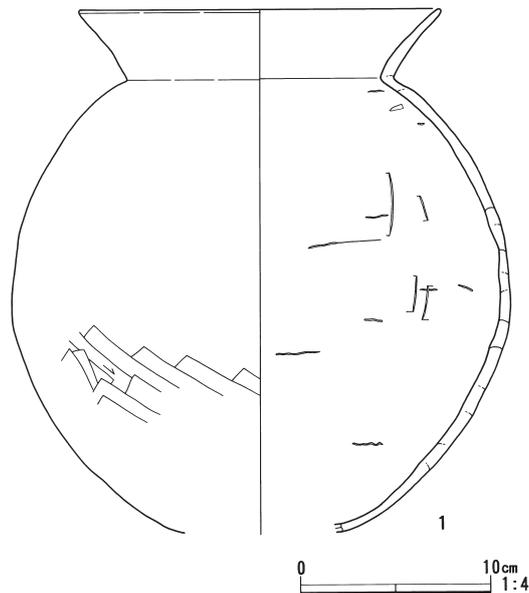


図37 薬師堂東遺跡第2地点 SI-5 出土遺物

SI-5 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 (18.8) 底径 — 器高 —	胴部は球胴形で、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラケズリ後ナデ、下半ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・チャート・長石 内-にぶい黄褐色 外-橙色	1/3

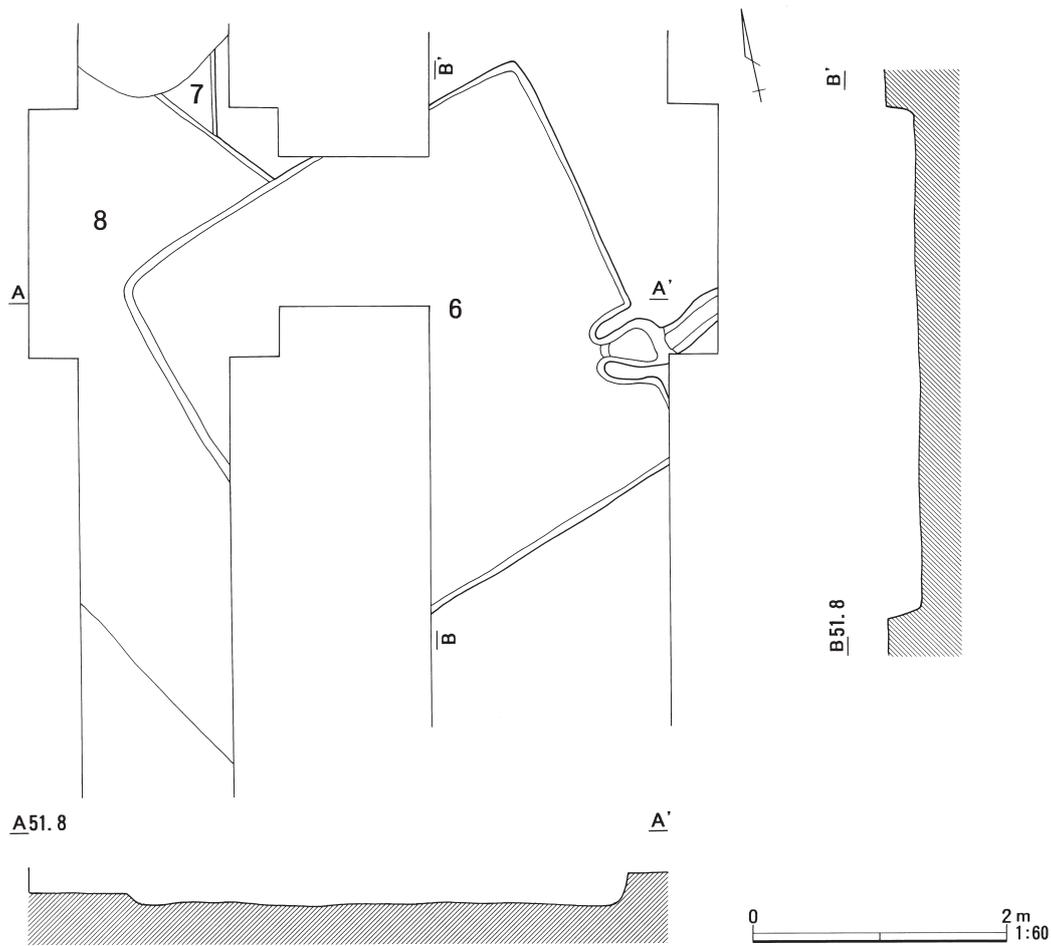


図38 薬師堂東遺跡第2地点 SI-6・7・8 平面図および断面図

SI-6 (図38・39)

位置：調査区の東壁際に位置し、SI-8と重複する。新旧関係は、SI-8よりも新しい。**形状・規模：**形状は若干の歪みをもつが、ほぼ正方形に近く、一辺3.3mから3.7mほどの規模を有する。確認面から床面までの深さは30cm前後である。主軸方向はN-70°-Eを示す。**覆土：**覆土は単層でロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。**床面：**床面にはごく緩やかな起伏が認められる。貼床をもたず、掘り込んだ地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴：**柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設：**東壁の南東隅に寄って竈が付設されている。煙道部は壁からやや斜めの方向へ50cm以上延び、先端は調査区外に達している。竈本体は壁面をわずかに外側へ掘り込んだのち、粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物ブロックなどを混合した黒褐色土で構築している。竈の左袖側は住居の壁に対し、直交するように構築されているが、右袖側の壁に対して明らかに斜行して造り付けられている。このためか、竈の焚口も壁に向かって斜めに開口しており、竈の全体形も、原形は左右の均整がとれた形状ではなかったことが推測される。また、燃烧部内面の空間に比べ、焚口が比較的狭いという特徴が見られる。さらに、煙道部と燃烧部は、住居壁への取り付け角が逆向きであり、このため煙道部と燃烧部の接続部は、30°以上屈曲している。加えて、煙道部が燃烧部に対し、偏った位置に付いている。燃烧部の底面は、床面よりも窪んでいる。燃烧部内側の左右の両壁は、上部が僅かに焼土化しているものの、土師器や炭化物など、竈に伴う遺物は検出されていない。なお、貯蔵穴と壁溝は、調査の範囲では確認できていない。南西隅から西壁にかけて未調査の範囲が

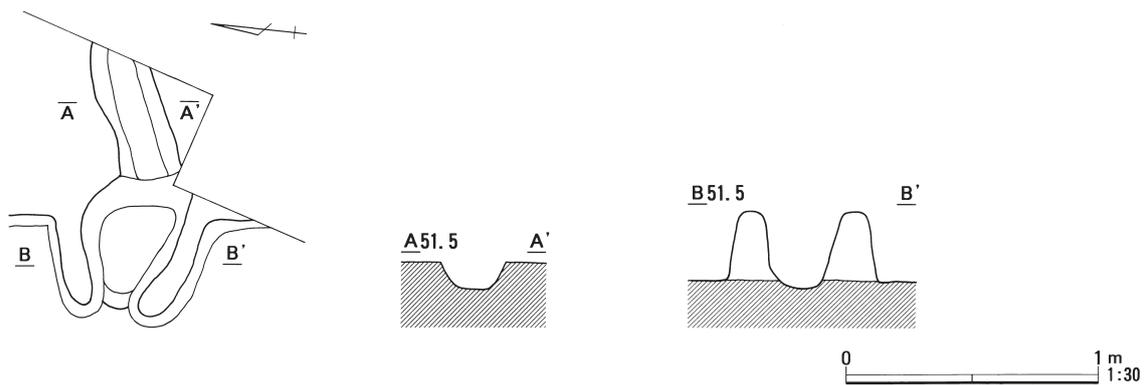


図39 薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 カマド平面図および断面図

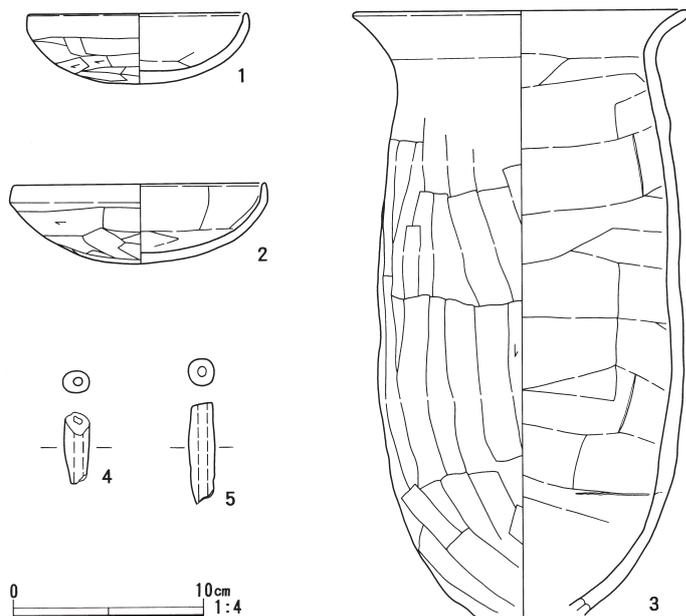


図40 薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 出土遺物

所在し、当該箇所には貯蔵穴が設けられていた可能性は残る。壁溝は検出の範囲には認められず、本来付設されていなかった可能性が高い。出土遺物：遺物は床面付近で、土師器の坏2、甕1点、覆土から土錘2点のほか若干量の土師器片を検出している（図40）。坏は2点とも底部から内湾し、口縁部が短く立ち上がる形式の坏である。甕は胴部よりも口縁部径が大きく、胴部の最大径が下半部にある。坏の形式と時期的に符合する。2の坏は、ほぼ完形であり、本住居の帰属時期を示す資料であろう。

SI-6 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.4 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は内湾し、口縁部は上方に向かって短く立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英 内外-橙色	1/2 外面磨耗
2	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は内湾し、口縁部は上方に向かって短く立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石・チャート 内外-橙色	ほぼ完形 外面磨耗
3	土師器 甕	口径 (17.3) 底径 — 器高 —	胴部は長胴形で、口縁部は強く屈曲して外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・チャート・砂礫 多量 内-にぶい赤褐色 外-にぶい橙色	1/2以下
No.	種類	器種	法量 (cm・g)		胎土・色調	備考
4	土製品	土錘	長さ：— 幅：0.8 孔径：0.4 重さ：4.67		角閃石・赤褐色粒 にぶい黄橙色	
5	土製品	土錘	長さ：5.4 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：9.61		角閃石・チャート にぶい黄橙色	

SI-7 (図38)

位置：調査区の中央南東寄りに位置し、SI-4・8と重複する。新旧関係は、両住居よりも古い。形状・規模：壁と床面の一部を僅かに残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは10cm弱である。覆土：覆土は単層で、ロームブロックを多量に含む黒褐色土である。同層はロー

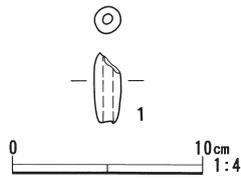


図41 薬師堂東遺跡第2地点 SI-7 出土遺物

ムブロックの混入率が高いものの、顕著な硬化が認められないことから、住居廃絶後の堆積土と判断される。**床面**：床面は平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できない。**施設**：炉・竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝も、確認しうる状況にはない。**出土遺物**：遺物は覆土から土錘1点を検出している（図41）。

SI-7 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：5.89	暗赤褐色粒にぶい褐色	

SI-8 (図38)

位置：調査区の中央南東寄りに位置し、SI-4・6・11と重複する。いずれの住居よりも古い。**形状・規模**：北西側の一辺を残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは10cm強である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できない。**施設**：炉・竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認しうる状況にはない。**出土遺物**：遺物は床面付近で土師器の坏2、鉢1のほか、土錘3点を検出している（図42）。

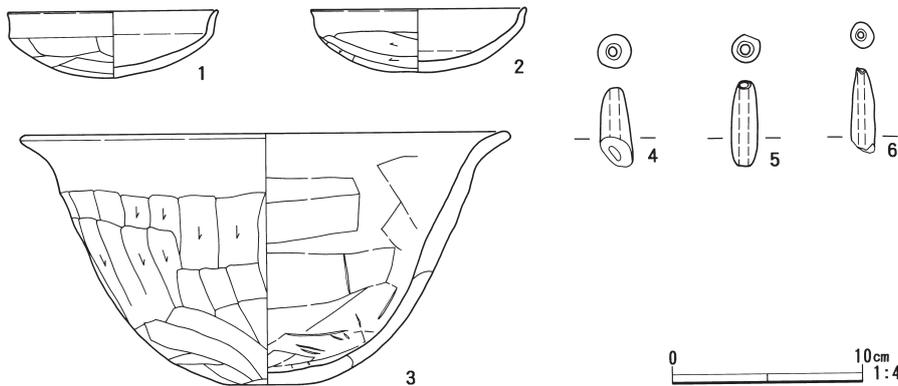
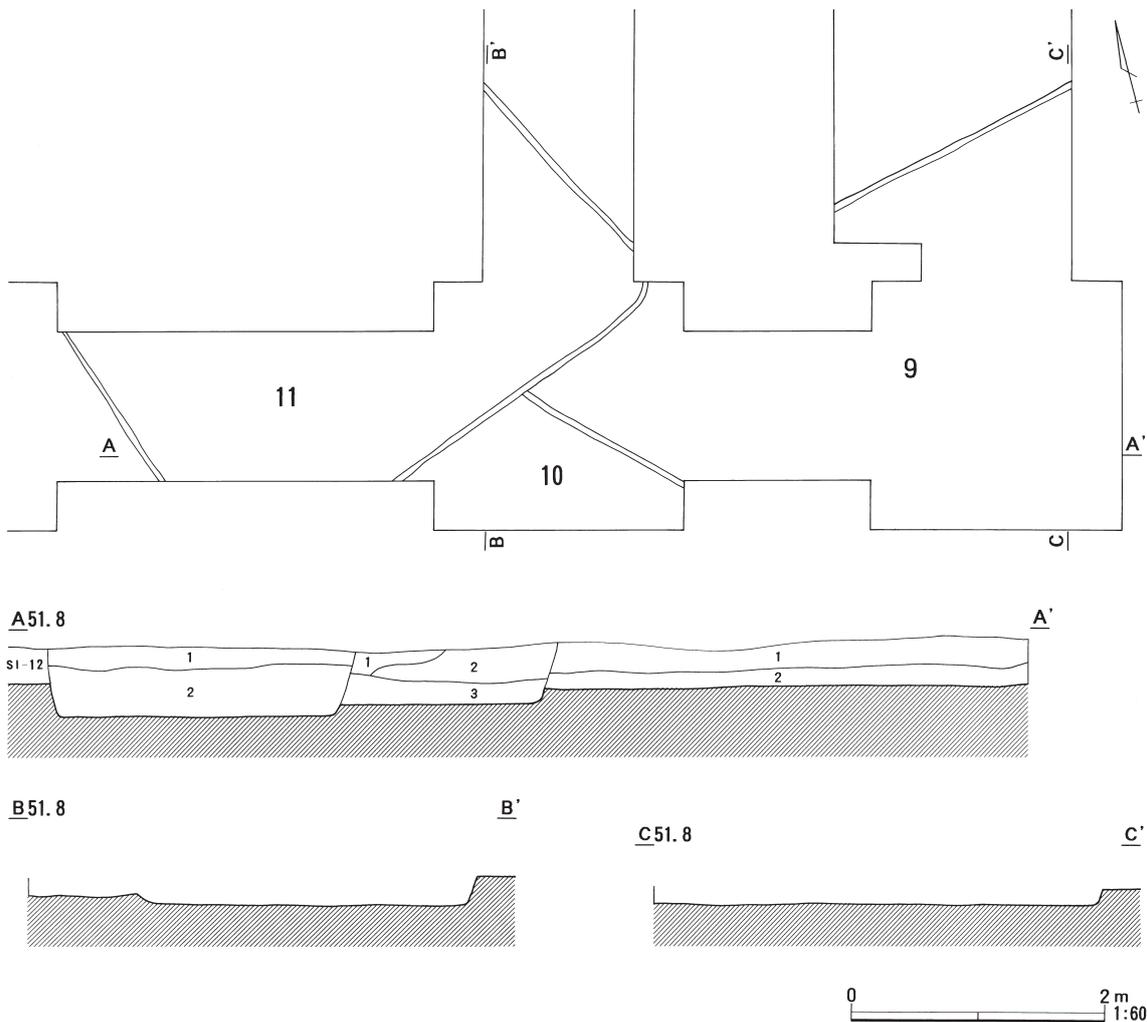


図42 薬師堂東遺跡第2地点 SI-8 出土遺物

SI-8 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土師器 坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.5	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・石英・砂粒 内-にぶい橙色 外-にぶい黄橙色	1/2以上 内外面磨耗
2	土師器 坏	口径 11.2 底径 — 器高 3.3	丸底。体部と口縁部の境に弱い稜を持ち口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英・砂粒 内-橙色 外-明赤褐色	2/3
3	土師器 鉢	口径 (25.2) 底径 4.0 器高 13.3	平底。体部は下半部で内湾気味に立ち上がり上半で外傾し、口縁部は外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・チャート・砂礫 多量 内外-にぶい橙色	1/2以下
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備 考
4	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.7 孔径：0.4 重さ：10.54		角閃石・白色粒 明赤褐色	
5	土製品	土錘	長さ：4.4 幅：1.4 孔径：0.5 重さ：8.81		チャート・赤褐色粒 にぶい黄橙色	
6	土製品	土錘	長さ：— 幅：1.2 孔径：0.3 重さ：6.66		角閃石・白色粒 明赤褐色	



SI-9 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

SI-11 土層説明

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

SI-10 土層説明

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを少量含み、ロームブロックを多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

図43 薬師堂東遺跡第2地点 SI-9・10・11平面図および断面図

SI-9 (図43)

位置：調査区の南東端に位置し、SI-10・11と重複する。新旧関係は、両住居よりも古い。**形状・規模**：壁と床面の一部を僅かに残すのみで、全体の形状は不明であるが、他例に比較してやや大型の住居になると考えられる。確認面から床面までの深さは35cm前後である。**覆土**：覆土は2層に分割され、ほとんど水平に堆積している。下層にはロームブロックを多量に含む黒褐色土、上層にもロームブロックを少量含む黒褐色土が見られる。下層に含まれるロームブロックは、粒径の大きなものが目立ち、黒褐色土と均等に混合され、15cm前後の厚さで堆積していることから、意図的に埋め戻された印象を受ける。上層の黒褐色土は、自然堆積と考えて差し支えないであろう。**床面**：床面はほぼ平坦であるが、西側に向かってごく僅かに傾斜している。貼床は敷設せず、地山ローム層を床面として

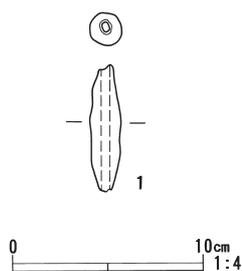


図44 薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 出土遺物

いる。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。燃焼施設と貯蔵穴は、調査区外に存在する可能性が考えられる。**出土遺物**：遺物は覆土から土錘1点を出土したほか、若干量の土師器片を検出したのみで、出土量はきわめて少ない（図44）。

SI-9 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ：6.7 幅：1.7 孔径：0.5 重さ：15.50	角閃石・チャートにぶい黄橙色	

SI-10 (図43)

位置：調査区の南端に位置し、SI-9・11と重複する。新旧関係は、SI-9より新しく、SI-11よりも古い。**形状・規模**：壁と床面の一部を僅かに残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは45cm前後である。**覆土**：覆土は3層に分割され、下層にはロームブロックを少量含む黒褐色土、上層に焼土ブロックや多量のロームブロックを含む黒褐色土が堆積する。**床面**：床面はほぼ平坦で、貼床は敷設せず、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。**出土遺物**：調査対象が狭いためか、遺物の出土量はきわめて少なく、土師器の細片を若干量検出したのみである。

SI-11 (図43)

位置：調査区の南端に位置し、SI-8・9・10・11・12と重複する。新旧関係は、いずれの住居よりも新しい。**形状・規模**：平面形は隅丸で歪んだ方形をなすようである。一辺4mほどの規模を有すると推定される。確認面から床面までの深さは55cm前後である。**覆土**：覆土は2層に分割され、下層に暗褐色土、上層に黒褐色土が堆積する。覆土全体に粒径の大きなロームブロックを多量に含んでいる。人工的な埋め戻しが行われた可能性も考えられる。**床面**：床面はほぼ平坦で、貼床は敷設せず、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。**出土遺物**：遺物は覆土から土錘3点を出土したほか、若干量の土師器片を検出したのみで、出土量はきわめて少ない（図45）。

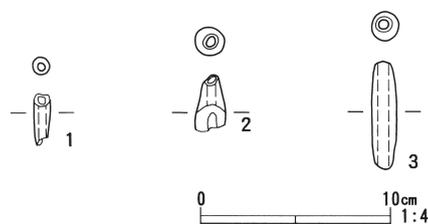


図45 薬師堂東遺跡第2地点 SI-11出土遺物

SI-11 出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 量 (cm・g)	胎土・色調	備 考
1	土製品	土錘	長さ：— 幅：0.9 孔径：0.4 重さ：1.75	角閃石・赤褐色粒にぶい橙色	
2	土製品	土錘	長さ：— 幅：— 孔径：0.4 重さ：4.47	チャート・白色粒黒褐色	
3	土製品	土錘	長さ：5.7 幅：1.4 孔径：0.6 重さ：10.13	チャート・赤褐色粒にぶい黄橙色	

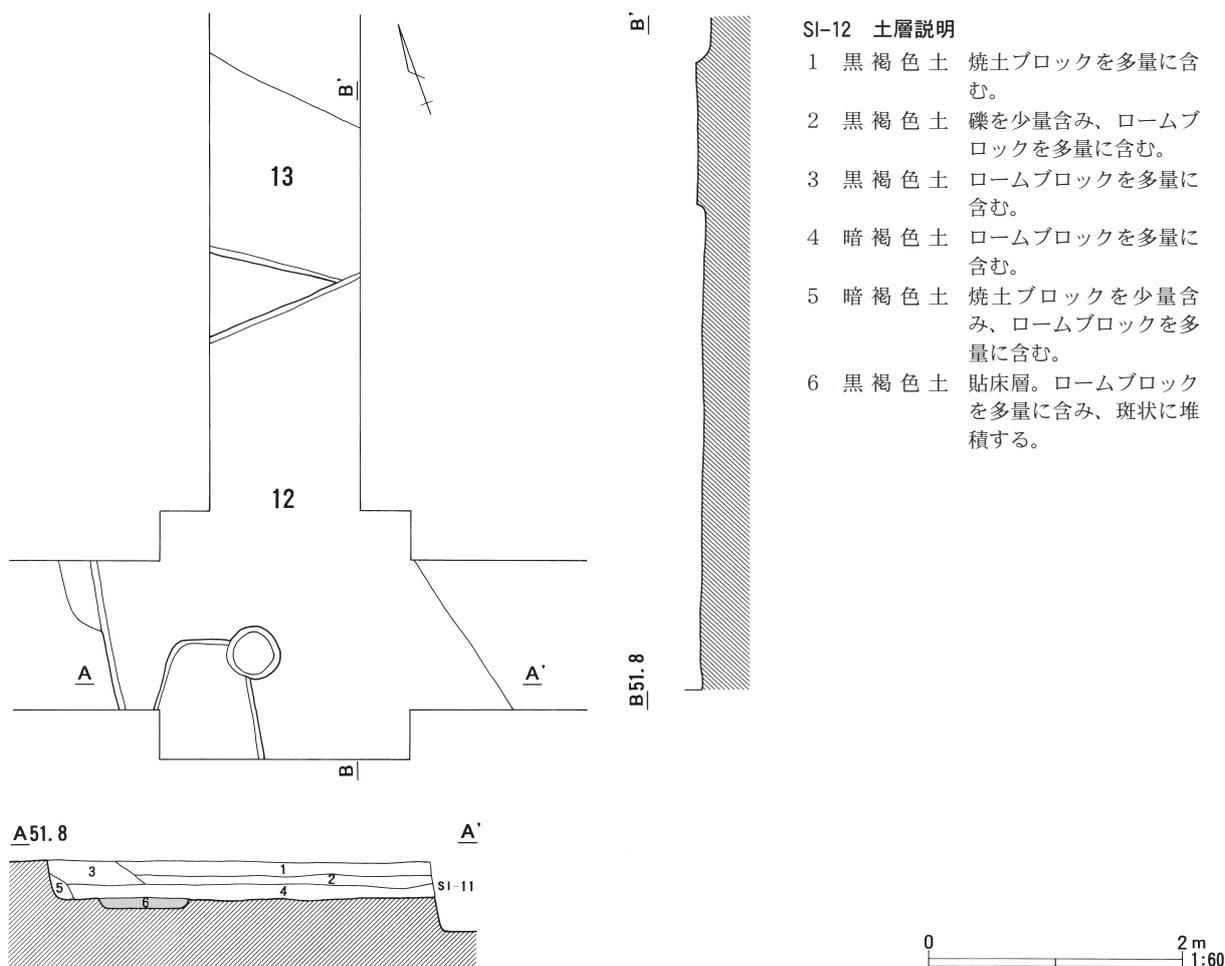


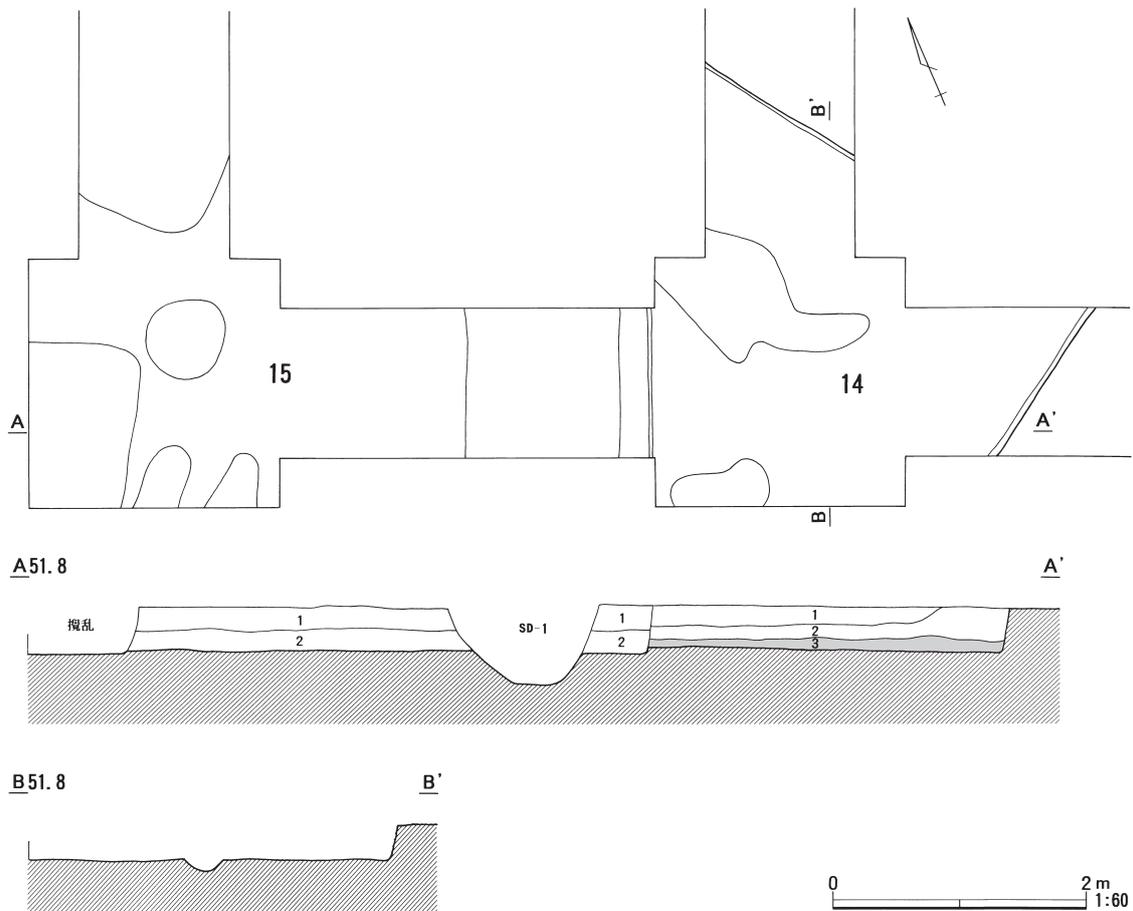
図46 薬師堂東遺跡第2地点 SI-12・13平面図および断面図

SI-12 (図46)

位置：調査区の南端に位置し、SI-11・13と重複する。新旧関係は、SI-11より古く、SI-13よりも新しい。**形状・規模**：2辺の壁と床面の一部を残すが、調査区外にある北西隅は鈍角をなすようで、全体の形状は歪んだ方形を呈するようである。確認面から床面までの深さは30cm前後である。**覆土**：覆土はおおよそ2層に大別され、下位に暗褐色土、上位に黒褐色土が堆積する。**床面**：床面には部分的に浅い土坑状の落ち込みがあり、この部分にロームブロックを多量に含んで斑状をなす黒褐色土を敷き込んで貼床としている。その他は地山ローム層を床面とし、緩やかな起伏が認められる。**柱穴**：柱穴は確認できない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。**出土遺物**：遺物の出土量はきわめて少なく、土師器の細片を若干量検出したのみである。

SI-13 (図46)

位置：調査区の中央南寄りに位置し、SI-1・12と重複する。新旧関係は、両住居よりも古い。**形状・規模**：壁と床面の一部を僅かに残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは20cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦で、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できない。**施設**：炉・竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認しうる状況にはない。**出土遺物**：遺物は出土していない。



SI-14 土層説明

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性強。
- 3 黒灰褐色土 貼床層。ロームブロックを多量に含む、斑状に堆積する。

SI-15 土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性強。

図47 薬師堂東遺跡第2地点 SI-14・15平面図および断面図

SI-14 (図47)

位置：調査区の南端に位置し、SI-15と重複する。新旧関係は、SI-15よりも古い。**形状・規模**：2辺の壁と床面の一部を残し、調査区外にある東隅はほぼ直角をなすようで、全体の形状は比較的整った方形を呈するようである。確認面から床面までの深さは25cm前後である。**覆土**：覆土は2層に分かれ、下位にロームブロックを多量に含み、粘性の強い暗褐色土、上位にロームブロックを多量に含む暗灰褐色土が堆積する。**床面**：床面はほぼ平坦で、貼床層を伴う。掘り方上面に、ロームブロックを多量に含んで斑状をなす黒灰褐色土を敷き込み、硬化が顕著である。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。燃焼施設と貯蔵穴は、調査区外に存在する可能性が考えられる。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏3点のほか若干量の土師器片を検出している(図48)。坏はいずれも典型的な坏蓋模倣坏で、古墳時代中期末葉または後期初頭に編年される資料である。3点とも破片資料であるが、同一型式に属すると判断されることから、本住居も前記の時期に帰属するものであろう。

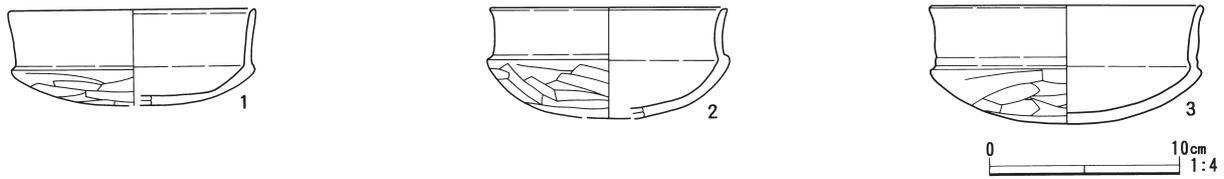


図48 薬師堂東遺跡第2地点 SI-14出土遺物

SI-14 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 杯	口径 (13.0) 底径 — 器高 (5.0)	丸底。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持ち口縁部は僅かに外傾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	角閃石・石英・片岩・チャート 内－橙色 外－明赤褐色	1/4以下 内外面磨耗
2	土師器 杯	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	丸底。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持ち口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。	角閃石・砂粒・チャート 内外－にぶい橙色	1/4以下 内外面磨耗
3	土師器 杯	口径 (14.0) 底径 — 器高 6.2	丸底。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持ち口縁部は僅かに外傾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・石英・砂粒 内－明赤褐色 外－橙色	1/2以下 内面－摩耗

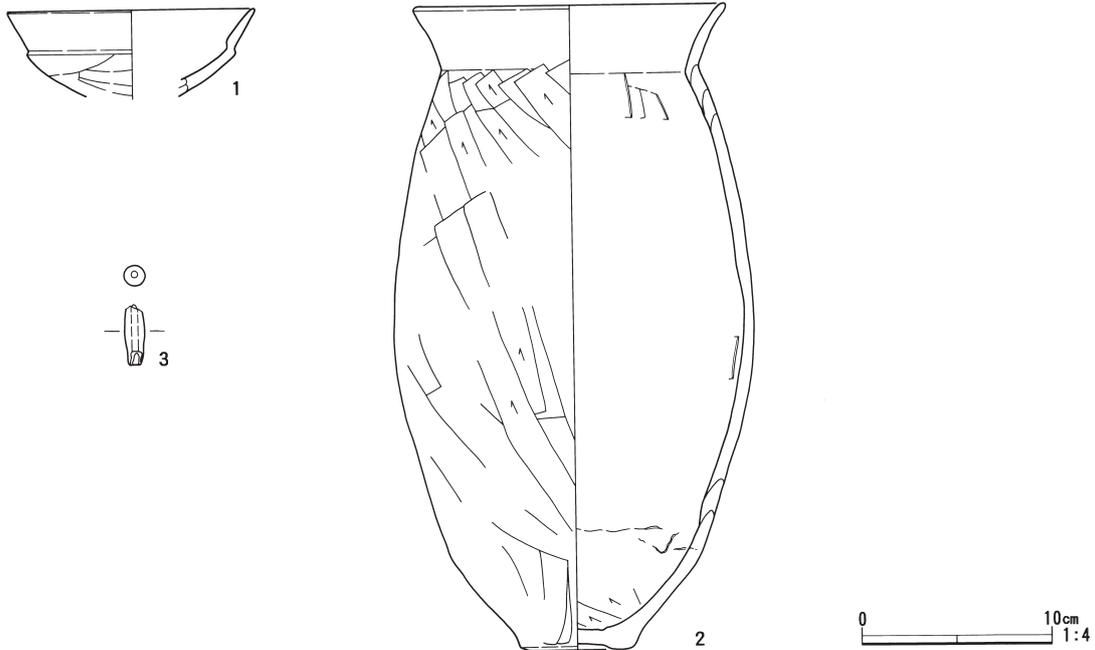


図49 薬師堂東遺跡第2地点 SI-15出土遺物

SI-15 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 杯	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	丸底。体部と口縁部の境に稜を持ち口縁部は外傾して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	片岩・砂粒 内－明赤褐色 外－橙色	1/3 内面－摩耗
2	土師器 甕	口径 (16.0) 底径 6.0 器高 34.2	平底。胴部は長胴形で口縁は「く」の字状に外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。	角閃石・長石・暗赤褐色 内－明赤褐色 外－橙色	1/3以上
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
3	土製品	土錘	長さ：－ 幅：1.1 孔径：0.3 重さ：3.10		角閃石・赤褐色粒 褐灰色	

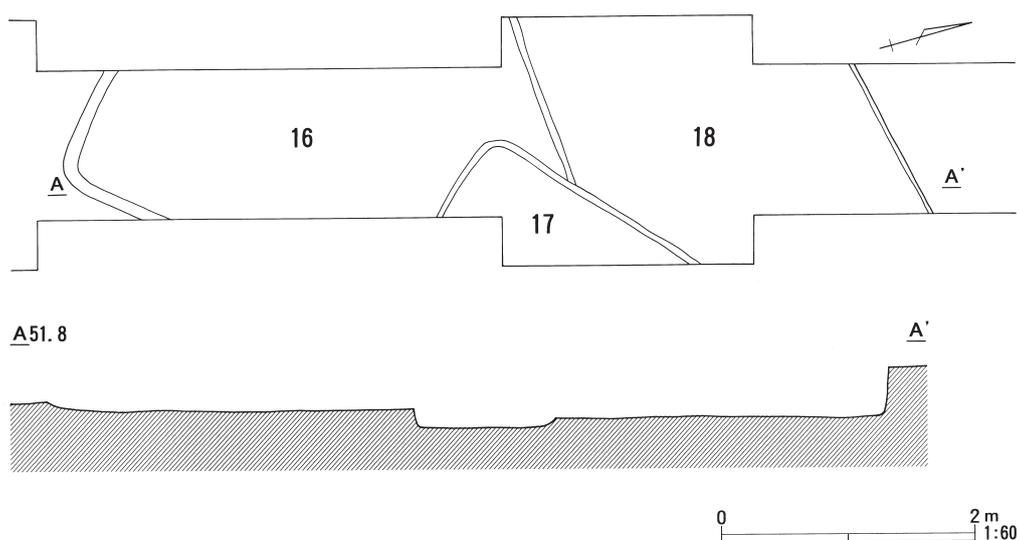


図50 薬師堂東遺跡第2地点 SI-16・17・18平面図および断面図

SI-15 (図47)

位置：調査区の南西端に位置し、SI-14・16と重複する。新旧関係は、SI-14よりも新しく、SI-16よりも古い。また、東壁際をSD-1が東西に走行している。**形状・規模**：壁と床面の一部を僅かに残すのみで、全体の形状は不明である。確認面から床面までの深さは35cm前後である。**覆土**：覆土は2層に分かれ、下位にロームブロックを多量に含み、粘性の強い暗褐色土、上位にロームブロックを多量に含む黒灰褐色土が堆積する。**床面**：床面にはごく緩やかな起伏が認められる。貼床をもたず、掘り込んだ地山ローム層をそのまま床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。燃焼施設と貯蔵穴は、調査区外に存在する可能性が考えられる。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の坏1、甕1、覆土から土錘1点のほか若干量の土師器片を検出している(図49)。坏は口縁部が大きく外反する。甕は長胴化の傾向が顕著であるが、胴部中位に最大径があり、坏との組合せに型式的な矛盾はなく、本住居は古墳時代後期に帰属するものであろう。

SI-16 (図50)

位置：調査区の西端に位置し、SI-15・17・18と重複する。新旧関係は、SI-15よりも新しく、SI-17・18よりも古い。**形状・規模**：辺長は不明であるが、平面形は隅丸で、比較的整った方形をなすようである。確認面から床面までの深さは30cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。**床面**：床面はほぼ平坦で、貼床は敷設せず、地山ローム層を床面としている。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。燃焼施設は、SI-17・18との切り合いによりすでに消滅している可能性が高い。**出土遺物**：遺物は床面付近で、土師器の甕1、甕5、土錘7点のほか若干量の土師器片を検出している(図51)。甕は小型で、底部孔が大きく、胴部は緩やかに内湾しつつ、外反して立ち上がる。器壁が厚く、内面には明瞭な輪積痕を残す。甕は出土数が多いが、定型化していることからいずれも本住居に伴うものであろう。2は全形の判明する資料で、最大径が肩部にあり、小型化した底部を有する。

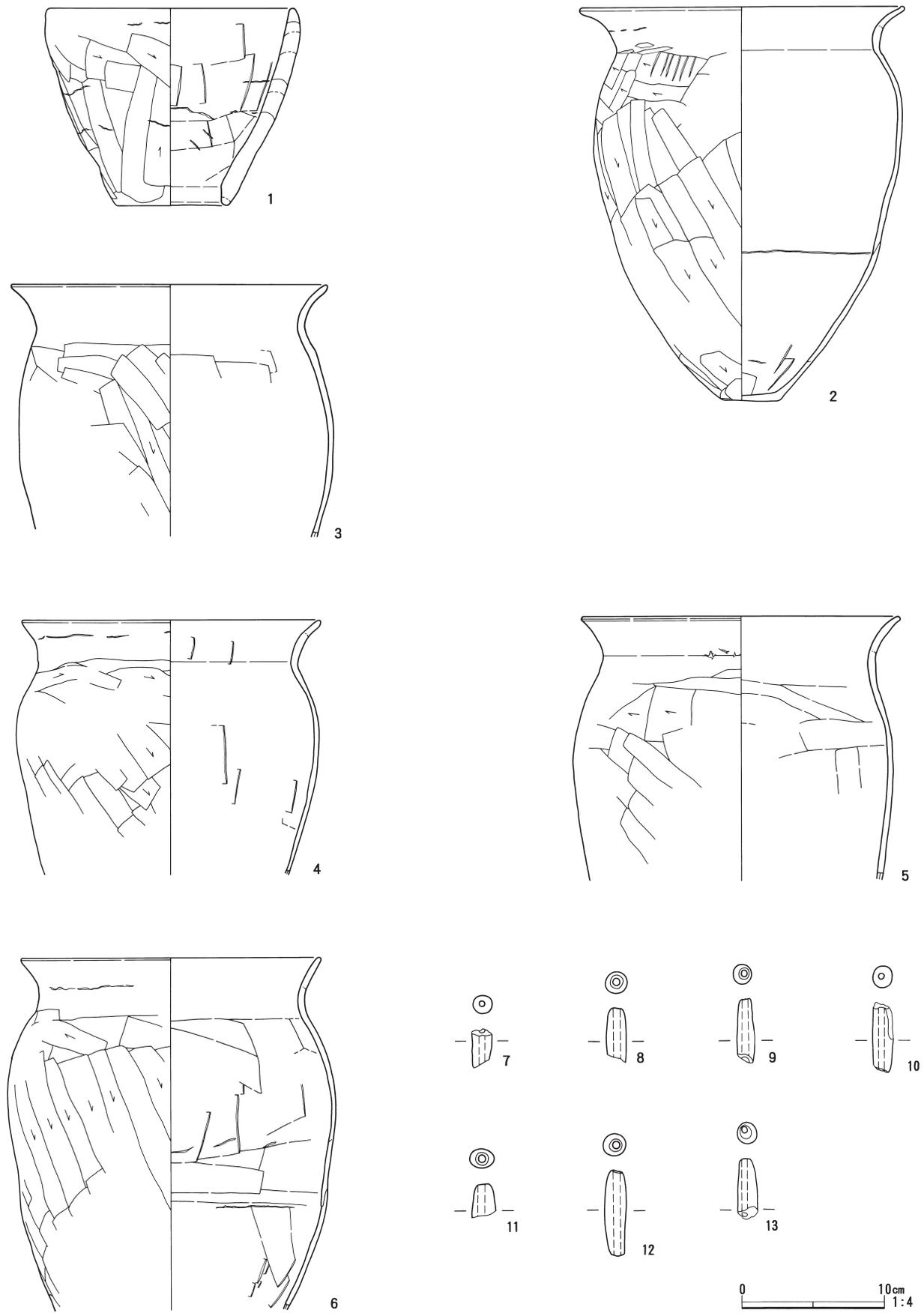


图51 薬師堂東遺跡第2地点 SI-16出土遺物

SI-16 出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甑	口径 17.2 底径 7.7 器高 13.9	単孔式。体部は内湾気味に外傾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面-ヘラナデ。	角閃石・石英・長石・片岩・砂礫 内外-にぶい橙色	3/4以上
2	土師器 甕	口径 22.5 底径 4.1 器高 27.9	小さな平底。胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は「コ」の字状口縁で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部〜底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・暗赤褐色粒 内外-橙色	3/4
3	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 -	口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・暗赤褐色粒 内-明赤褐色 外-橙色	1/4以下 内外面磨耗
4	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 - 器高 -	口縁部は「コ」の字状口縁気味で器厚が薄い。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・微砂粒 内外-橙色	1/4
5	土師器 甕	口径 (22.2) 底径 - 器高 -	口縁部は胴部から緩やかに括れ、口縁部は外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-胴部ヘラナデ。	角閃石・チャート・石英・暗赤褐色粒 内外-橙色	1/4 内面摩耗
6	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 - 器高 -	口縁部は胴部から緩やかに括れ、口縁部は外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	角閃石・暗赤褐色粒 内外-橙色	1/4
No.	種類	器種	法量 (cm・g)		胎土・色調	備考
7	土製品	土錘	長さ：-	幅：1.4 孔径：0.4 重さ：4.78	角閃石・石英 にぶい黄橙色	
8	土製品	土錘	長さ：-	幅：1.4 孔径：0.5 重さ：8.61	赤褐色粒・白色粒 明赤褐色	
9	土製品	土錘	長さ：4.6	幅：1.3 孔径：0.4 重さ：6.92	角閃石・赤褐色粒 褐灰色	
10	土製品	土錘	長さ：-	幅：1.4 孔径：0.4 重さ：11.94	角閃石・チャート にぶい黄橙色	
11	土製品	土錘	長さ：-	幅：- 孔径：0.5 重さ：5.04	赤褐色粒・砂粒 にぶい赤褐色	
12	土製品	土錘	長さ：-	幅：1.4 孔径：0.4 重さ：8.31	角閃石・赤褐色粒 にぶい黄橙色	
13	土製品	土錘	長さ：6.1	幅：1.5 孔径：0.5 重さ：15.14	赤褐色粒・白色粒 明赤褐色	

SI-17 (図50)

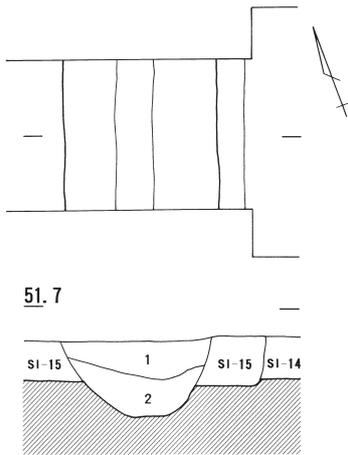
位置：調査区の西端に近く位置し、SI-16・18と重複する。新旧関係は、両住居よりも新しい。**形状・規模**：2辺の壁と西隅を確認できるのみであるが、全体の形状は比較的整った方形を呈するようである。確認面から床面までの深さは50cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、炭化物、焼土ブロックを僅かに含む黒灰褐色土が堆積している。**柱穴**：柱穴は調査の範囲には存在しない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。**出土遺物**：遺物は若干量の土師器片を検出したのみで、出土量はきわめて少ない。

SI-18 (図50)

位置：調査区の西端に位置し、SI-16・17と重複する。新旧関係は、SI-16よりも新しく、SI-17よりも古い。**形状・規模**：南北2辺の壁が平行せず、歪んだ方形を呈するようである。確認面から床面までの深さは40cm前後である。**覆土**：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積している。**柱穴**：柱穴は確認できず、その他の小土坑も検出されていない。**施設**：竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝は、確認できる範囲に認められない。**出土遺物**：遺物は若干量の土師器片を検出したのみで、出土量はきわめて少ない。

4 溝

溝は調査区の南西端で1条(SD-1)を検出した(図52)。走向をN-20°-Eにとり、周辺地形の等高線にはほぼ直交する。調査区の北寄りまでは延長せず、途中で収束するようである。覆土にはロームブロックを含む暗灰褐色土または黒灰褐色土が堆積し、粘性が強いが、流水の痕跡や軽石の混入は認められない。



SD-1 土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性強。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性強。

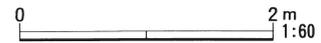


図52 薬師堂東遺跡第2地点 SD-1 平面図および断面図

5 遺構外出土遺物

表土掘削の際に、遺構確認面の上位に存在した攪乱坑などから出土した資料を、遺構外出土遺物として一括した。摩滅が進行した細片が多く、図化できた資料は多くない。4は厚手・粗製の鉢で、ほぼ完形である。8は当遺跡において多く出土する細身で小型の土錘とは異なり、明らかに大型で用いられた網の種類が、小型品とは相違するのだろう。

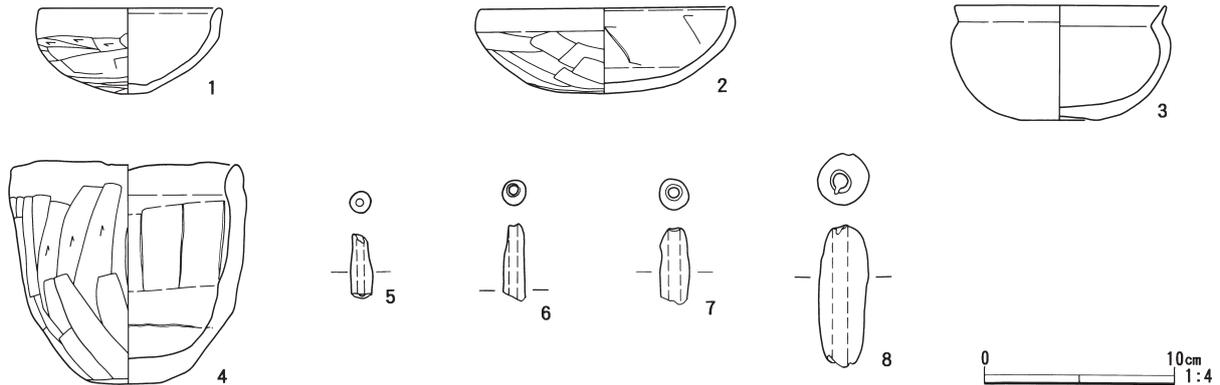


図53 薬師堂東遺跡第2地点遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 杯	口径 9.4 底径 — 器高 4.5	丸底。体部は内湾し、口縁部は上方に向かって立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石・微砂粒 内-橙色 外-にぶい橙色	2/3 外面磨耗
2	土師器 杯	口径 (13.2) 底径 — 器高 4.5	丸底。体部~口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。	角閃石 内外-橙色	1/4 外面磨耗
3	土師器 杯	口径 (11.0) 底径 (4.0) 器高 6.1	平底。体部は内湾し、口縁部で強く屈曲する。口縁部は内斜口縁で短く外傾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	暗赤褐色粒 内外-明赤褐色	1/4 内外面磨耗
4	土師器 鉢	口径 11.8 底径 3.5 器高 11.8	小さな平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は短く上方に立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	角閃石・チャート・長石 内外-橙色	ほぼ完形
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)		胎土・色調	備考
5	土製品	土錘	長さ：—	幅：1.1 孔径：0.4 重さ：3.83	角閃石・暗赤褐色粒 にぶい橙色	
6	土製品	土錘	長さ：—	幅：1.2 孔径：0.5 重さ：5.22	チャート・白色粒 橙色	
7	土製品	土錘	長さ：—	幅：1.5 孔径：0.6 重さ：8.79	角閃石・砂粒 にぶい赤褐色	
8	土製品	土錘	長さ：7.5	幅：2.6 孔径：0.8 重さ：51.43	片岩・赤褐色粒 橙色	

V 御堂坂4号墳の調査成果

1 調査の方法

本節に報告する御堂坂4号墳第1・第2地点の発掘調査は、市道6186、6190、6191号線の改良工事に伴い、記録保存を目的として実施したものである。なお、第3地点として、住宅建設に伴う試掘調査を行っているが、当該地点での検出範囲は、遺構確認面のレベルにとどまる。事前の試掘調査結果から、古墳周堀と石室床面下の構造の一部が遺存することが判明していた。周堀部分の表土は、遺構確認面の直上まで重機により掘削し、そののちに人力で遺構を確認した。石室部分の表土は、すべて人力により掘削した。遺構調査は土層観察用のベルトを残し、覆土の堆積状況を確認しながら人力で進めた。

現地での各種実測作業は、調査区の長軸に沿って要所に杭を設定し、座標および水準を取り付け、これを基準として行った。遺構平面図・土層断面図はすべて1/20を基本として作成した。

2 調査の概要

御堂坂4号墳は、調査以前の段階で、墳丘盛土をすべて失っており、試掘によって初めてその存在が明らかとなった古墳である。第1・第2地点で周堀の一部および横穴式石室の痕跡を検出し、第3地点においても周堀の一部を確認している。一連の調査結果から、埋葬施設として南方向へ開口する横穴式石室を備え、明瞭な掘り込みをもつ周堀をめぐらす直径約22mの規模を有する円墳であることが判明した。また、墳丘には埴輪を樹立し、須恵器甕の供献があったことも推測される。古墳の築造時期は、埋葬施設と埴輪の型式から後期後半と推定される。

3 遺構

墳丘（図56）

墳丘第1段は地山のローム層を削り出して成形している。古墳構築時の表土層と考えられる墳丘部断面の第2層の水準を比較すると、墳丘第1段上面の方が明らかに低い。

墳丘第2段は表土層が、古墳時代の旧表土層を推定される黒色土層を直接被覆する状態であったが、中央部分に横穴式石室の一部が確認された。横穴式石室の基礎構造の一部と思われ、中央を楕円形に残して、旧表土層をローム層上面もしくはその近くまで掘り込み、ドーナツ状の窪みを成形したのち、この部分に礫とロームブロックを混ぜた暗褐色土を敷き込んで転圧を加える作業を行っている。石室を構築した際にかかる重量への耐性を高めるための地盤改造工事と考えられる。また、中央に楕円形に掘り残された旧表土層の上面には、一部に砂礫層の被覆が認められる。石室床構造の最下の一部が遺存したものと推測される。

周堀（図57）

周堀は上幅約5.0m、下幅3.5～4.0mの規模があり、底面は平坦ではなく緩やかに窪んでいる。とくに、第2次調査区の西壁よりでは、調査区外に向かって深さを増しており、局所的に深掘りされる箇所が存在するかもしれない。

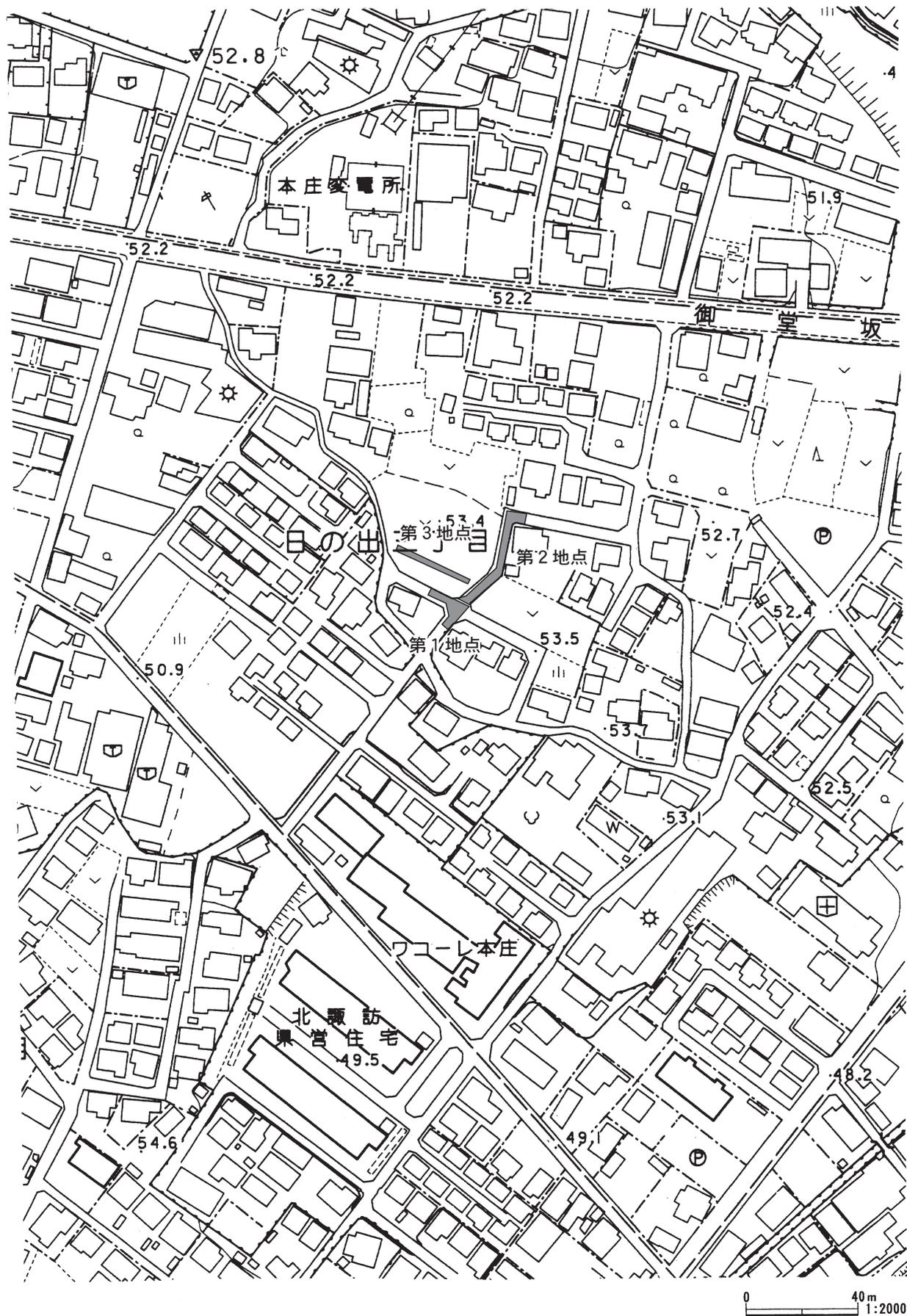


図54 御堂坂4号墳第1・2・3地点の位置

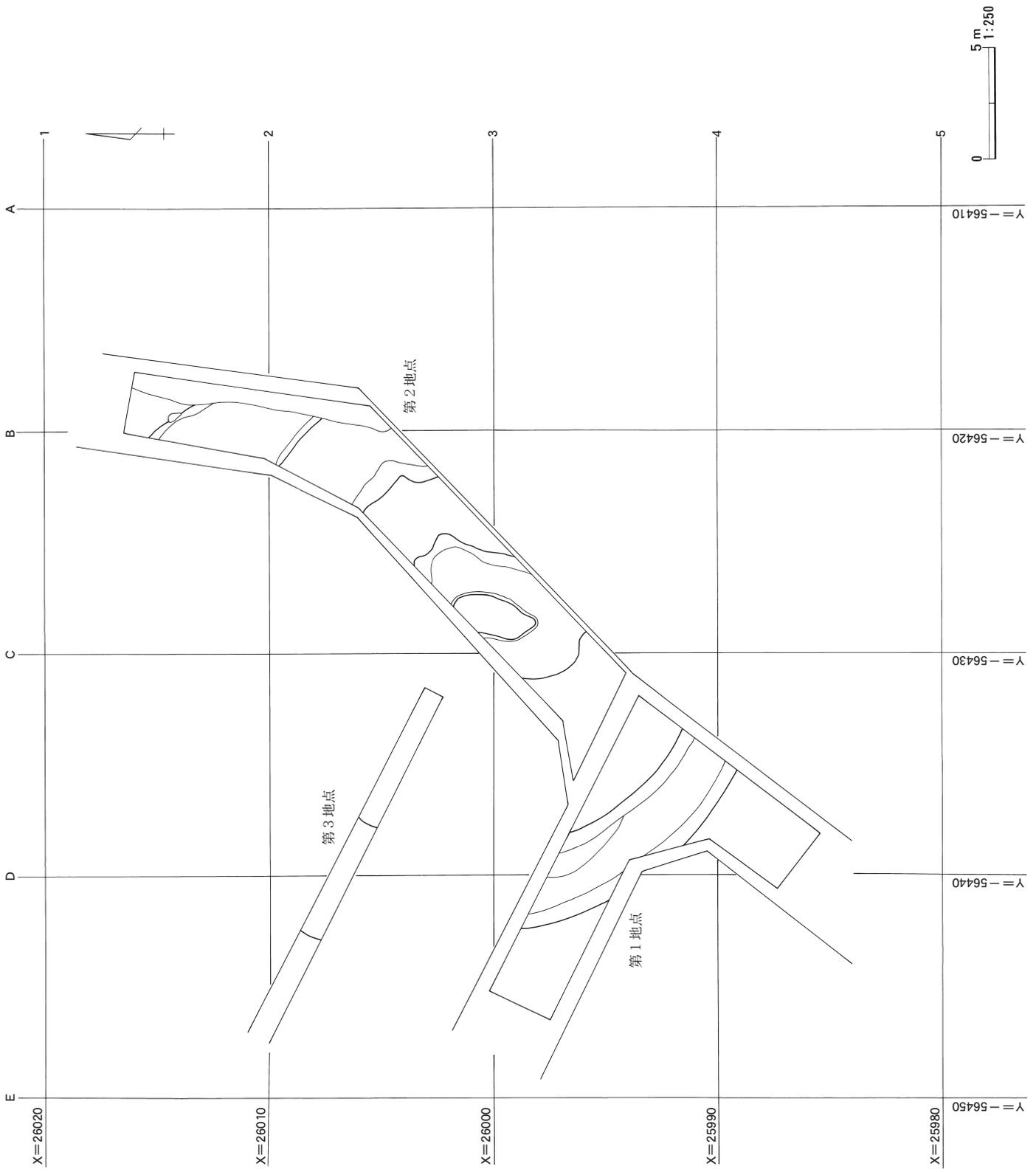
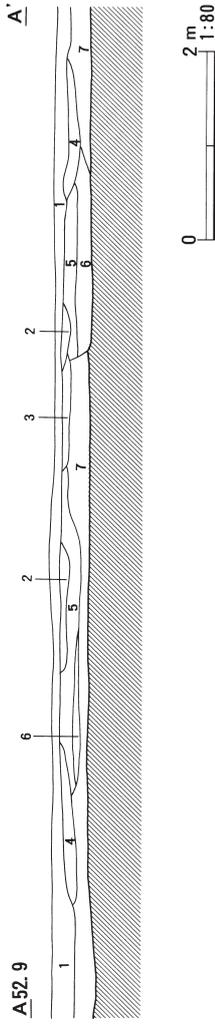
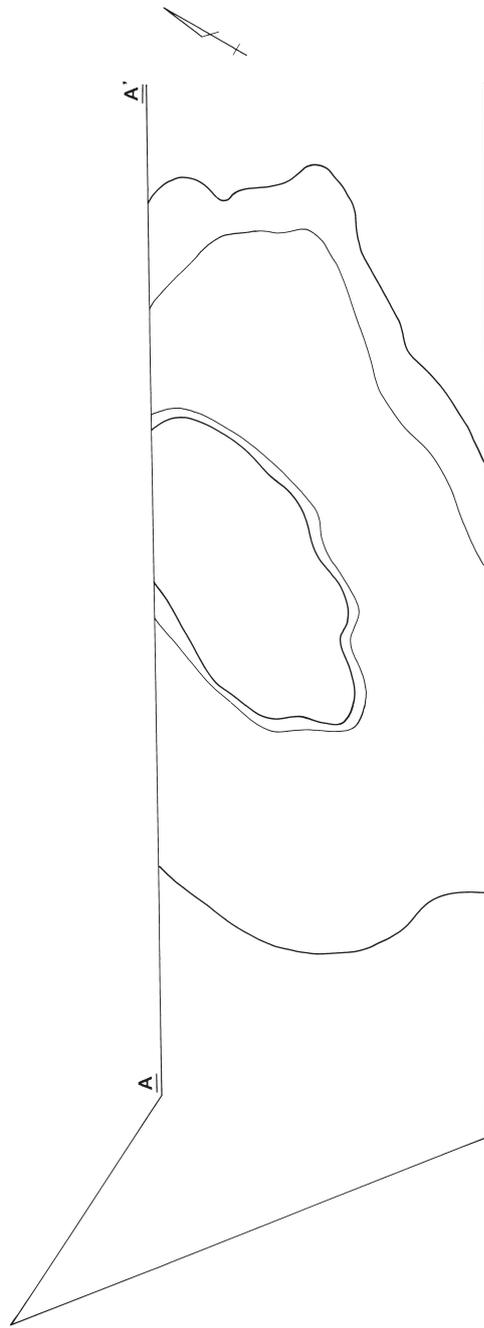


図55 御堂坂4号墳第1・2・3地点の全体図



御堂坂4号墳墳丘部土層説明

- 1 表 土
- 2 黒色土 白色粘質土ブロック (径1~10mm)、ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり強。
- 3 砂礫 (径1~15mm) のみからなる。しまり強。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、斑状をなす。しまり強。
- 5 暗褐色土 礫 (径5~15mm) を多量に含む。粘性・しまり強。
- 6 暗褐色土 礫 (径5~15mm) を多量に含む、ロームブロック (径1mm土) を少量含む。粘性・しまり強。
- 7 旧表土

図56 御堂坂4号墳第2地点墳丘部平面図および断面図

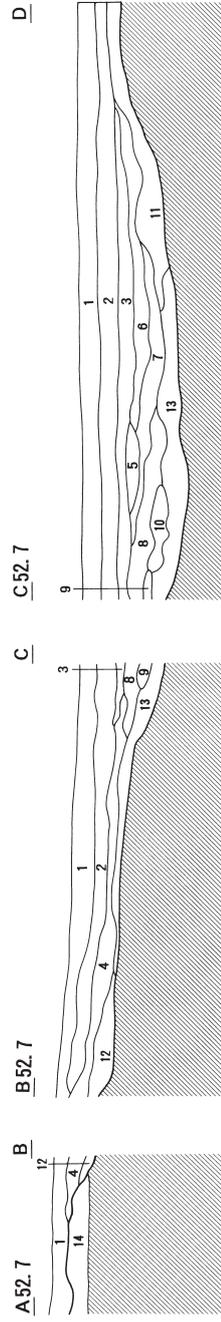
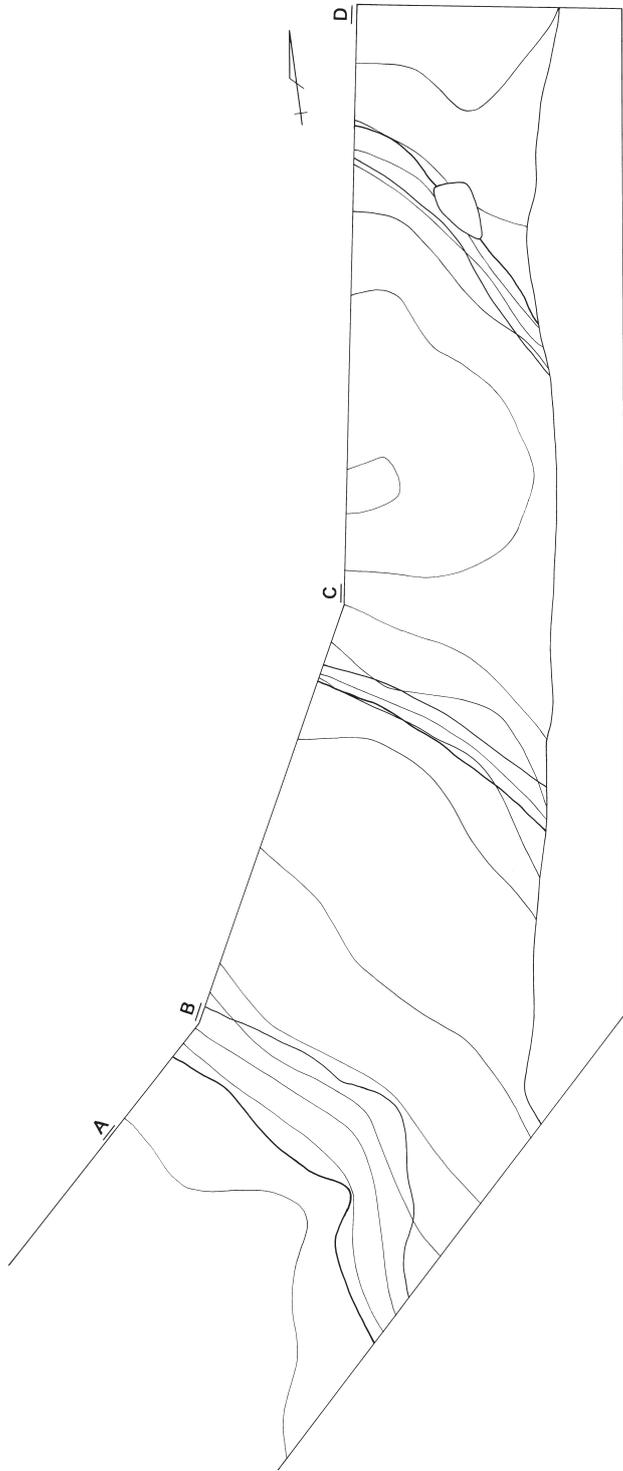


図57 御堂坂4号墳第2地点周堀部平面図および断面図

御堂坂4号墳周堀部A-D土層説明

- | | | |
|--|---------|--|
| 1 表 土 | 8 黒褐色土 | ロームブロック(径1mm±)、黒色土ブロック(径1~20mm)を少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | 9 暗褐色土 | ロームブロック(径1~10mm)を少量含む。 |
| 白色パミス(径1mm±)ロームブロック(径1mm±)を少量含む、暗褐色土ブロック(径1~20mm)を多量に含む。 | 10 暗褐色土 | ロームブロック(径1~20mm)を少量含む。 |
| 3 黒色土 | 11 暗褐色土 | ロームブロック(径1~10mm)、砂礫(径1~5mm)を少量含む。 |
| ロームブロック(径1mm±)を少量含む。 | 12 暗褐色土 | ロームブロック(径1~10mm)を多量に含む。 |
| 4 黒褐色土 | 13 暗褐色土 | ロームブロック(径1~10mm)、白色粘質土ブロック(径1~5mm)を少量含む。 |
| ロームブロック(径1mm±)、黒色土ブロック(径1~20mm)を少量含む。 | 14 黒色土 | 旧表土層。 |
| 5 暗褐色土 | | |
| ロームブロック(径1mm±)を少量含む。 | | |
| 6 黒色土 | | |
| As-B(径1~2mm)、ロームブロック(径1mm±)を少量含む。 | | |
| 7 黒色土 | | |
| As-B(径1~2mm)を多量に含む、ロームブロック(径1mm±)を少量含む。 | | |

覆土は下層にロームブロック、礫、白色粘質土ブロックなどを含む暗褐色土、上層にロームブロックを少量含む黒色土ないし黒褐色土の堆積が認められる。また、6・7層にはAs-Bの混入が確認され、とくに7層には多量に含まれ、全体にザラザラとした感触がある。

4 遺物

遺物は第2次調査地点においてのみ出土している。周堀覆土から土師器片、須恵器片、円筒埴輪片、各種形象埴輪片がある。また、表土からもわずかな埴輪片を採集している。ただし、後者については本来の帰属が不明であり、遺構外出土資料として別に記述する。

土器(図58)

1は土師器杯の破片である。体部との境界に稜を形成し、口縁部が短く直立する。外面ともナデ調整により丁寧仕上げられている。胎土は精良で、砂粒をほとんど含まない。焼成はやや軟質で、色調は橙褐色を呈する。2~5はいずれも須恵器甕の小片である。法量を推測できるほどの資料は認められないが、厚みに差があり、大きさの異なる複数の個体が存在したことがわかる。2は口縁部の破片で、外面に櫛描による波状文が観察される。3~5は胴部の破片である。4・5の内面には青海波状の当具痕が観察される。

円筒埴輪(図59)

円筒埴輪は全形の判明する資料に恵まれないが、推定される径の大きさから、いずれも二条突帯三段構成品と考えられる。朝顔形埴輪の肩部や口縁部にあたる破片は見られないが、円筒埴輪と報告し

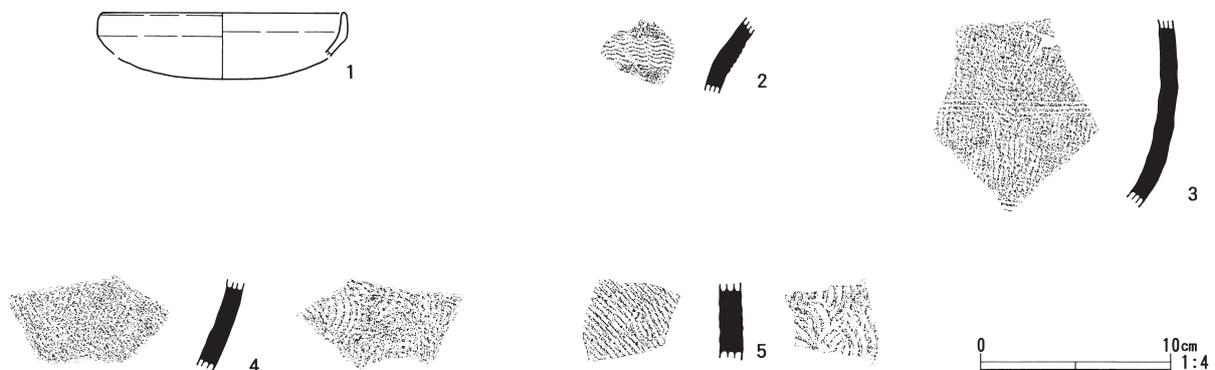


図58 御堂坂4号墳第2地点出土遺物(1)

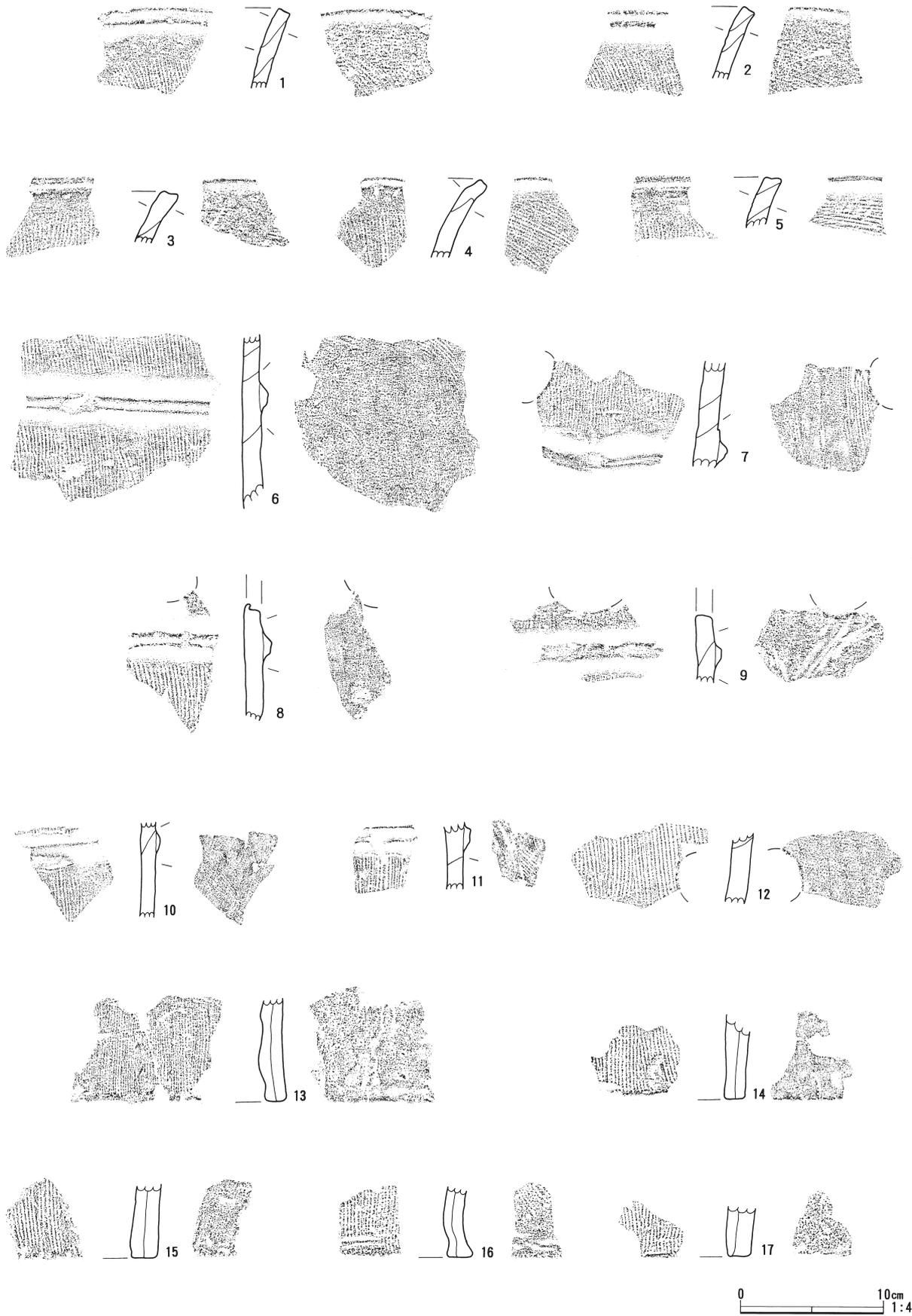


图59 御堂坂4号墳第2地点出土遺物(2)

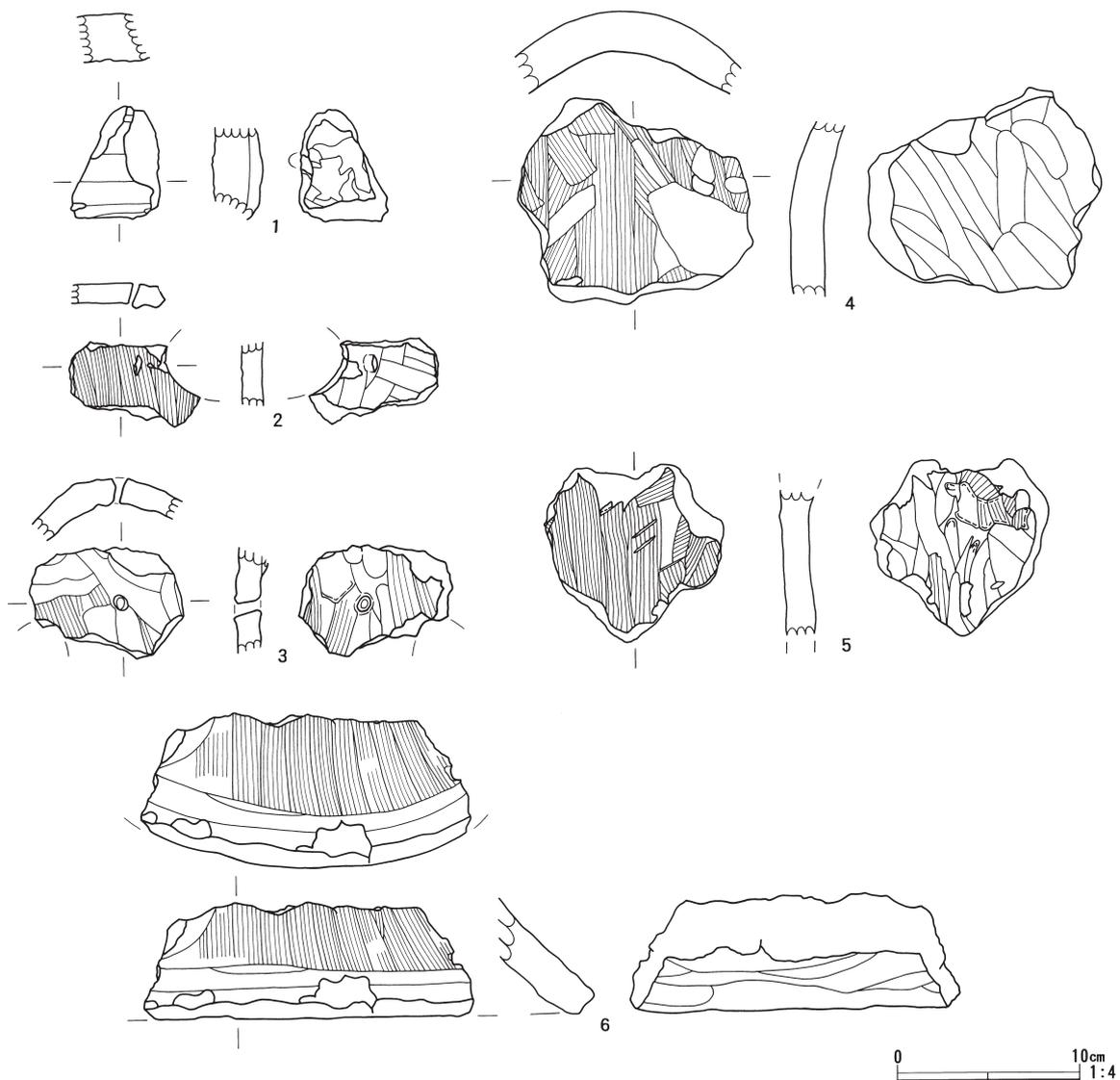


図60 御堂坂4号墳第2地点出土遺物(3)

た資料には、朝顔形埴輪の胴部が含まれる可能性はある。1～5は口縁部を含む最上段破片である。内面調整は斜位または横位のハケである。口唇部には各面とも丁寧なナデが加えられ、内面と端面には、わずかな凹面が形成される。6～11は突帯を含む破片である。幅が狭く、突出度の低い形状を特徴とする。7・8・9・12は透孔を含む破片である。形状はすべて円形で、鋭く切り抜かれている。13～17は基部の破片である。上位に比べ器壁が厚く、断面の観察から基部整形を行っている可能性がある。

形象埴輪 (図60)

1は家形埴輪の一部と思われ、厚く平らな粘土板の上に、幅広の突帯が貼付される。2～5は器種不明ながら器財の一部である可能性が考えられる。6は人物埴輪の上衣の裾部である。

遺構外出土遺物 (図61)

すべて埴輪片であるが、器種の判明する資料は含まれない。1・4・5は器壁が厚い。1には比較

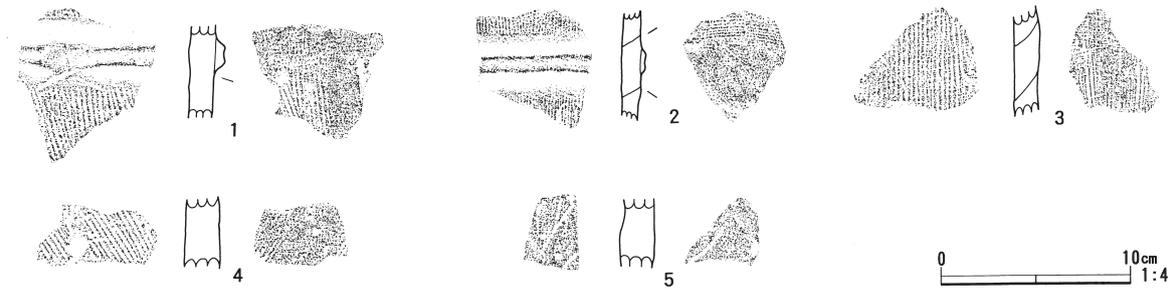


図61 御堂坂4号墳第2地点出土遺物(4)

的幅が広く、突出度の高い突帯が観察される。また、5には斜め方向の刻線が見られる。御堂坂4号墳に伴う他の出土資料とは趣の異なる個体が含まれている。胎土には、いずれも砂礫を多く含み、焼成は良好で、色調は暗橙色を呈する。

VI 結 語

本庄2号遺跡は、本庄台地北側の低地帯に展開する古代の集落遺跡である。本庄2号遺跡の西側には、石神境遺跡があり、本庄2号遺跡とは一連の集落遺跡を形成するものであろう。石神境遺跡では、断片的ながら、これまでに10基以上の竪穴住居を検出しており、それらの帰属時期は、いずれも奈良時代以降であることが判明している。周辺低地帯に立地する集落の性格については、未明な部分が多いものの、石神境遺跡では、大量の土師器坏を投棄した遺構が検出され、これらのなかに焼成不良品が多数含まれていることから、新たな土師器生産技術者の移入を契機として、進出した集団も存在したのであろう。

薬師堂東遺跡の調査では、2箇所の調査地点において、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居計25基が検出された。薬師堂東遺跡では、試掘調査地点等においても、各所で古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居の存在が確認されており、遺跡のほぼ全面にわたって高密度に分布している状況が明らかとなっている。また、薬師堂東遺跡の西方には、一連の集落遺跡と考えられる薬師堂遺跡、本庄飯玉遺跡、天神林Ⅱ遺跡、天神林遺跡があり、さらに、開析谷を挟んで、西方に延びる本庄台地の縁辺部にも同様の遺跡が集中し、本庄城跡遺跡、本庄15号遺跡など遺構密度の高い集落遺跡がほぼ切れ目なく連続している。薬師堂東遺跡の東方にあって、これまで形成年代の不明であった南御堂坂遺跡においても、近年の調査で同時期の高密度集落が確認されており、本庄台地北縁部は、古墳時代後期以降、平安時代まで、500年余にわたって、居住域としての土地利用がなされていたことが確認される。なお、これら一連の集落遺跡では、各時期の住居で、土錘の検出される確率が高い。台地直下には、現在でも元小山川が東流しており、古墳時代から平安時代にかけての時期においても、台地末端の湧水を集めた小河川が流下していたことを想定しうるところであり、当地の集落に居住した人々の生業の一端を窺うことができる。

御堂坂古墳群は、4号墳に先行して調査が行われた1・2号墳と、未調査のまま消滅した3号墳(山屋稲荷古墳)の4基で構成される、比較的小規模な古墳群である。1・2号墳はともに角閃石安山岩を使用した胴張型横穴式石室を備え、埴輪を伴わず、さらに出土した鉄鏃の型式などから、築造時期は古墳時代終末期に下ることが指摘されている(増田1990・松本2002)。これに対し、4号墳は、埋葬施設には同じ胴張型横穴式石室採用するものの、埴輪を有することが明らかで、築造時期は古墳時代後期後半まで遡る。3号墳の築造時期は、未解明であり、今後の課題として残るが、現状において確認できる御堂坂古墳群の造営期間は、古墳時代後期後半から終末期前半であり、典型的な後期群集墳としての形態を示している。

御堂坂4号墳では、円筒・朝顔形埴輪以外に、形象埴輪片が一定量出土している。器種を特定できない破片も含まれるが、小型の円墳ながら、家・器財・人物・馬など各種形象埴輪を備えていたものと考えたい。埴輪の生産遺跡を特定できるまでの材料は検出できていないが、市内東五十子所在の赤坂埴輪窯跡や北堀所在の宥勝寺裏埴輪窯跡などが、その候補として想定される。須恵器は小型甕の破片が中心であり、石室開口部もしくは墳丘裾の一隅において行われた祭祀行為に伴う土器類の一部と認定しうる。

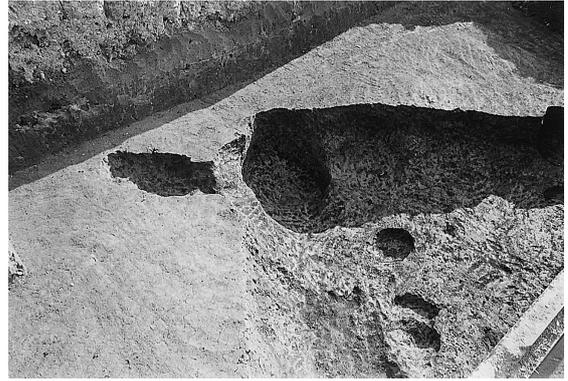
【文 献】

- 浅野一郎 1999 『大久保山Ⅴ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告5 早稲田大学本庄校地文化財調査室
- 新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』No.157 ニューサイエンス社
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『塩原屋敷遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第32集 本庄市教育委員会
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『旭・小島古墳群－林地区Ⅰ－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第3集 本庄市教育委員会
- 太田博之 2009 『雌濠Ⅱ・笠ヶ谷戸・小島本伝』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 本庄市教育委員会
- 大熊季広 2010 『小島本伝遺跡Ⅱ・旭・小島古墳群』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 本庄市教育委員会
- 岡本健一 2003 「埼玉県における後期前方後円墳の展開」『後期古墳の諸段階』第8回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料 東北・関東前方後円墳研究会
- 恋河内昭彦 1996 『辻堂遺跡Ⅰ－県営水田農業確立排水対策特別事業（やぼり川地区）に伴う辻堂遺跡B地点発掘調査報告書－』児玉町文化財調査報告書第19集 児玉町教育委員会
- 2009 『七色塚遺跡Ⅱ（B1地点）・北堀新田前遺跡（A1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 本庄市教育委員会
- 昆 彭生 2001 『大久保山Ⅷ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告9 早稲田大学本庄考古資料館
- 坂本和俊 1985 「埼玉県における円筒埴輪編年の諸問題」『埴輪の変遷－その普遍性と地域性－』北武蔵古代文化研究会
- 塩野 博 2004 『埼玉の古墳』さきたま出版会
- 広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成畿内編』山川出版社
- 増田一裕 1990 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅳ－御堂坂2号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第16集 本庄市教育委員会
- 松本 完 2002 『本庄遺跡群発掘調査報告書－御堂坂第1号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第24集 本庄市教育委員会
- 2009 『浅見山Ⅰ遺跡（Ⅲ次）・久下東遺跡（Ⅲ次）A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 本庄市教育委員会
- 2010 『久下前遺跡Ⅲ（C1地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A1地点）・宍勝寺北裏遺跡Ⅲ（A1・B1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集 本庄市教育委員会
- 山本千春 2005 『城山遺跡』本庄市遺跡調査会報告第12集 本庄市遺跡調査会
- 2013 『南御堂坂遺跡』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第35集 本庄市教育委員会
- 和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第五巻近畿Ⅰ 角川書店

写 真



本庄2号遺跡 SI-1 検出状況 [東から]



本庄2号遺跡 SI-1 検出状況 [北から]



本庄2号遺跡 SI-1 検出状況 [北東から]



本庄2号遺跡 SI-1 検出状況 [南西から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況 [南西から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況 [北東から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 検出状況 [北東から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 検出状況 [東から]

写真2



薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 検出状況 [南から]



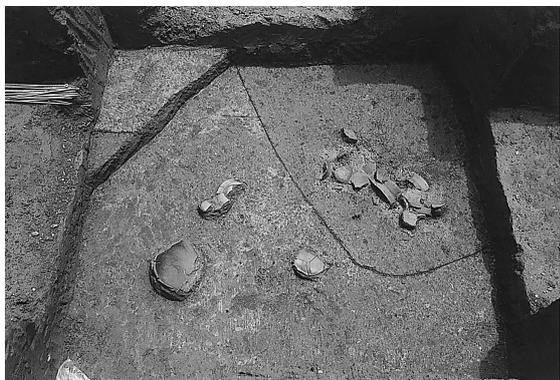
薬師堂東遺跡第2地点 SI-4・7・8 検出状況 [西から]



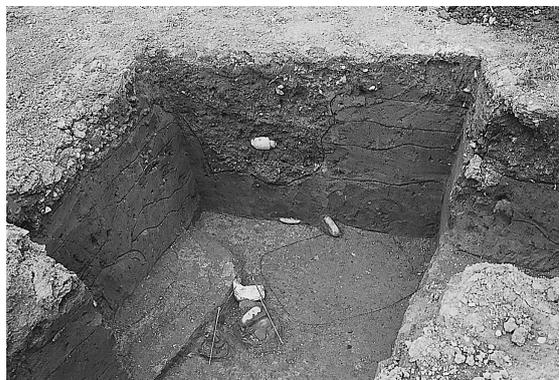
薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 検出状況 [西から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 検出状況 [西から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-6・7・8 検出状況 [西から]



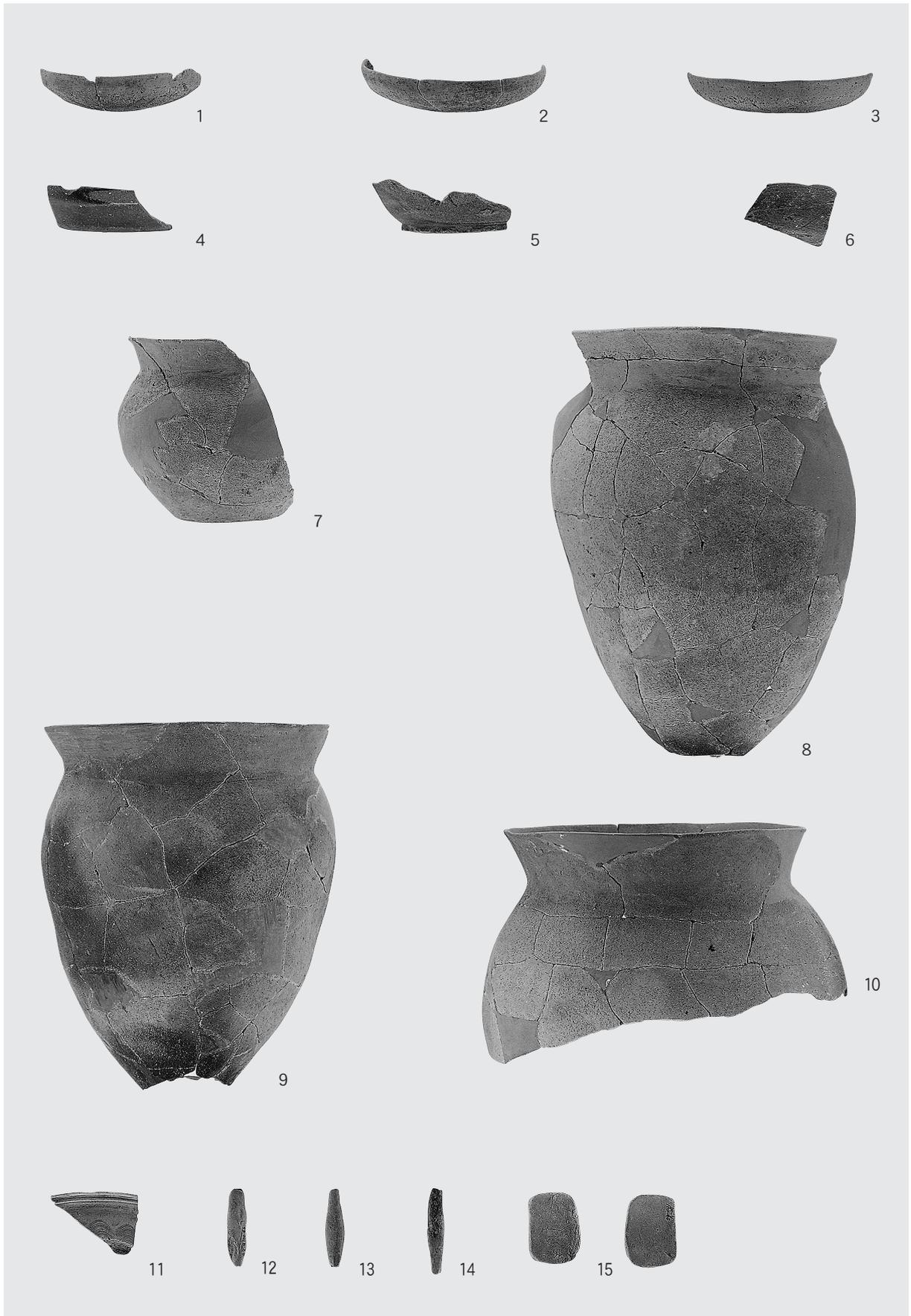
薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 検出状況 [北から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-14 検出状況 [北西から]



薬師堂東遺跡第2地点 SI-15 検出状況 [西から]

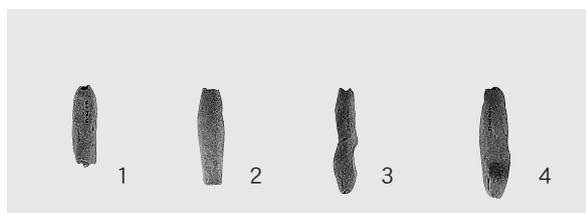


薬師堂東遺跡第1地点 SI-1 出土遺物

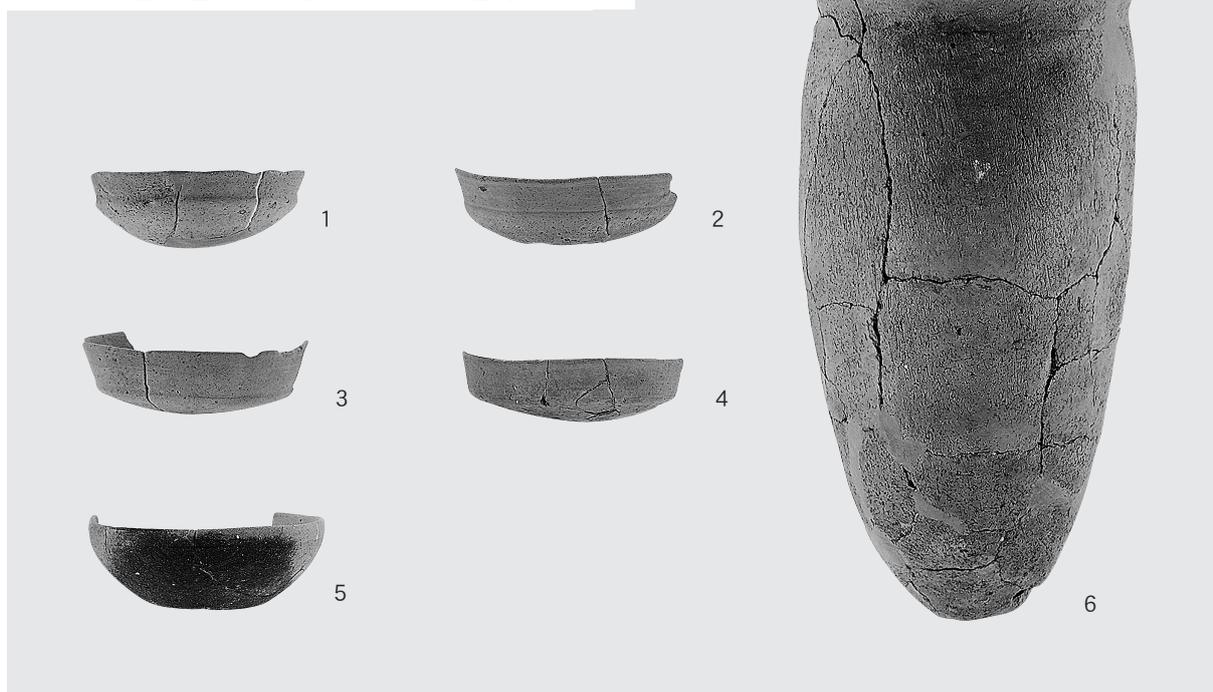
写真4



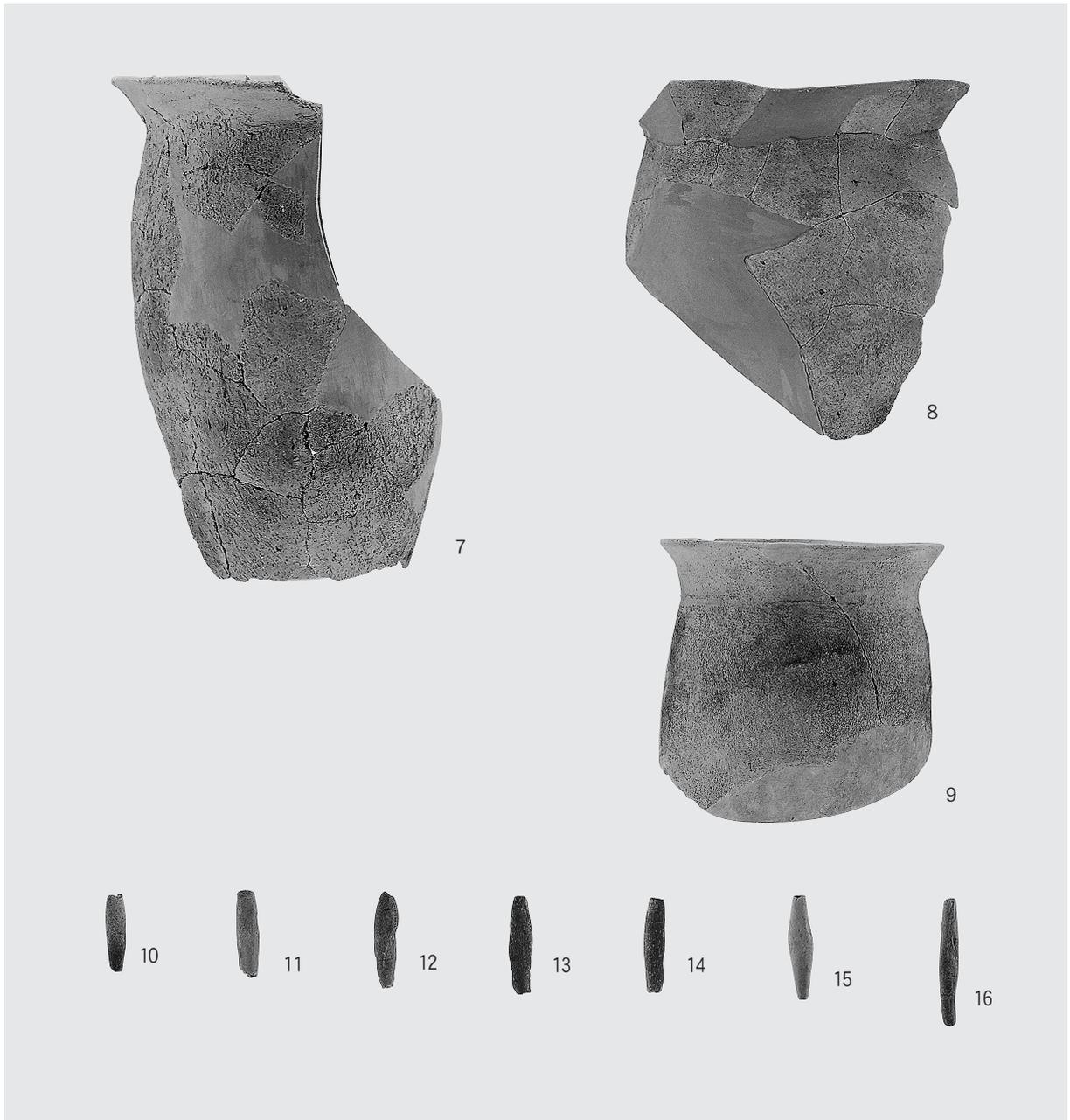
薬師堂東遺跡第1地点 SI-2 出土遺物



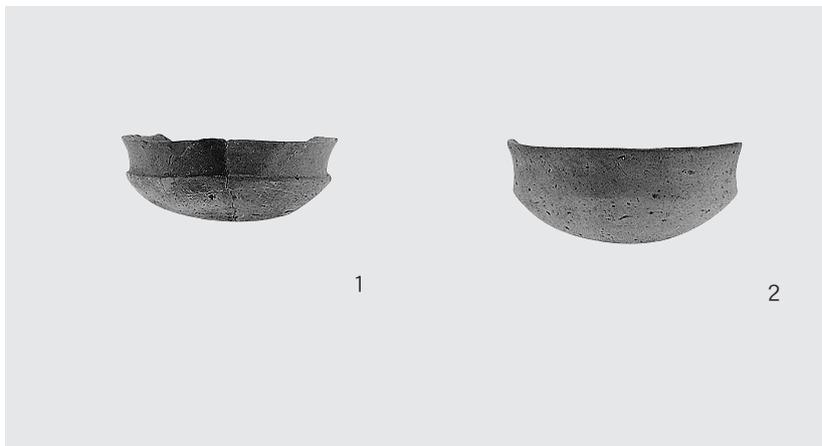
薬師堂東遺跡第1地点 SI-3 出土遺物



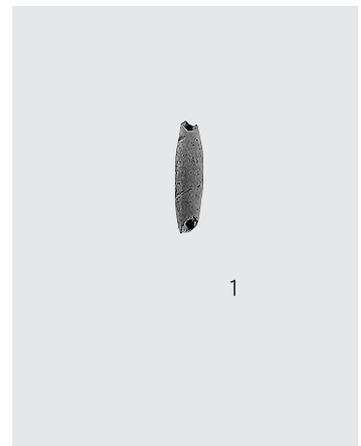
薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 出土遺物(1)



薬師堂東遺跡第1地点 SI-4 出土遺物(2)



薬師堂東遺跡第1地点 SI-6 出土遺物

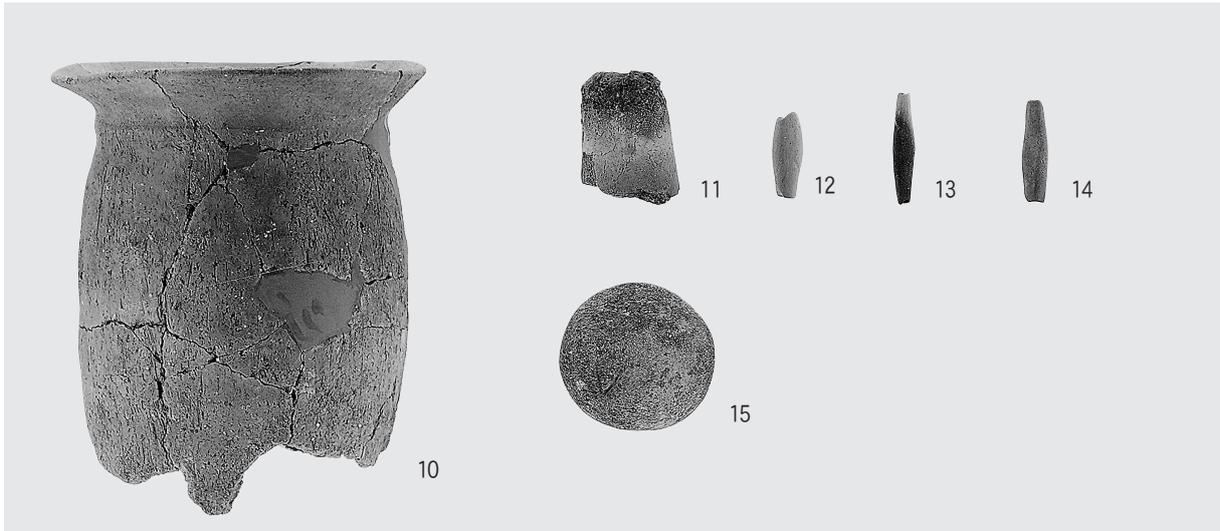


薬師堂東遺跡第1地点 SI-7 出土遺物

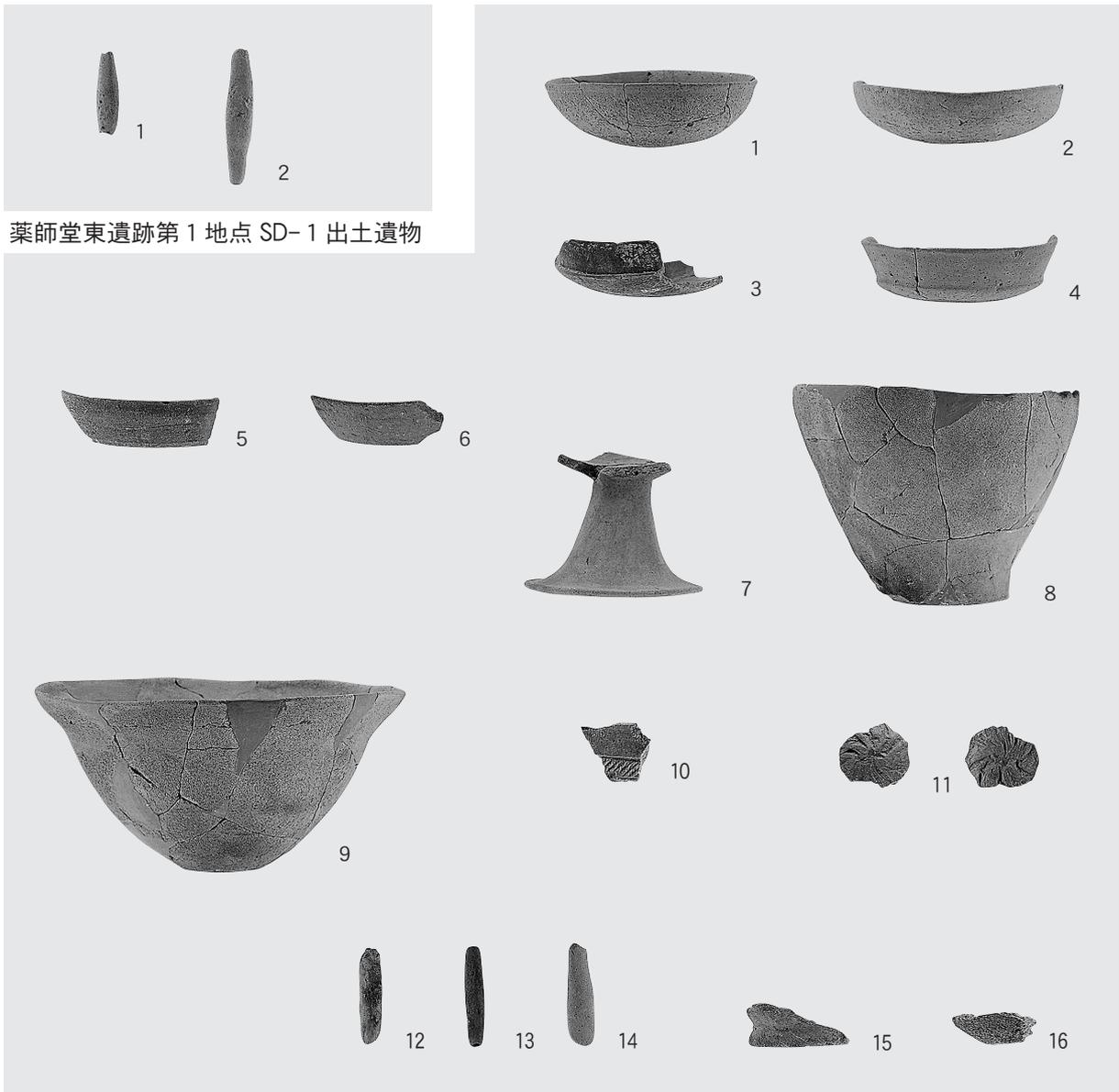
写真6



薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物(1)



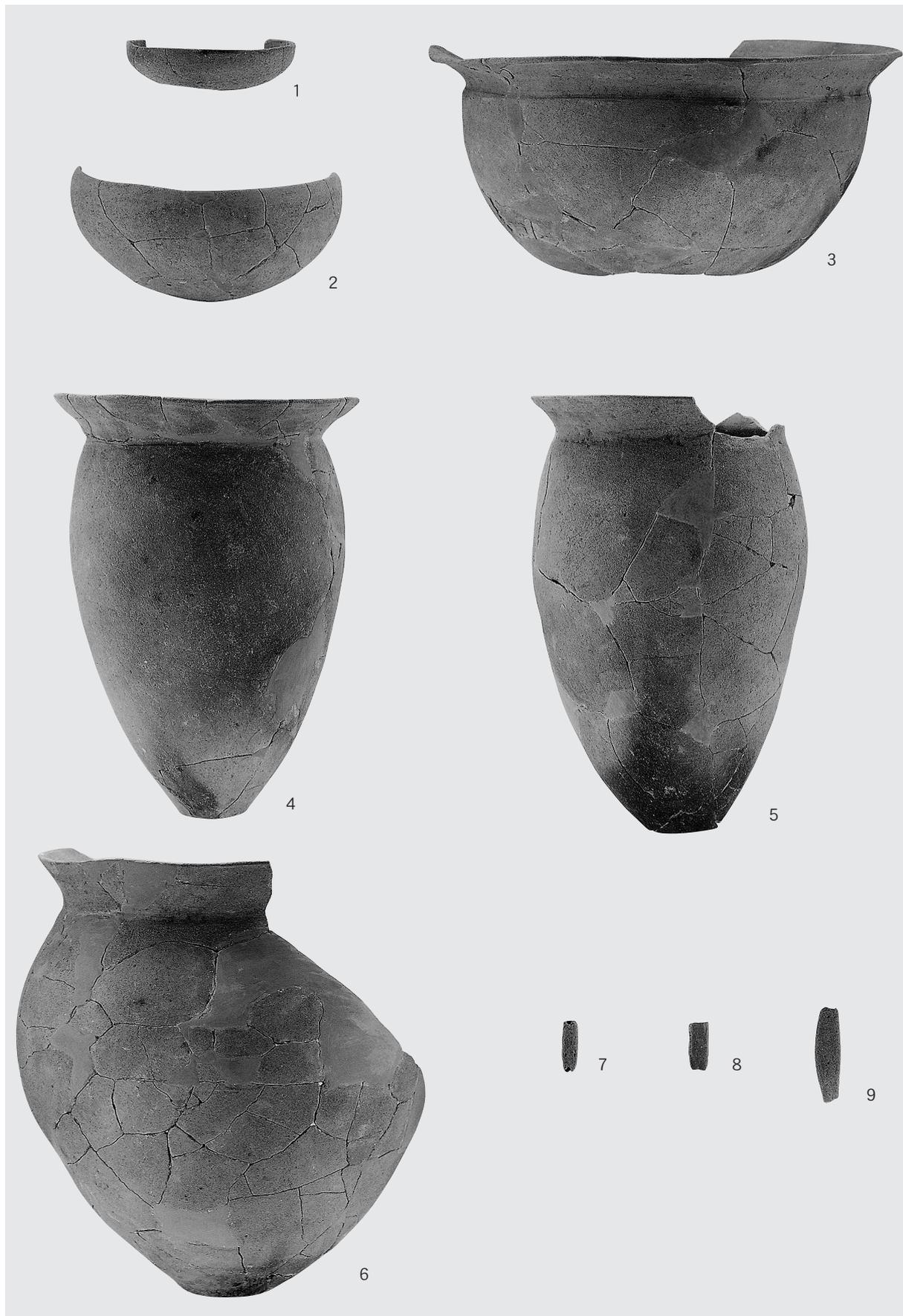
薬師堂東遺跡第1地点 SK-6 出土遺物(2)



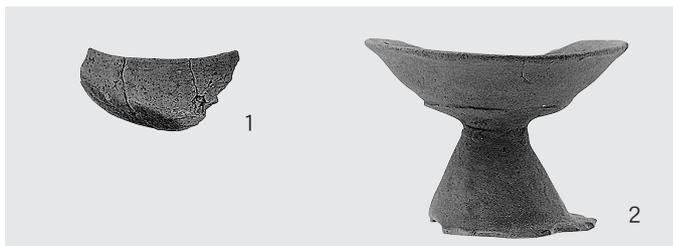
薬師堂東遺跡第1地点 SD-1 出土遺物

薬師堂東遺跡第1地点グリッド出土遺物

写真8



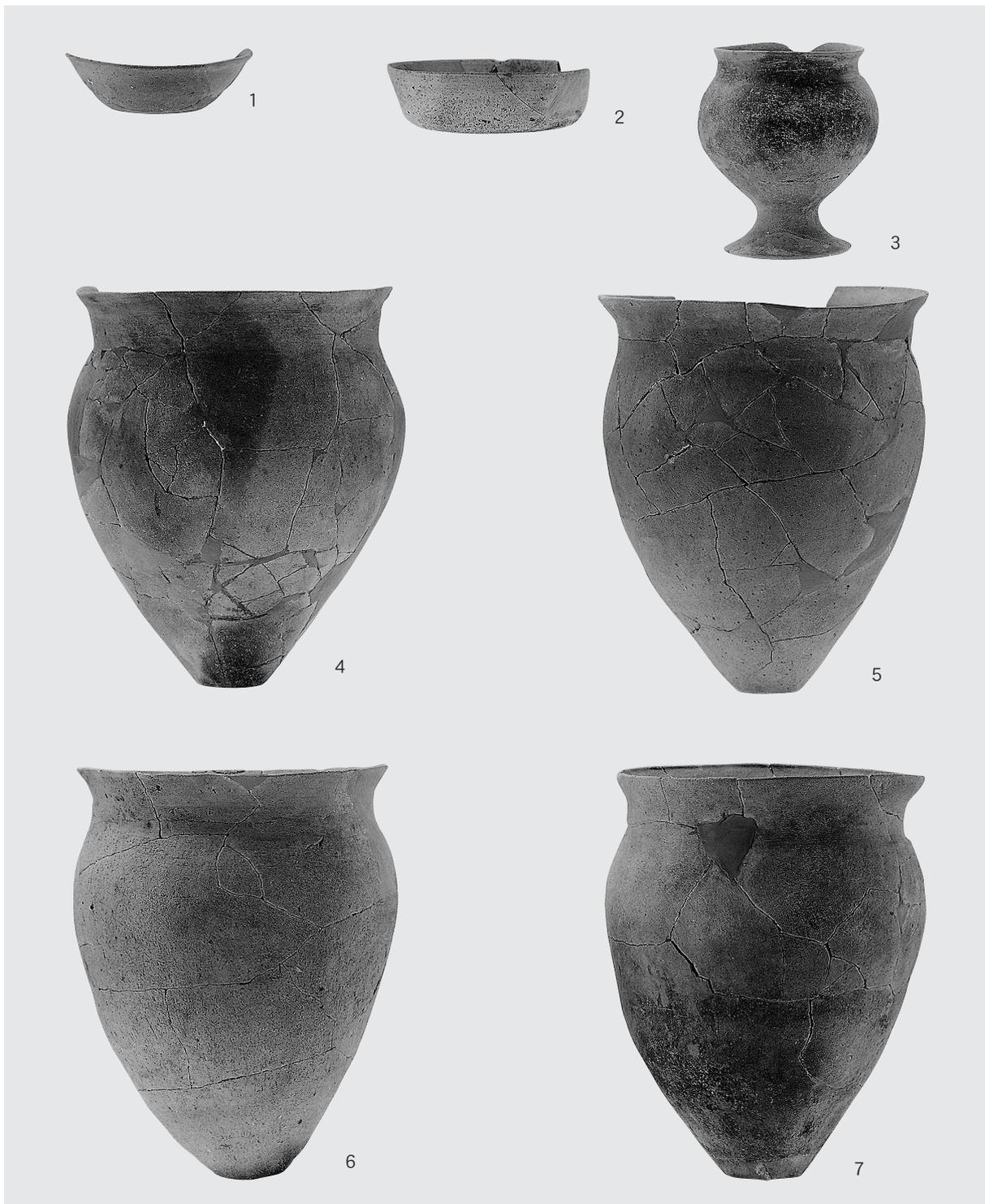
薬師堂東遺跡第2地点 SI-1 出土遺物



薬師堂東遺跡第2地点 SI-2 出土遺物

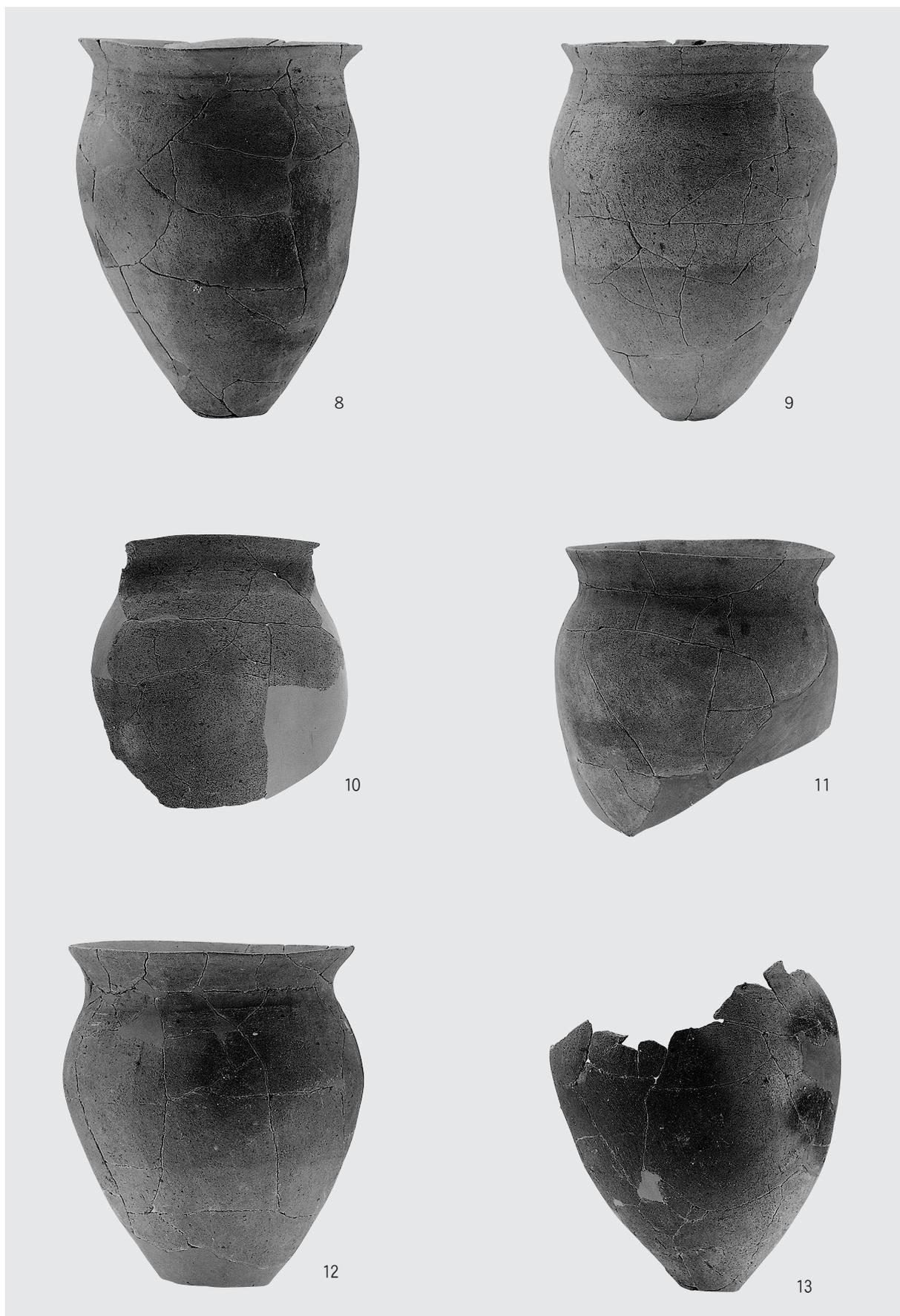


薬師堂東遺跡第2地点 SI-3 出土遺物

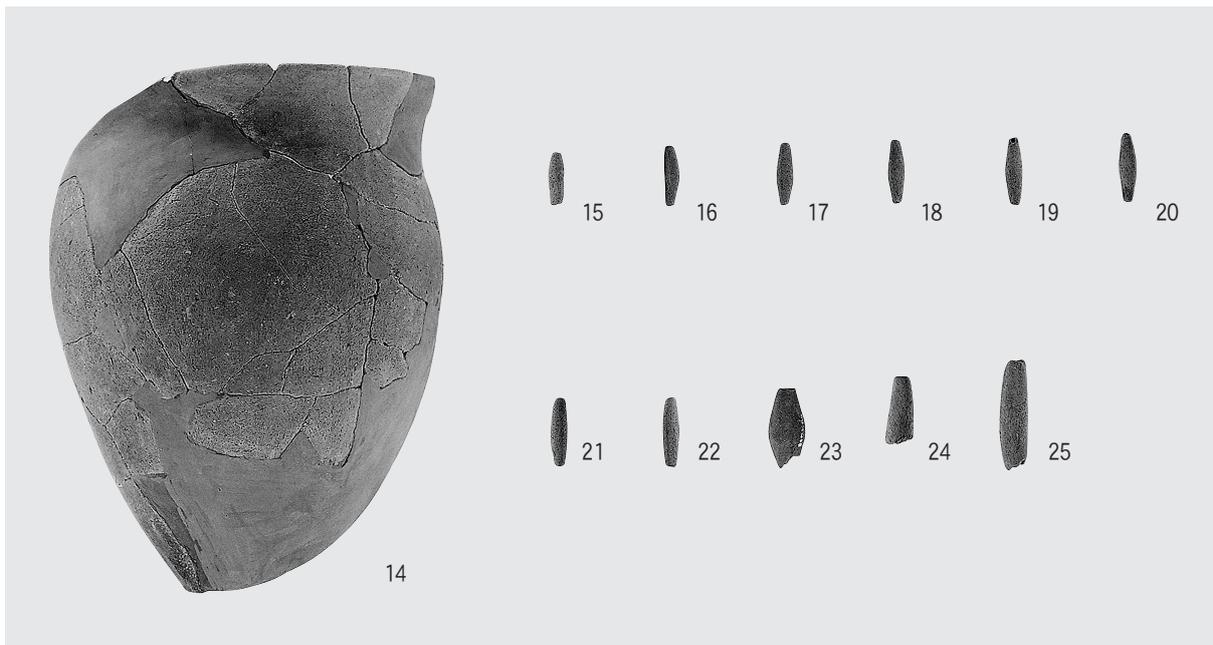


薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(1)

写真10



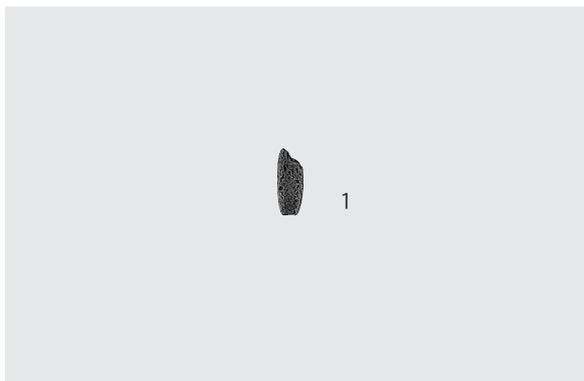
薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(2)



薬師堂東遺跡第2地点 SI-4 出土遺物(3)



薬師堂東遺跡第2地点 SI-5 出土遺物

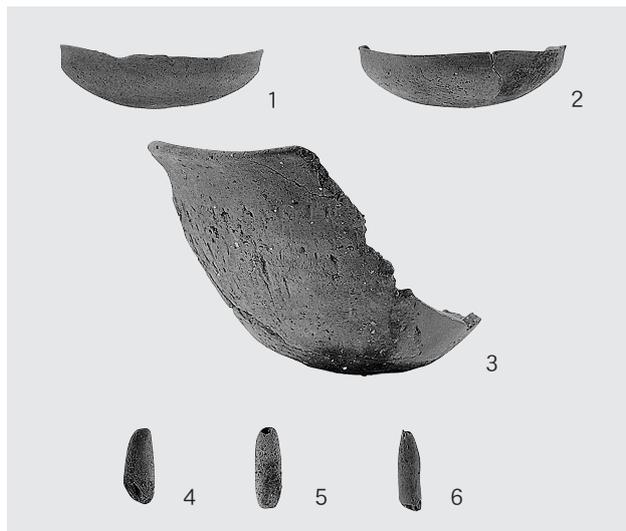


薬師堂東遺跡第2地点 SI-7 出土遺物

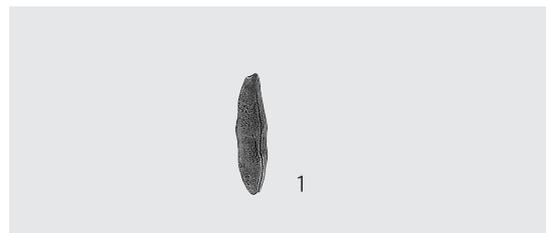


薬師堂東遺跡第2地点 SI-6 出土遺物

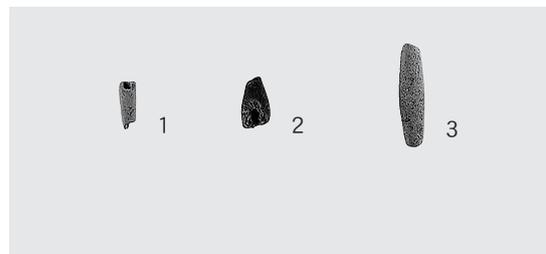
写真12



薬師堂東遺跡第2地点 SI-8 出土遺物



薬師堂東遺跡第2地点 SI-9 出土遺物



薬師堂東遺跡第2地点 SI-11出土遺物



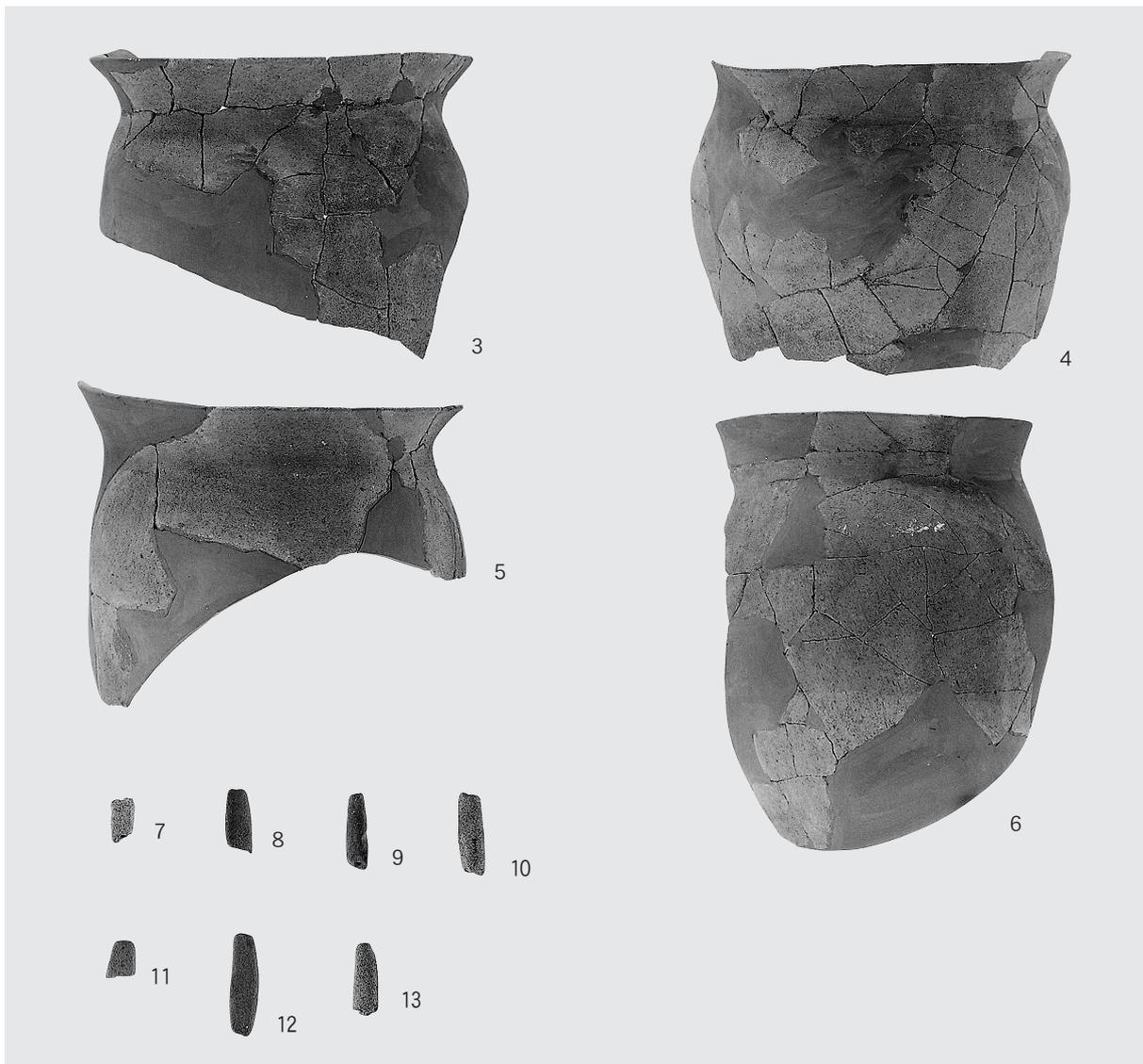
薬師堂東遺跡第2地点 SI-14出土遺物



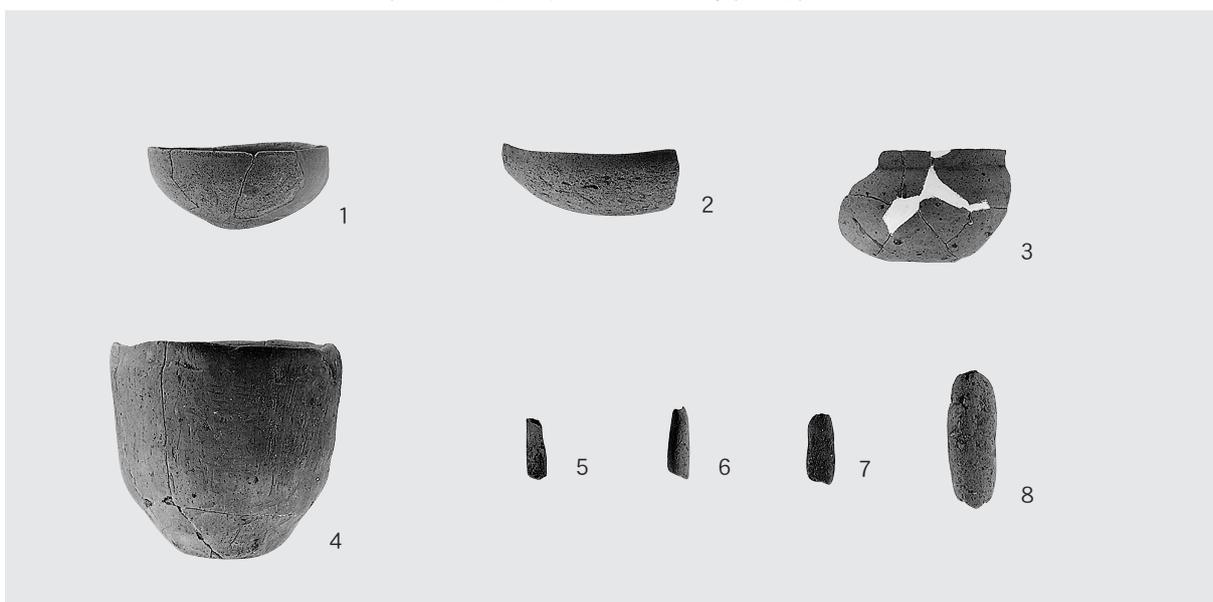
薬師堂東遺跡第2地点 SI-15出土遺物



薬師堂東遺跡第2地点 SI-16出土遺物(1)



薬師堂東遺跡第2地点 SI-16出土遺物(2)



薬師堂東遺跡第2地点遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ほんじょうにごう やくしどうひがし みとざか							
書名	本庄2号遺跡・薬師堂東遺跡（第1・第2地点）・御堂坂4号墳							
副書名								
巻次								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第33集							
編著者名	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会 電話0495-25-1185							
発行年月日	西暦 2013（平成25）年3月29日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
本庄2号遺跡	埼玉県本庄市 小島地内	112119	002	36°14′50″	139°10′20″	19901217 ～19901228	16㎡	道路建設
薬師堂東遺跡 (第1・第2地点)	埼玉県本庄市 日の出4丁目 地内		021	36°14′10″	139°12′10″	19920317 ～19920402	160㎡	学校建設
						19970626 ～19970711	211㎡	学校建設
御堂坂4号墳	埼玉県本庄市 日の出3丁目 地内		024	36°14′05″	139°12′15″	19911111 ～19911220	260㎡	道路建設
						19930212 ～19930223	190㎡	道路建設
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
本庄2号遺跡	集落	古代		住居		土師器・須恵器ほか		
薬師堂東遺跡 (第1・第2地点)	集落	古墳時代～古代		住居・土坑・溝		土師器・須恵器・土錘 ほか		
御堂坂4号墳	古墳	古墳時代後期		古墳周堀・石室		埴輪		

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第33集

**本庄2号遺跡・薬師堂東遺跡(第1・第2地点)・
御堂坂4号墳**

平成25年3月28日 印刷

平成25年3月29日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1185

印刷 株式会社タカサキ印刷